

14.2イ-518



\*1200701608180\*

14.2イ

518



始



2278



度  
愛媛縣水產試驗場業務報告



昭和三年度愛媛縣水產試驗場業務報告

鮪延繩漁業試驗

一、趣旨

大正十四年度ヨリノ繼續事業ニシテ本縣從來ノ鯉漁業ノ救濟ト行詰マレル現在ノ瀬戸内海漁業ヲシテ遠洋漁業ニ轉化シ以テ本縣漁業ノ開發ヲ期セムトス

二、期間

自昭和三年十二月一日至昭和四年三月末日

三、場所

鹿兒島縣沖合ヨリ和歌山縣沖合ニ亙ル海區

四、方法

左記條件ヲ以テ縣下温泉郡三津濱町石崎實三郎、喜多郡長濱町青島赤穂善三郎、南宇和郡東外海村深浦井村品藏ノ三名ト本場トノ協同試驗トナス

第一 漁場及根據地撰定其ノ他本漁業實施ニ對シテハ總テ本場ノ指定通リトナス  
第二 期間 昭和三年十二月ヨリ昭和四年三月末日迄トス

7-278

第三 右期間中ニ於ケル左記事項ハ總ベテ協同者ノ負擔トス

イ、航海及漁業用諸消耗品及氷餌料代

ロ、漁具補修費

ハ、漁夫給料及賞與

ニ、試験終了後ニ於テ純益金ヲ生シタル場合ハ本場ト協同者ト折半ス

ホ、試験終了後ニ於テ損失ヲ來シタル場合ハ其ノ損失金額ハ總テ協同者ノ負擔トス

ヘ、試験期間中本場ハ試験船伊豫丸(乗組員共)及漁具ヲ提供ス

### 五、漁具構造

前年度通りニツキ省略ス

### 六、經過並結果

十二月一日ヨリ出動準備ニ着手シ十三日宇和島出帆途中南宇和郡深浦港ニ於テ漁夫ヲ乗船セシメ十五日高知縣幡多郡清水港ニ着セリ、以後不要物品陸揚、所要品積込ミノ爲三日ヲ費シ十二月十八日清水港出帆漁場ニ向ヒシモ途中推進器翼ヲ折損シ止ムナク清水港ニ歸港ノ上、上架シ豫備推進器ト取替ヘテ十二日出帆本年第一回ノ操業ヲナセリ、當時沖合水温例年ニ比シ稍々高ク表面二十一度乃至二十一度八ヲ示シ漁期稍々早キガ如クこんぼ亦四貫五百匁内外ヲ示ス大型魚ニシテ漁事多カラズ、五日操業ニ依リ普通百尾乃至二百尾ニシテ稀ニ四百尾ヲ擧ルモノアリ、漁場ハ足摺岬微東百五十哩附近好望ニシテ多クノ漁船同方面ニ出漁シ、例年初期好漁場タル紀南漁礁ハ不振ナリシガ如シ

第二航ニ於テハ全シク同方面ニ出漁セルモ稍々沖合ニ出過ギタルノ感アリ、當時大型船ニシテ遠ク沖合ニ出動セルモノハ何レモ不況ニシテ近海百哩附近ニ出動セル船却テ漁獲多ク紀州方面好漁ナリシヲ以テ第三航ニ於テハ室戸岬沖百哩附近ニ出動セルモ魚群ニ會セズ時已ニ魚群通過後ノ如ク足摺岬方面好漁ナリキ、而シテ同方面ニ於テモ遠ク沖合ニ出動セルモノ不振ニシテ百哩内外ニ出動セルモノ好漁ナリ、一方大鮪延繩ニ於テハ此當時種子島方面黑鮪好漁ニシテ一日一雙二、三十尾内外ノ漁獲アリ魚體八十貫乃至五十貫ニシテ魚價二圓四、五十錢ヲ唱へこんぼ繩ヲ休止シ大繩ニ轉ズルモノ多キモ本船ハ大繩ヲ用意セザル爲止ムナク第五航ニ於テハ當時最モ好望ナリシ足摺岬南方百哩内外ニ出動セリ時已ニ水温下降シ二十度内外ヲ示シタルモ魚體ハ尙四貫平均ノ大型魚多ク各船漁獲高不同甚シク多キハ七百尾ニ達スルアリ少キハ僅カニ二、三十尾ノモノアリ、此時ニ當リ大繩ニ於テハ宮崎縣油津沖合附近黑鮪大漁ニシテ一航海二日操業ニシテ平均五十貫餘ノ大鮪七十餘尾ヲ釣獲セルモノアリ大部分ノ漁船ハ大蠅ニ轉化セリ依テ第六航ニ於テハ黑鮪釣獲ノ目的ヲ以テ種子島東七十哩附近ニ出漁セルモ漁獲ナクこんぼ亦甚ダ不況ニシテ土佐沖見込少キヲ以テ第七航ハ黑鮪曳繩ノ目的ヲ以テ油津沖合ニ出動シタルモ僅カニ三尾ヲ釣獲セルニ過ギズ依テ再ビ土佐沖ニ廻航探索セルモこんぼ群ニ會セス依テ此期ニ推進器取替ヘテ行フコト、シ二月十一日宇和島ニ歸港船底掃除並推進器取替ヘテ了シ二月十五日宇和島ヲ出帆セリ、而シテ當時千葉、神奈川、靜岡縣方面漁況ヲ調査セルニこんぼ好漁ノ報アリシヲ以テ第八航ニ於テハ先ズ紀南漁礁ニ出動ノ上漁況ニヨリ東進スルノ豫定ヲ以テ二月十七日清水出帆紀南漁礁附近ニ於テ操業セル處相當ノ成績ヲ擧ゲ得タルヲ以テ東進ヲ止メ第九航ニ於テモ南方漁場索魚ノ目的ヲ以テ足摺岬南方百哩ニ出漁セルモ漁況不

振加フルニ東風連吹セルヲ以テ止ムナク宮崎近海ニ黒曳繩ヲ試ミタル後漁夫乗替ヘノ爲二月二十八日深浦ニ入港漁夫履替ヘヲナシタルモ補充スルヲ得ズ三名不足ノマ、操業ニ決セリ、而シテ宮崎沖合ニ於ケル黒鮪曳繩ハ二月末ニ至リ漁獲漸次不況トナリ一航五、六尾乃至十尾ノ漁獲ニ過ギズ、ごんぼ鮪ニ於テハ最高三百餘尾ノ漁況ニシテ近海百哩附近ハ全ク不振遠ク二百哩以上ノ沖合好望ナリシヲ以テ第十航ハ全方面ニ出動シごんぼ二百十餘尾ヲ釣獲セリ、然レ共漁況漸次不振ニ陥リ且ツ漁獲一定セス最高二百尾少キハ十餘尾ノモノアリ魚體又甚ダ不同ニシテ大ハ三貫五百匁ニ達シ小ハ一貫二百匁内外ニシテ以後大ナル漁事ヲ見ズ十一航、十二航共ニ土佐沖全般ニ互リ探索セルモ見込少キヲ以テ三月二十七日清水歸港ヲ以テ本年度出漁ヲ中止シ三月三十日宇和島歸着本事業ヲ終了セリ

此間出漁回数十二航海、操業回数四十一回、漁獲物ごんぼ八六四尾、黄肌六尾、目鉢九尾、黒三尾、梶木四尾、鱸類二四尾、總漁獲金額三千七百八圓九十八錢七厘ナリ

#### 擬餌ごんぼ使用ニ就イテ

前年度使用セルモノハ軟質ゴムニシテ外觀不満足ノ點アリシモ相當羅魚アリシヲ以テ本年度ハ一層ノ工夫ヲナシ大鮪及ごんぼ鮪用ノ二種トシ製作セシメタル所外觀ニ於テハ前年度ノモノヨリ稍々良好ナリシヲ以テ重テ使用スル事トセリ、然ルニ色澤使用前ニ於テハ良好ナルモ一度海水中ニ浸ス場合ハ短時間ニシテ甚ダシク變色シ白色不透明トナリ前年度ノモノヨリ却テ劣レルヲ以テ更ニ變色セザル様注意ノ上製作セシメタルモ製作ニ長時日ヲ要シ本試験末期漸ク出來セル爲充分ノ試験ヲ施行シ能ハザリシハ遺憾ナリ

使用ニ當リテハ一鉢(大ごんぼ釣二十二本付)ニツキ大一ごんぼ甲二ヲ付シ試験ノ前半期ハ前年度同様固形開明墨ヲ使用セリ、即チ使用ニ際シ片狀開明墨ヲ脱脂棉ニ包ミ更ニ白木棉ノ袋ニ入レ脱落セザル様腹腔内ニ結着セリ、後半期ニ於テハ脱脂棉ヲ墨汁ニ浸シ一度乾燥セシメ適當ノ大サニ切り之ヲ腹腔内ニ挿入セリ

墨ノ使用法ニ關シテハ固形墨ヲ用フル場合ハ脱脂棉ニ包ムコト必要ニシテ其ノマ、木棉袋ニ入ル、場合ハ短時間ニ浸出シ脱脂棉ニ包ミシモノハ除々ニ浸出シ漁具ヲ取り揚ゲタル場合尙浸出シツ、アリテ之ヲ水面下一二尋ノ透視シ得ル場所ニ於テ動カシ見ルニ浸出ノ状態良好ナリ

本年度試験ニ於テハ右餌料ニヨリ一尾ヲモ釣獲スルヲ得サリシハ蓋シ變色ニ基因スルモノト思考セラレ、ヲ以テ此點ニ就キ一層ノ研究ヲ要スルト共ニ尙之ガ形態、硬度、大少等ニ就キテモ充分ノ研究ヲ要スルモノアリ

要スルニ本年度ニ於テハ所期ノ目的ヲ達スルヲ得ザリシモ從來試験ノ結果ニ鑑ミ本品使用ニ當リテハ墨汁等ヲ併用スルニ非ザレバ充分ナル効果ヲ擧ゲ得ザルガ如ク、而シテごんぼ用山型ノモノニ於テ一回使用ニ墨汁並脱脂棉等ニ約一錢二厘ヲ要スルヲ以テ普通餌料ニ比シ特ニ羅魚率優秀ナラザル限り本品ノごんぼ繩使用ハ經濟的價值ナシト斷ゼザルヲ得ズ

#### 北海道産糠漬鰻使用ニ就イテ

本品ハ北海道ニ饒産スル中羽鰻ヲ糠漬トシタルモノニシテ特ニ同試験場ヨリ其ノ試験ヲ委托セラレタルモノナリ、脂肪甚ダ多ク色澤著シク良好ナリト雖供試品ハ塩分稍々不足ノ爲眼球赤變シタルモノ多カ

リキ、然レ共糠ヲ充分洗ヒ落シ使用シタルニ釣獲率却テ普通品ニ優レル場合アリシヲ認メタルモ餌持チニ於テハ稍々劣レル感アリ、將來漬込ミニ一層ノ研究ヲ積マバ優良餌料タルヲ得ベシ

糠漬大羽鱈使用ニ就イテ

長州産大羽鱈ヲ以テ本場ニテ製造セリ、合指シ用トシテ大小鮪ニ好適スルヲ以テ近時同様ノ市販品ヲ見ルニ至レリ、市販品一尾三錢内外ナルモ本場ニテ製作セルモノハ僅カニ一錢二厘ニ當リ然カモ使用ノ結果良好ナリ

紀南漁礁ニ就キテ

紀南漁礁ノ漁業的價値ニ就キテハ彼此相論セラル、所ナレバ從來試驗ノ結果ニ徴スルニ相當價値アルモノ、如ク認メラレタリ、殊ニ本年ノ如キ一般的不況ノ際ニ於テハ格段ノ差アルモノ、如ク今回ノ試験ニ於テモ大漁ヲ爲スハ常ニ同礁附近ニシテ礁ヲ遠ザカルニ從ヒ次第ニ其ノ漁獲ノ減少ヲ見ルガ如キ明カニ之ヲ證明スルニ足ルモノト信ズ

鮪延繩漁業表 (昭和三年度) 愛媛縣水産試験場 伊豫丸

月日	月日	天候	風向	風力	漁場	漁具	使用時間	水面	水温	餌料種類	漁獲物	摘要
二十三日	二十三日	B	E	1								午前十一時五十分字和島出帆 午後六時十八分深浦着碇泊

日四廿	日三廿	日二廿	日一廿	日十二	日九十	日八十	日七十	日六十	日五十	日四十
C,B,R	B	B	B	B	B	B	B	B	C,R	B
SE	E	N	0	E	W	E	NW	W	E	E
4	2	2	0	1	1	1	1	1	2	1
2	1									
A4 <sup>30</sup> P5 <sup>25</sup>	A5 <sup>50</sup> P8 <sup>40</sup>									
1	1									
21,8 21,6 21,4 21,2	21,4 21,3 21,3 21,1									
同	い わ し さ び う な									
ア キ ト ハ ン ダ メ	ア ヒ ラ ガ シ メ									
一 二 三	一 二 三									
100	100									
501.110										
午前四時十分揚錨同六時三十分終了 午前六時十分揚錨同八時三十分終了 午前八時十分揚錨同十時三十分終了 午前十時十分揚錨同十二時三十分終了 午後二時十分揚錨同四時三十分終了 午後四時十分揚錨同六時三十分終了 午後六時十分揚錨同八時三十分終了 午後八時十分揚錨同十時三十分終了 午後十時十分揚錨同十二時三十分終了 午後十二時十分揚錨同二時三十分終了 午後二時十分揚錨同四時三十分終了 午後四時十分揚錨同六時三十分終了 午後六時十分揚錨同八時三十分終了 午後八時十分揚錨同十時三十分終了 午後十時十分揚錨同十二時三十分終了 午後十二時十分揚錨同二時三十分終了										



日八廿	日七廿	日六廿	日五廿	日四廿	日三廿	日二廿	日一廿	日十二	日九十	日八十
C	B,C	B,C	B	B	B	B	B	B	C	R
N	N	S	N	W	S	N	E	N	NW	NE
1	2	3	3	2	1	5	3	2	4	2
		16	15				14	13	12	11
		A6 <sup>05</sup>	A6 <sup>30</sup>				A6 <sup>25</sup>	A6 <sup>18</sup>	A5 <sup>55</sup>	A6 <sup>15</sup>
		P7 <sup>12</sup>	P7 <sup>35</sup>				P5 <sup>20</sup>	P7 <sup>30</sup>	P7 <sup>3</sup>	P6 <sup>25</sup>
		1	1				1	1	1	1
		19,8	20,0				20,7	19,8	20,4	
		同	いごむい わじしか				同	同	同	同
		同	ト ン ボ				ト ン ボ	メ カ ン ボ	イ ト ボ	イ メ ト ン ボ
		同					二	一	一	一
		四、〇〇	四、〇〇				三、六〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇
		二九、五八					六三、三六			
必需品積載、水碓泊	午後一時四十分清水入港碓泊	午前六時三十分投縄同七時四十分終了 午後一時揚縄同七時三十分終了直チニS、Wニ 航走零時漂流 午前六時五十分投縄同七時十二分終了 午前十一時三十分揚縄午後七時十二分終了 二日間ノ操業中、漁船來リ漁況ヲ問フモノ 十二隻何レモ皆無トノ事ナルヲ以テ土佐ノ 沖、トシボ不振ノ見込ヲツケ歸港ノ途ニ着ク		午後六時出帆S	機關掃除必需品積込碓泊	午後二時三十分清水入港漁獲物陸揚、碓泊	午前六時二十五分投縄七時三十分終了 揚縄後歸途ニツケ針路%	午前六時十八分投縄七時三十分終了 正午揚縄午後七時三十分終了後九時半迄 S、Wニ航走	午前六時十五分投縄七時三十分終了 午後六時二十五分投縄七時三十分終了 漂流	午前六時十五分投縄七時三十分終了 午後六時二十五分投縄七時三十分終了 午後五時三十分揚縄同七時三十分終了 午後五時三十分揚縄同七時三十分終了 午後五時三十分揚縄同七時三十分終了 午後五時三十分揚縄同七時三十分終了

日七十	日六十	日五十	日四十	日三十	日二十	日一十	日十	日九	日八	日	月
B	B	B	B,C	B	B	B	B	B	C,R	候	天
N	N	W	NE	NE	NW	NW	W	W	S	同	風
3	3		3	3	3	3	4	2	2	力	風
10				9	8	7	6			漁	場
A6 <sup>5</sup>				A6 <sup>5</sup>	A6 <sup>0</sup>	A6 <sup>30</sup>	A5 <sup>10</sup>			具	漁
P9 <sup>35</sup>				P5 <sup>25</sup>	P5 <sup>25</sup>	P6 <sup>15</sup>	P6 <sup>5</sup>			時	用
1				1	1	1	1			數	回
20,5				20,5	19,5					表	水
										25 <sup>m</sup>	温
										50 <sup>m</sup>	
										100 <sup>m</sup>	
いごむい わじしか							いごむい わじしか			類	種
メ ト ン ボ				カ ト ン ボ	キ ハ ダ	ト ン ボ	ト ン ボ			種	漁
一				二	二	一	二			類	
四、〇〇				三、五	三、五	三、五	三、五			量	獲
										平	獲
										尾	獲
										均	獲
										價	物
										額	
										摘	要
午前六時五分投縄七時二十五分終了 午後一時二十分揚縄同九時三十分終了後 漂流	午前中必需品積載 午後二時三十分清水出帆	機關掃除、出漁準備ノ爲清水碓泊		午後二時十四分清水入港漁獲物陸上	午前六時五十分投縄同七時四十分終了 午後六時五十分揚縄午後五時五十分終了 後歸港ノ途ニツケ	午前六時五十分投縄同七時四十分終了 午後六時五十分揚縄午後五時五十分終了 十二時迄S、Wニ航走	午前六時三十分投縄同七時四十分終了 午前十一時五十分揚縄午後六時十五分終了 漂流	午前六時三十分投縄同七時四十分終了 午後六時五十分揚縄同七時四十分終了 午後六時五十分揚縄同七時四十分終了 午後六時五十分揚縄同七時四十分終了	午前六時三十分投縄同七時四十分終了 午後六時五十分揚縄同七時四十分終了 午後六時五十分揚縄同七時四十分終了 午後六時五十分揚縄同七時四十分終了	餌料整ヒ天候回復ノ徴アリ正午出帆針路S ニテ漁場ニ向フ	大繩餌料ナク且ツ天候險惡ニツキ碓泊



計	日			月
	日一廿	日十三	日九廿	
	R	B	C	候天
	NE	N	NW	向風
	3	4	4	力風
	18	17		置位場漁
	A6 <sup>20</sup>	A6 <sup>15</sup>		具漁
	P6 <sup>05</sup>	P5 <sup>05</sup>		時用使
15	1	1		數回上全
	20,4	20,6		表 <sup>m</sup> 水
				25 <sup>m</sup> 温
				50 <sup>m</sup> 温
				100 <sup>m</sup> 温
	同	めいごむ		類種料餌
	右	じわしか		
	種	種		漁
	類	類		
	量數	量數		獲
	尾一均	尾一均		獲
	量重均	量重均		獲
	價	價		物
	額	額		
	摘	摘		要
	昭和三年十二月三十一日分ヲ含ム			

一月下旬 高知縣清水港ニ入港セル漁船ハ何レモ、トンボ不漁ニシテ最高十數尾ニシテ全ク漁獲ナキモノ多ク土佐沖トシテ漁ハ不振ニ陥リ見込ナキニ至レリ、之レニ反シ大船ハ種子島方面好漁ナルヲ以テ大船ニ轉換スルモノ多キニ至レリ

一月下旬 高知縣清水港ニ入港セル漁船ハ何レモ、トンボ不漁ニシテ最高十數尾ニシテ全ク漁獲ナキモノ多ク土佐沖トシテ漁ハ不振ニ陥リ見込ナキニ至レリ、之レニ反シ大船ハ種子島方面好漁ナルヲ以テ大船ニ轉換スルモノ多キニ至レリ

一月下旬 高知縣清水港ニ入港セル漁船ハ何レモ、トンボ不漁ニシテ最高十數尾ニシテ全ク漁獲ナキモノ多ク土佐沖トシテ漁ハ不振ニ陥リ見込ナキニ至レリ、之レニ反シ大船ハ種子島方面好漁ナルヲ以テ大船ニ轉換スルモノ多キニ至レリ

一月下旬 高知縣清水港ニ入港セル漁船ハ何レモ、トンボ不漁ニシテ最高十數尾ニシテ全ク漁獲ナキモノ多ク土佐沖トシテ漁ハ不振ニ陥リ見込ナキニ至レリ、之レニ反シ大船ハ種子島方面好漁ナルヲ以テ大船ニ轉換スルモノ多キニ至レリ

一月下旬 高知縣清水港ニ入港セル漁船ハ何レモ、トンボ不漁ニシテ最高十數尾ニシテ全ク漁獲ナキモノ多ク土佐沖トシテ漁ハ不振ニ陥リ見込ナキニ至レリ、之レニ反シ大船ハ種子島方面好漁ナルヲ以テ大船ニ轉換スルモノ多キニ至レリ

鮪延繩漁業表 (昭和三年度) 愛媛縣水産試驗場 伊豫丸

日	月	候天	向風	力風	置位場漁	具漁	時用使	數回上全	表 <sup>m</sup> 水	類種料餌	種	類	量數	尾一均	量重均	價	額	摘	要
日九	B	NW	5															航海中	
日八	B	N	1	22		A6 <sup>05</sup>	P4 <sup>35</sup>	1		同	アカ	マカ	1	1	1			午後五時三十分清水入港、漁獲物陸揚	
日七	B	N	3	21		A6 <sup>20</sup>	P6 <sup>10</sup>	1	20,7	いごむ	トン	ンボ	九	九	九			清水碇泊出帆準備	
日六	C	NW	2															午後五時三十分清水入港、漁獲物陸揚	
日五	B	W	3	20		A7 <sup>40</sup>	P6 <sup>0</sup>	1										午後五時三十分清水入港、漁獲物陸揚	
日四	B	N	2	19		A7 <sup>50</sup>	P6 <sup>10</sup>	1	20,4	まびうを	黒	鮪	三	三	三			午後五時三十分清水入港、漁獲物陸揚	
日三	B	N	4															午後五時三十分清水入港、漁獲物陸揚	
日二	B	N	1															午後五時三十分清水入港、漁獲物陸揚	
日一	B	NW	6															午後五時三十分清水入港、漁獲物陸揚	



漁況

二月上旬 宮崎縣油津沖合ニ於テハ黒魴豐漁ニシテ何レモ曳繩ニ依リテ漁獲セラレツ、アリテ延繩振ハズ從ツテ魚價低落シ黒魴一貫壹圓貳拾錢内外ノ安値ヲ示セリ、而シテ同地ニ於ケル鮪曳繩用餌料ミビクナノ如キ當時一尾拾圓乃至拾五、六圓ノ突飛ナル値段ヲ示シ居レリ

高知縣清水ニ於ケルこんぼ漁ハ前月下旬來ノ不漁ヲ依然トシテ持續セルモ本旬末期ニ至リ稍々恢復ヲ見タルガ如シ

高知縣清水港ニ於テハ前旬末期ニ於テ稍々好漁ニ向ヒタルガ如キモ再ビ不漁ニ陥リ土佐沖見込少ナキニ至レリ

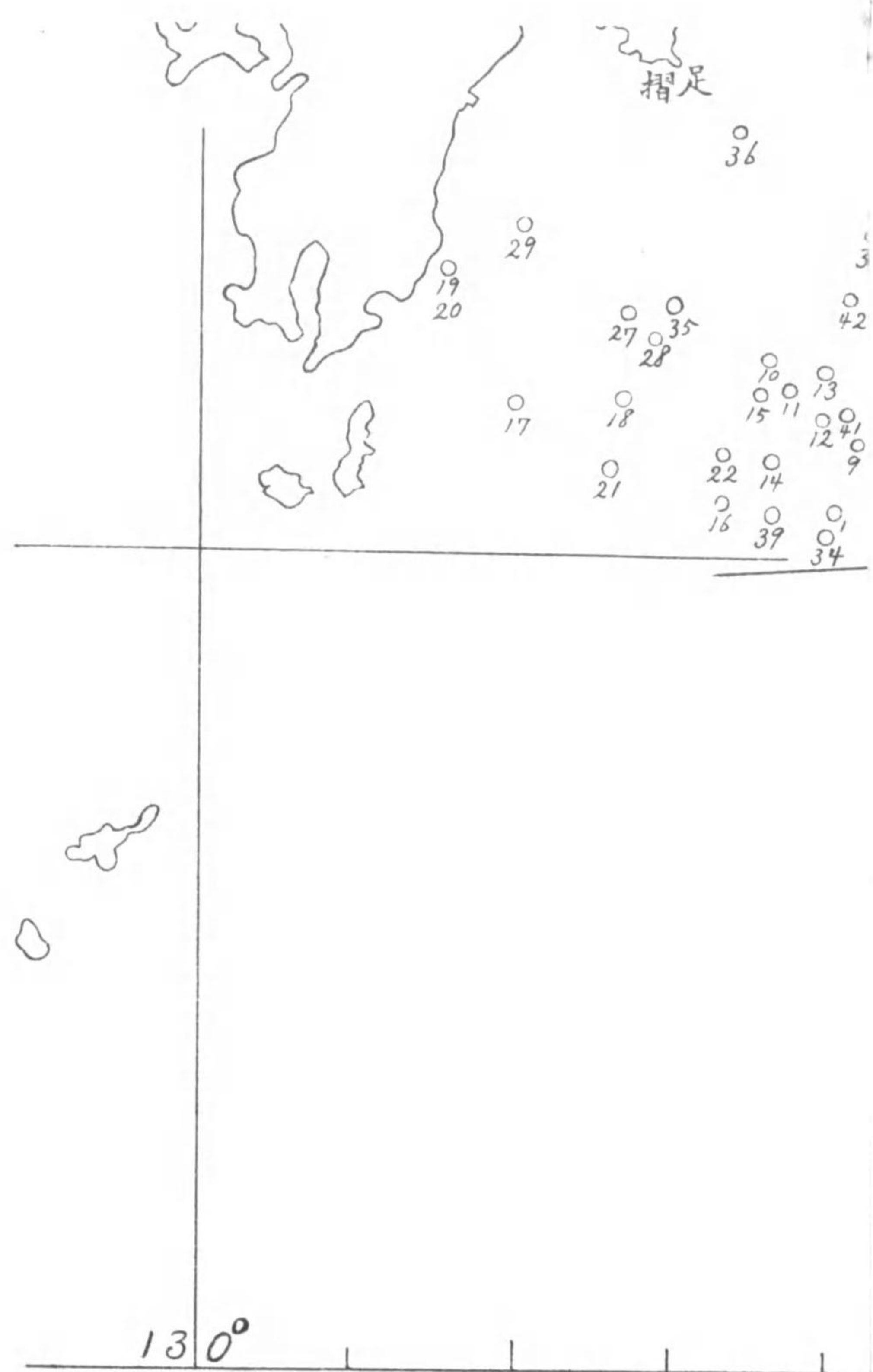
二月下旬 高知縣清水入港漁船ハ概テ不漁ニシテ稀レニ三、四百尾ノ漁獲ヲ擧ゲタルモノヲ見ルノミニシテこんぼ漁ハ此ノマ、終漁期ニ入ルニ非ラザルカノ觀アリ、魚價こんぼ貫壹圓貳、參拾錢ヲ唱ヘ大ナル變動ヲ見ズ

鮪延繩漁業表 (昭和三年度) 愛媛縣水産試験場 伊豫丸

月	日	天候	風	風速	浪	魚種	種類	數量	平均重量	價值	摘要
二月	三十一	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.4	18.4	午前六時二十五分深浦出帆 久良ヲ經テ同六時四十分清水入港碇泊
二月	三十	晴	北	3	3	鮪	イ、ウ、カ	1	18.6	18.3	漁獲物賣却後必需品積載 午後四時三十分出帆針路 SSE
二月	二十九	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.4	18.4	午後六時二十五分投錨同八時十一分終了 午後一時二十五分揚錨同八時二十分終了 後
二月	二十八	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.4	18.4	漂流 附近漁業中ノ漁船二隻アルヲ見ル
二月	二十七	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.4	18.4	午前六時三十分投錨同七時三十分終了 午後十一時一十分揚錨午後七時四十分終了 後漂流

月	日	天候	風	風速	浪	魚種	種類	數量	平均重量	價值	摘要
二月	二十六	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.1	17.9	午前六時十分投錨同七時十分終了同十一時三十分揚錨午後六時二十五分終了 後漂流
二月	二十五	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.0	18.1	午前五時四十五分投錨六時五十分終了同十時五十分揚錨午後五時四十分終了 後漂流
二月	二十四	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.4	18.2	午前五時三十分揚錨同六時二十五分終了 後漂流
二月	二十三	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.7	18.5	午前六時五分投錨同七時十分終了同十一時五分揚錨午後五時三十分終了 歸港ノ途ニ着ク
二月	二十二	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.8	18.7	午前四時清水入港漁獲物陸揚 碇泊
二月	二十一	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.7	18.5	燃料飲料水積載 Wノ風強キ爲漁夫待合ヲ爲シ碇泊 漁夫來ラズ
二月	二十	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.8	18.7	氷積載 午後十時四十五分出帆
二月	十九	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.7	18.5	漁業見合ノ爲六時二十分ヨリ九時二十分迄漂流夫レヨリ航走 午前十時四十分機關故障 午後零時四十分ヨリ航走 夕景陸岸近キモ霧ニテ陸地ヲ見ズ危險ナル爲漂流
二月	十八	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.7	18.5	午前二時三十分航走開始 機關修理ノ爲高知ニ向フ 正午高知入港碇泊
二月	十七	晴	北	2	2	鮪	イ、ウ、カ	1	18.8	18.7	機關修理完了午後六時高知出帆漁場ニ向フ

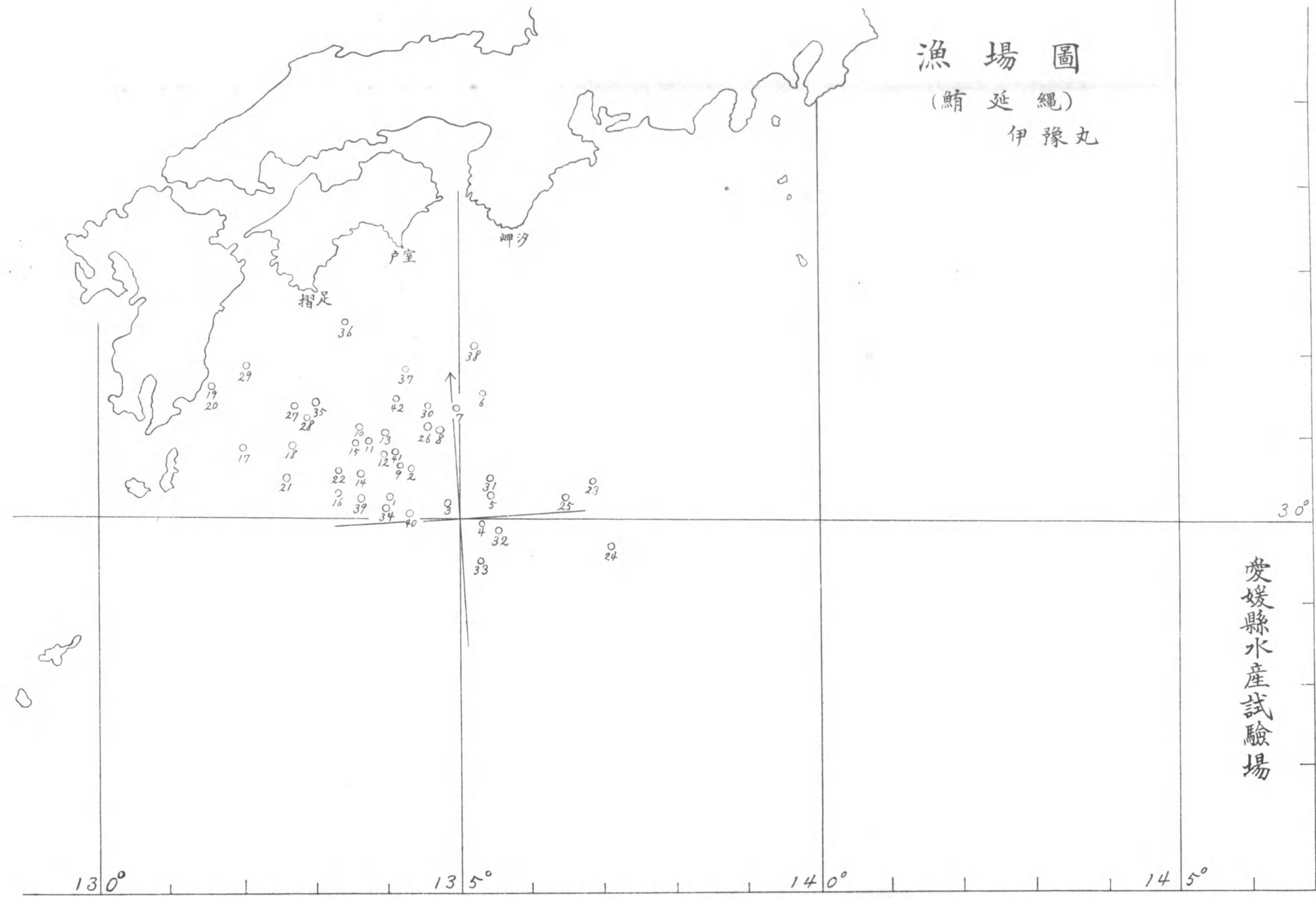




尾ノ漁獲ヲ學ゲタルモノアリテ魚群ノ一部ハ沿岸近ク入り込ミ居レルモノアルガ如ク察セラル  
 油津沖合ノ曳繩ハ全ク漁獲ナキニ至リ諸船大繩ニ轉シ一航海六、七尾乃至十尾位ノ漁獲ヲ見ツ、アリ、魚價變動少ナシ  
 高知縣清水港ニ於ケルさんぼハ前旬來不振ヲ持續シ稀ニ二百尾位ノ漁獲アルモ又僅カニ十數尾ノモノアリ魚體又區々ニ  
 シテ三貫五百乃至一貫二百位ナリ  
 三月下旬 高知縣清水港ニ於ケルさんぼハ漁期終了セルガ如ク大鮪ハ一航海八十尾ニ及ブモノアリ、例年ノ盛期ニ入りタルガ如ク  
 漁場ハ沖島南五十哩以内ノ如シ



漁場圖  
(鮪延繩)  
伊豫丸



愛媛縣水産試験場

## 鯉 漁 業 調 査

### 一、趣旨並方法

本場ニ於テハ鯉漁業試験ヲ施行セザル爲本調査ハ縣下南宇和郡東外海村日吉丸ニ委托シ漁況海況ヲ報告セシメタルモノナルモ前記日吉丸漁期中數回ニ互リ休漁ノ止ムナキ事情アリタル爲漁期ヲ通シ漁況ヲ考察スルニハ不備ノ點アルベキモ其ノ大要ヲ察知スルニハ敢テ支障ナカルベキヲ信ズルモノナリ、尙本縣ニ於ケル鯉漁業ハ南宇和郡ニ行ハル、ノミニシテ其ノ主根據地ハ深浦、船越兩所ナルヲ以テ右兩港ニ於ケル水揚數量ヲ附記シ一般ヲ察知スルコト、セリ

### 二、漁 況

二月 鯉漁船ノ多クハ舊正月即チ本月ヨリ概ネ出漁セルモ本月中ハ鯉ヲ見ズ目近ヲ目的トシ目近ハ稍々好漁ナリシ

三月 前月同様ノ漁況ニシテ月末ニ至リ少量ノ鯉ヲ混獲セルモノアリ、之本年度初漁ニシテ本月中ニ於ケル船越港ノ水揚總量僅カニ三十五貫ナリ

四月 前月ニ引續キ鯉ヲ混獲スルモノ増加セルト共ニ目近稍々不漁トナレリ、鯉一尾平均六百匁内外ニシテ船越港ニ於ケル本月中ノ水揚高九百貳貫ナリ

五月 本年ヲ通ジ最モ活氣ヅキタル月ニシテ特ニ上、中旬好漁ニシテ下旬ニ近ヅクニ從ヒ漁獲減少セルガ如シ、魚體平均四百五十匁内外ニシテ漁所ハ主トシテ高知縣沖合珊瑚礁附近好漁ニシテ魚價一貫ニ

ツキ一圓二、三十錢内外ナリキ、本月中ニ於ケル船越、深浦兩港水揚數量左ノ如シ

船越

漁獲物名	漁獲尾數	金	額	出漁船數	金	一隻當額
鯉	一一、九八二		六、一三三	一一	五四五	
羽鯉	一、二四三		四七〇			

深浦

漁獲物名	漁獲尾數	金	額	出漁船數	金	一隻當額
鯉	一八、〇五九		八、九三五	一六	六六六	
目近	二、六一〇		一六五			
羽鯉	四、六二七		一、五五〇			

六月 前月ニ引續キ好漁ナリシモ月末ニ近ヅクニ從ヒ鯉漁獲漸次減少シ目近ノ漁獲増加セルヲ見ル、漁場前月同様ナルモ一般ニ豊後水道奥部沖島近海ニ移リシガ如ク魚體ハ前月ニ比シ大型トナリ、平均六百匁内外トナリ、魚價一圓内外ヲ唱ヘタリ、船越、深浦兩港ノ水揚量左ノ如シ

船越

漁獲物名	同上數量	金	額	出漁船數	金	一隻當額
------	------	---	---	------	---	------

深浦

漁獲物名	同上數量	金	額	出漁船數	金	一隻當額
鯉	一、二九七		一、二九一	一一	三七四	
目近	五、九七四		二、七七六			
羽鯉	六六六		四一五			

七月 前月末來不漁トナリシ本業ハ引續キ不振ニシテ遂ニ休漁船ヲ出スニ至リタル處中旬ニ至リ漁事稍

見ルベキモノアリ、一日三百尾内外ノ漁獲ニシテ一同出揃ヘ共僅カニ數日ニシテ永續セズ月末ニ近ヅクニ從ヒ更ニ甚シク又々休漁船ヲ出スニ至レリ、魚體又漸次小トナリ三百五十匁平均ニシテ一尾三十錢内外ヲ唱ヘタリ

日近漁ハ前月同様ニシテ一尾平均百匁、價格七錢餘ナリ、而シテ本月ヨリ鮪仔ノ漁獲ヲ見ルニ至レリ

深浦

漁獲物名	同上數量	金	額	出漁船數	金	一隻當額
鯉	七五二		五二七	一六	五八八	
目近	九二、七八五		七、一三九			
羽鯉	四、九九一		一、七三六			



漁獲物名	同上數量	金額	出漁船數	金一隻當額
鯉	一、五八七 <small>尾</small>	五六一 <small>四</small>	一六	四三六 <small>m</small>
目近	九一、八九七	六、〇四五		
羽鯉	五七五	三六二		

八月 本月ニ入りテハ鯉漁ハ殆ンド見ルベキモノナク時ニ目近、鮪仔釣ノ際小量ヲ釣獲スルカ又ハ之等ニ混獲セラル、ニ過ギズ、鯉漁ト稱スルモノハ七月末ヲ以テ終了ヲ告ゲタルモノト云フヲ得ベシ  
 本年ノ漁況ヲ通觀シ昨年度ニ比スルニ昨年度ニ於テハ五、六月閑散ニシテ七、八月好漁ナリシモ本年度ニ於テハ之ト正反對ニシテ五月、六月ヲ盛漁期トセリ、之即チ本縣地方ニ於ケル常態ナリ、然レ共漁獲高ニ於テハ甚シク不漁ニシテ昨年度ニ遠ク及バザリシガ如ク認メタリ

鯉釣漁業表 (昭和三年度) 南宇和郡東外海村 日吉丸

月日	候天	向風	漁位	漁水	餌料	種類	數量	尾重平均	金額	摘要
五月一六日	C,B	W	1	21,5		カツチ	四九〇	五〇〇 <small>尾</small>	二六九、五〇〇 <small>四</small>	一尾 五十五錢
一七	B	W	2	22,5		カツチ	三三〇	五〇〇	一六五、〇〇〇	一尾 五十錢
一八	C	W	3	22,5		カツチ	一五〇	五〇〇	七五、五〇〇	一尾 五十三錢

一九	B	W	4	22,5		カツチ	二〇〇		一、〇〇〇	一尾 四十錢
二〇	C	S	4	22,0		カツチ	二		一、〇〇〇	一尾 五十錢
二一	B	W	5	23,0		カツチ	二四〇		一、〇〇〇	一尾 五十二錢
二二	B	W	4	21,5		ハガツチ	二四〇		六七、一〇〇	一尾 二十八錢
六、一四	B	S	3	22,5		メジカ	八三〇		五、二〇〇	一尾 六錢五厘
一五	B	S	3	23,0		ハガツチ	二七五		八四、六〇〇	一尾 三十一錢
一六	B	W	3	23,5		メジカ	二、三七六		一五六、八二〇	一尾 六錢六厘
一七	B	E	3	23,0		メジカ	四六六		二八、一〇〇	一尾 六錢六厘
一八	B	S	3	25,0		メジカ	四六六		三、三〇〇	一尾 六錢六厘
一九	B	S	3	25,0		カツチカ	一、八〇〇		七三、〇〇〇	一尾 六錢五厘
二〇	C	E	3	23,0		メジカ	一、八六三		一四、三七〇	一尾 七錢七厘
二二	C	S	6	24,0		メカツチカ	一、三〇三		一五、〇〇〇	一尾 八錢

八	七	九、六	二八	二七	一四	八、一三	二三	二二	一七	一四
B	B	C	B,C	B	B	B	B	B	C	C
S	S	S	S	S	W	W	S	S	S	S
16	15・12		15・14	12	13・12	15・12	9・3	3・10		3・3
26,0	27,0	27,0	27,0	27,5	27,5	26,0	29,0	27,5	26,0	27,5
				同 右	同 右	ごまめ	きびなご	ごまめ	同 右	きびなご
ナシ	ナシ	ヒ鮪 ス仔	カ鮪 ツ仔	スカカ ツ仔 マ小大	カカ ツ仔 マ小大	カカ ツ仔 マ小大	サカメ ツ仔 マ小大	メシ カ	ナシ	メシ カ
		一五、〇 五〇尾	二〇、〇 五〇尾	五、七 四、六 四、九	八、〇 九、九	五、七 五、〇	二、三 二、五	一、五 五、六		天
		四、〇〇〇	一六、〇〇〇	三、五 三、七 三、五	七、三 七、三 七、三	一八、七 五、〇	九、〇 九、〇	一〇、一 一〇、四		三、四〇
		一尾 八錢	一貫 七十一錢	一貫 七十五錢 一貫 七十四錢 一貫 七十三錢	一貫 七十五錢 一貫 七十二錢	一貫 八十四錢	一尾 五十五錢 一尾 五十五錢	一尾 六錢五厘		一尾 六錢

一一	一〇	七	六	五	四	三	二	七、一	二四	六、二三	月 日
B	B	C	B	B	C	C	C	C	C,R	B	候天
S	S	E	W	S	S	S	S	S	S	E	向風
6	2・3	8	10	6・9	9	6・5	5	3	9	8	場 置位
27,0	26,0	25,5	25,5	24,0	25,0	24,5	25,5	23,5	24,0	24,5	場 温
同 右	同 右	同 右	きびなご	同 右	同 右	同 右	ごまめ				餌 料
メシ カ	メシ カ	カ ツ テ	メ シ カ	ナ シ	メ シ カ	メ シ カ	メ シ カ	メ シ カ	メ シ カ	メ シ カ	種 類
四九〇	二九〇	一	九〇〇		七六二	二、〇六二	八五五	一、五三三	一六	九	量 獲
											均一 重量
三、三三〇	一八、七〇	三、〇〇〇	五、七〇〇		六、六九〇	一三、七〇〇	五七、〇九〇	二八、〇四〇	一、三六〇	七、七三〇	金 額
一尾 六錢六厘	一尾 六錢三厘		一尾 七錢三厘		一尾 七錢九厘	一尾 六錢	一尾 六錢六厘	一尾 七錢七厘	一尾 八錢五厘	一尾 八錢五厘	摘 要

月日	候天	向風	場流位	場流温	餌料	種類	数量	平均重量	金額	摘要
九、九	B	S				ヒ鮪	七〇尾	〇.八五	五、〇〇〇	一貫八圓十錢
一〇	B	S	12	27,0		ヒ鮪	八〇尾	〇.八〇	六、四〇〇	一貫十九錢
一一	C	E	13	26,5		鮪	二〇尾		三、〇〇〇	一貫一圓十錢
一二	B	E	12, 11	27,0		カヒ鮪	二五尾		八、〇〇〇	一貫八圓十錢
一三	C	S	12	27,0		ヒ	五〇尾		四、七〇〇	一貫九錢
一四	B	E	12	26,5		ヒ鮪	一五尾		一、五〇〇	一貫九圓十錢
一五	B	W		27,0		カ鮪	七〇尾		三、五〇〇	一貫一圓十錢
一六	B	S	17, 12	27,0		ナシ				
一七	B	S	17	27,0		ヒ鮪			一、八三〇	
一八			18, 12	27,0		カヒ	二七尾		五、四〇〇	

計	二四	二三
	C	B
	N	E
	17	18, 12
	25,5	
	ヒ鮪	ホカヒ
	ス仔	ホツ
		ソ
		タ
		ス
		二五尾
		二三八
		三、六〇〇
		七、六〇〇
		三、三三〇

鯧 漁 業 試 験

一、趣 旨

目下本縣鯧漁業ニ使用セラレツ、アルアセチレン集魚燈ハ甚ダ多額ノ經費ヲ要スルヲ以テ之ヲ最モ小額ノ經費ニテ足リ且ツ集魚能率アセチレン燈ニ優ル電氣集魚燈ニ改善普及セシメムトスルヲ主トシ更ニ從來ヨリ瀬戸内海方面ニ於テハ火光ヲ用フルモ鯧ヲ集ムル事不可能ナリト稱セラレシニヨリ前年度之ガ眞否ヲ明カニスベク試験ノ結果上述ノ言ニ反シ相當ノ魚群ヲ集メ得タルニヨリ引續本年度ニ於テ充分ノ試験ヲ行ハムトス

二、期間及場所

自昭和三年八月十五日  
至全 年十月十日 伊豫郡上灘町沖合

三、方 法

伊豫郡上灘町小網漁業組合ニ本場ノデルコライト集魚燈ヲ貸與シ該試験ヲ委托セリ

#### 四、經過並結果

八月十五日ヨリ伊豫郡上灘町沖合二湮附近ノ場所ニ於テ試験ニ着手セルモ本年同地方ハ近年稀有ノ大凶漁ニシテ八、九、十ノ三月間一尾ノ鰻ヲモ見サリシ有様ナリシヲ以テ同地方ノ試験ヲ中止シ九月一日ヨリ温泉郡由利島近海ニ出漁セルモ器具故障ノ爲之ガ修理ヲナシ全月十五日更ニ同地ニテ試験ノ結果燈火三十分ニシテ驚クベキ多量ノ鰻ヲ誘致シ得タリ、然レ共漁業者間ニ於テ一ツノ紛擾アリシ爲漁具ヲ使用スルニ至ラズ以降紛擾ノ解決ニ長時日ヲ要シ試験ヲ續行スルヲ得ズ止ムナク十月十日ヲ以テ本試験ヲ終了スルコト、セリ

要スルニ本年度ニ於テハ充分ノ試験ヲナシ得ザリシハ遺憾ナリシモ其ノ結果ニヨリ從來瀬戸内海方面ニ於テ唱ヘタル鰻ハ火ニ付カストノ言ハ何等信ズルニ足ザルコト判明セリト云フベシ

#### 操業日誌

八月十五日 伊豫郡上灘町沖合二湮ニテ操業ス魚群ヲ見ズ

八月二十日 全上一湮ヨリ三湮ノ沖合ニ於テ移動操業セルモ魚群ヲ見ズ

九月一日 温泉郡由利島沖合ニ出漁セルモ器具故障ノ爲點火セズ

九月十五日 温泉郡由利島沖合へ再ビ出漁點火後三十分ニシテ非常ニ多量ノ鰻集リタルヲ漁業者間ニ於ケル紛擾ノ爲漁具ヲ使用スルニ至ラズ

十月十日 伊豫郡上灘町沖合四湮ニテ操業セルモ魚群ヲ見ズ

### 桝網漁業試験

#### 一、趣旨

桝網ハ從來瀬戸内海方面ニ普及セラレ本縣ニ於ケル沿岸漁業中重要ナルモノナレドモ豊後水道方面ニ於テハ未ダ之ヲ行フモノ極メテ少ク且ツ同方面ハ海況並魚群回游狀況等ヨリ考察シ本漁業ニ有望ナルモノアルヲ信ジ之ヲ普及シ獎勵セシガ爲本試験ヲ施行セリ

#### 二、期間

自昭和三年四月一日至今年五月四日

#### 三、場所

北宇和郡九島村沿岸

#### 四、方法

前年度通り本場ヨリ漁具ヲ貸與シ當業者トノ共同試験トシ前年度ニ引續キ北宇和郡九島村九島漁業組合トノ共同試験トセリ

#### 五、經過並結果

前年度來敷設試験中ノ處四月一日以來風波ノ爲漁具ヲ破損シ之ガ修理ヲ要シタル爲四月四日ヨリ操業セリ、然レ共當時魚群ノ回游少ク漁獲甚ダ少シ、越ヘテ五月四日ニ至リ再ビ風波ノ爲漁具ヲ大破シ全ク使用ニ堪ヘザルニ至リシモ本場經費ノ關係上試験ヲ續行スルコト不可能トナリシヲ以テ遺憾ナガラ本年度ニ於

ケル試験ヲ中止スルコト、セリ

此間漁獲回数四日ニシテ漁獲高十五圓四十八錢ナリ

### 海 底 調 査

#### 一、趣旨及方法

縣下全沿岸ニ互リ海底ノ狀況、底質、水深、潮流、有要水族並藻類ノ分布棲息狀況、陸水ノ影響等細密ナル調査ヲ行ヒ新漁場ヲ發見シ遺利ヲ開發シ或ハ漁場障害ヲ除去シ以テ沿海ヲ遺憾ナク利用セシムルト共ニ縣下全帯ニ互ル沿岸漁場圖ヲ作製シ沿海漁業開發ノ資ニ供セムトスルニアリテ試験船並調査船ヲ廻航シ潜水器ヲ用ヒ本場職員自ラ潜水調査ニ任ス

#### 二、經過並結果

#### 北宇和郡海底調査

##### 調査ノ目的並範圍

由來本郡水産會ハ全郡沿岸ニ互リ之ガ調査ヲ繼續的ニ施行シ來リタルモノニシテ本年ハ殘部沿岸ニ於ケル漁場障害ノ調査ヲ主目的トシ時日ノ許ス範圍内ニ於テ一般調査ヲモ行フ事トシ本場山岸技手潜水調査ニ當レリ

##### 經過狀況

昭和三年六月二十五日ヨリ左記順序ニ依リ調査ニ着手シ當初奥南村及立間尻村ニ於テ打合ヲ爲シ二十日ヨリ吉田灣即チ立間尻村ヲ施行セムトセシモ同日ハ大豪雨ニテ中止スルノ止ムナキニ至リ奥南村ヨリ開始シタルモ内灣部ハ吉田、宇和島ノ河川ヨリ濁流吐出セラレ海水面混濁シ調査困難ナルヲ認め三浦村ニ廻航シ同地ヲ終了再ビ奥南村ニ至ル等日程ノ粗縮上一日ノ延期ヲ來セルモ概ネ豫定通り調査ヲ完了シ七月六日歸場セリ

##### 記

奥南村	(自六月二十七日 至七月四日)
三浦村	(自六月二十九日 至七月一日)
立間尻村	(自七月五日 至七月六日)

六月二十六日(雨天休業)

調査ノ狀況左ノ如シ

調査位置ノ海深ハ六尺ヲ以テ一尋トシ番號ハ圖面ノモノト符合ス

奥南村

#### 【六月二十七日】

##### 一、立 岩

水深 (自二十尋 至全三時四十分)

岩礁部ハ傾斜急峻ニシテ大岩ヨリ成リ、ほんだはら及雜藻ノ着生多ク、魚類ハやはげ、べら、かさこ、めばる等棲息シさゞねノ分布ヲ見ルモ鮑ノ棲息セルヲ見ズ、底質ハ砂泥ニシテ傾斜急ナリ、而シテ立岩

ヲ離ル西方約三十間餘ノ所ニ一岩礁存在シ岩面なまこノ多ク潜伏セルヲ見タリ、魚類ハいがみ、あこ、あい、こぶだひ等相當多ク棲息シ且ツ海藻短カキモ相當着生セリ、底質前段ト大差ナクほたて介ノ死殻ヲ見タリ

二、赤崎鼻

水深 (自一尋 自午後三時三十五分  
至四尋半 至全四時零分)

傾斜緩ニシテ大岩石重疊シ且ツ所々ニ點在スルモノ多ク、ほんだはら類、みる其ノ他雜藻多ク着生シ、べら、めばる、やはげ、あい、かさこ、あこ、あい、鮑等相當棲息シ其ノ量又多キガ如ク、四尋半ニシテ底質さ砂トナリ傾斜緩ナリ

三、のこぎり崎

水深 (自一尋半 自午後四時十五分  
至十尋 至全四時四十五分)

岩礁部ハ大ナル岩石ノ重疊セルモノニシテ相當傾斜シ十尋ニシテ盡キ底質砂トナリテ堅シ、岩礁部ハ藻類甚ダ少ナクふじつばノ死滅セルモノヲ以テ覆ハレ且ツ石灰藻類アリ、いせねび、めばる、べら、かさこ、こしたか等分布シ殊ニあこノ棲息スルモノ多キヲ認メタリ

【六月二十八日】

四、立婆瀬

水深 (自一尋半 自午前九時五十分  
至七尋半 至全九時二十五分)

岩礁部ハ大岩ヨリ成リ重疊シ七尋半ニシテ盡キ、底質ハ砂ニ礫ヲ混ジ堅シ、藻類ハほんだわら類及み

る等分布スルモ多カラズ、其ノ他こぶだひ、くろうを、めばる、さゞね等ノ分布アルモ少ナシ

五、笠瀬

水深 (自三尋半 自午前九時四十分  
至十八尋 至全十時卅五分)

獨立セル大岩礁ニシテ岩面淺部十尋附近迄ハ短小ナル雜藻着生シ頂部ニ於テ三尋半ヲ示スモ殆ンド佇立セル状態ニシテ十八尋ニテ海底ニ達ス、底質砂ニシテ軟カシ、いさぎ、あこ、くろうを、いがみ、あい、い、やはげ、たかのは、たひ、しまだひ、いせねび、さゞね等棲息ス、就中いせねび、くろうを、やはげノ多キヲ認メタリ、尙中層ニあぢ兒ノ洄游ヲ見ル、本礁十尋以深ニ於テハ岩面ニ浮泥堆積シ歩行セバ混濁シ透視不能ニ至リタリ

六、よせがしり崎

水深 (自一尋 自午前十一時四十分  
至五尋 至全十一時二十五分)

岩礁部ハ緩傾斜ヲ爲シ五尋附近ノ岩礁ニハ四五尺ノほんだわら着生セルモ淺部ハ殆ンド裸ニシテ石灰藻類ヲ以テ覆ハレ他藻類ノ着生ヲ見ズ、あはび、さゞね、こしたか、めばる、やはげ、あなこ、かさこ等分布セルモ少ナシ

七、はこ崎

水深 (自一尋 自午前十一時四十分  
至十四尋半 至午後零時五十分)

傾斜稍々急ナル砂底ニシテ所々ニさんご類ノ小集團アリ十四尋半ニシテ全クさんご類ナキニ至リ底質砂泥トナリ軟カナリ、べら、かさこ少量分布スルノミニシテ他ニ何物ヲモ見ズ

八、沖ノ瀨

水深 (自一尋 自午後三時三十分  
至十五尋 至全三時三十分)

分離セル岩礁ナルモ面積廣ク西面ニ於テ十五尋附近迄岩礁點々存在スルヲ見タリ、底質砂泥ナリ、海藻ハほんだはら、うみづた及雜藻等着生シ、めばる、べら、かさこ等分布スルヲ見タルノミニシテ魚族少ナキガ如ク認メラレタルモ雨水ノ爲淺部混濁シ居リタルヲ以テ確メ得ザリシ

九、龍王ノ鼻

水深 (自一尋 自午後三時四十三分  
至十二尋 至全三時五十七分)

傾斜稍急ナルモ岩石小ニシテ大ナルモノヲ見ズ十一尋ニシテ岩礁盡キ底質砂ニ少量ノ泥ヲ混ジ軟カナリ、礁部ニハ短カキほんだはら類並雜藻少量存在シ魚類ハかさこ、べら、をこせ並たこの分布ヲ見ルノミニシテ量亦少ナシ

一〇、横瀨

水深 (自四尋 自午後四時四十分  
至十一尋 至全五時八分)

本礁ハ最淺部ニ於テ四尋ヲ示シ十一尋ヨリ潜水シタルニ岩礁ハ大ニシテ且ツ廣ク分離セル個所ハ大小種々ノ石ヨリ成リ所々砂ヲ以テ覆ハレ居レリ、岩面ハ概ネ石灰藻類ヲ以テ覆ハレたまゐる多ク着生シ部分的ニ短カキ雜藻ノ着生セルアルノミナリ、其ノ他べら、かさこ、やはげ、なまこ、めばる、うに等少量棲息シめばるハ稍多キガ如キモ他ニ比シ少ナキモノ、如シ

三 浦 村

【六月二十九日】

一一、山崎鼻

水深 (自一尋 自午前八時五十三分  
至十九尋 至全九時三十分)

岩礁部ハ大岩ヨリ成リ傾斜急峻ニシテ十九尋ニシテ盡キ底質砂トナリ介殼ヲ混ズ、岩礁九尋迄ハ雜藻類ノ着生ヲ見、夫レヨリ十一尋半迄ほんだはら類相當多ク着生セリ、かさこ、べら、かさこ、なまこ等分布シ特ニめばるノ仔多キヲ見タリ

一二、雀瀨

水深 (自一尋半 自午前九時四十分  
至十八尋半 至全十時五十分)

多數ノ小岩石ヨリ成リ十八尋半ニシテ底質砂ニ少量ノ泥ヲ混シ傾斜緩ナリ、岩部ニハほんだはら類、雜藻等相當多ク着生セリ、めばる、べら、やはげ、かさこ、かわはぎ等相當分布シ且ツわいの棲息ヲ見タリ而シテ岩礁盡キ稍東南方ニ前進スルニ高サ約二尺位ノ岩礁露出セル個所アリテわい、いさぎ、たひ等ノ分布セルヲ見タリ

一三、安米崎

水深 (自一尋半 自午前十時二十五分  
至十七尋半 至全十時五十分)

岩礁部ハ大岩ヨリ成リ斷崖ヲ形成セル個所多ク十七尋半ニシテ盡キ底質砂泥トナリ介殼混在シ傾斜又急ナリ、礁部ニハ雜藻相當多クほんだはら類少量混生シやはげ、べら、かさこ、わい、なまこ、ぶだひ、めばる兒等ノ分布ヲ見ルト雖多カラズ

一四、つばくろ瀬

水深 (自十五尋 自午後一時四十分  
至十七尋 至全二時零分)

獨立セル暗礁ニシテ最淺部ニ於テ十五尋ヲ示シ基部ハ砂ヲ以テ覆ハレ高サ四尺乃至五尺餘ノ大岩石所々ニ存在シ倭小ナル雜藻着生スルヲ見ル、ぶだひ、べら、かさご、やはげ、わい等分布シなまこ又多シ、中層ニ於テあぢ兒ノ群游セルヲ見タリ、礁外ノ底質ハ砂ニシテ少量ノ泥ヲ混ジ灰白色ヲ呈セリ

一五、尾崎鼻

水深 (自五尋 自午後二時二十五分  
至二十一尋 至全三時十分)

大岩礁ヨリ成リ所々斷崖ヲ形成スル所アリテ二十一尋ニシテ岩礁盡キ底質砂泥ニシテ軟カナリ、あらめ、ほんだはら類、雜藻等多ク着生シ就中あらめノ多キヲ見タリ、さゞね、なまこ、べら、かさご、やはげ、ぶだひ、いせわび等分布シ中層ニ於テいわしノ洄游シツ、アルヲ認メタリ

一六、道ノ下

水深 (自一尋半 自午後三時二十五分  
至十尋 至全四時零分)

岩礁部ハ稍々大ナル岩石ヨリ成リほんだはら類多ク着生セリ、十尋ニシテ底質砂トナリ平坦ニ近シ、岩礁部ヨリ分離シ佇立セル岩礁アリテ最淺部五尋ヲ示シ高サ五尋アリ、いせわび、べら、かさご、やはげ、こち、めばる、きす等ノ棲息セルヲ認メタリ

【六月三十日】

一七、港内漁場障害

水深 五尋 (自午前十一時零分  
至全十一時五十分)

運搬船ノ繫碇用錨荒天ノ際ロープ切斷シ錨ノ殘存セルモノトノ事ニシテ繩ヲ打掛ケシメ操業シ約三十貫ノ錨一挺ヲ引キ掲ゲタリ、尙一挺殘存セル由ナリシモ底質軟カキ泥ニシテ海水混濁シ認識不能ナルヲ以テ次回ニ讓リ中止セリ

一八、平床

水深 (自一尋 自午後一時五十分  
至二十尋 至全二時五十分)

岩礁部ハ急峻ニシテ五尋附近ほんだはら、雜藻等着生スルモ夫レヨリ以深ニハほんだはらノ着生ナク僅カニ短小ナル雜藻着生スルノミナリ、十尋以上ニ至レバ雜藻ナキニ至リ岩石又小トナル、二十尋ニシテ底質砂トナリ平坦ニ近シ、さゞね、べら、かさご、やはげ、めばる兒少量分布セルヲ見ル

一九、おしめ崎

水深 (自一尋 自午後二時二十五分  
至十六尋 至全二時四十分)

岩礁部ハ急峻ニシテ大岩ヨリ成リ雜藻ノ着生スルモノアルモ十尋以深ニ至リ其ノ量激減ス、十六尋ニシテ底質砂トナリ少量ノ泥ヲ混ゼリ、さゞね、べら、かさご、やはげ、めばる等分布スルモ量少ナキガ如シ

二〇、蕨崎

水深 (自一尋 自午後三時十五分  
至十五尋半 至全三時四十分)

岩礁部ハ相當傾斜急ニシテ雜藻ニ少量ノほんだはらヲ混ジ着生スルモ少ナシ、十五尋半ニシテ岩礁部盡キ泥ニ少量ノ砂ヲ混ジ軟カナリ、やはげ、べら、かさご、めばる等ノ分布スルアルモ量少ナシ



二一、港内漁場障害

水深 (自五尋 至七尋) 自午後四時八分 至全 四時三十分

午前中潜水セシ「十七」ト同一個所ニシテ前回全様網ニテ曳掛ケシメ錨一個ヲ揚ゲシモ現時使用中ノ發動機船ノ常用錨ナリシヲ以テ更ニ搜索セシモ海水混濁シ認識不能加フルニ夕景ニ入り光線少ナキ等ニ依リ中止スルノ止ムナキニ至レリ

【七月一日】

二三、宮ヶ崎

水深 (自一尋半 至十二尋半) 自午後三時四十分 至全 三時五十分

岩礁部ハ小岩石ヨリ成リ傾斜稍急ニシテ十二尋半ニテ盡キ砂ニ泥ヲ混ズル底質トナル岩礁部ニハ短小ナルほんだわら及雑藻少量着生スルノミニシテかさご、べら、やはげ、ぶたひ等ノ分布セルヲ見ルモ少ナシ

二四、がめ石

水深 (自一尋 至十尋) 自午後四時二十分 至全 四時三十分

岩礁部ハ急峻ニシテ大岩ヨリ成リ十尋ニシテ底質泥トナリ傾斜稍急ナリ、岩礁部ハ前個所ト略同ナル海藻ノ着生ヲ見ルト共ニ魚類ニ於テモ同様べら、かさご、やはげ、ぶたひ等少量棲息セリ

二五、つくり網代

水深 (自一尋 至七尋) 自午後四時四十分 至全 四時四十七分

岩礁部少ナク小岩所々ニ轉在シ緩傾斜、七尋深ニテ砂泥底トナル、べら、かさご僅カニ分布セルヲ見ルノミニシテ海藻類又少ナク短小ナル雑藻少量着生スルニ止マル

二六、港内漁場障害

水深 七尋 (自午後五時二十分 至全 六時三十分)

前記「十七」「二十一」ノ個所ト同一ノ所ニシテ同様ノ方法ニヨリ金錨重量約三十五貫ノモノ一挺ヲ引揚ゲ除去セリ、之ニテ本漁場ハ全ク障害ナキニ至レリ

奥南村

【七月二日】

二六、こまろ瀬

水深 (自十二尋 至十八尋) 自午前十一時零分 至全 十一時零分

獨立セル暗礁ニシテ頂部十二尋、西南基部ニ於テ十八尋ヲ示シ大岩佇立シ頂部ハ三角形ニ近ク尖リ居レリ、岩面ニハ短小ナル雑藻及たまみるノ着生ヲ見ルノミニシテ蘚苔類多ク着生スルモノアリ、東面及北面基部ハ砂底ニシテ堅ク西南面基部ニハ轉石相當ニ存在スルモ砂泥中ニ半バ没入シ居レリ、ぶたひ、いさぎ、くろうを、べら、かさご、やはげ、めばる、たひ、ねこざめ、いせび等分布シ且ツ中層周圍及頂部附近ヲ洄游スルはがつをノ群ヲ見タリ、前記中いさぎハ相當多キモいせびハ其ノ數少ナシ

二七、ほら網代漁場障害

水深 (自五尋半 至七尋半) 自午後三時三十分 至全 五時五十分

潜水作業四回ニ及び此間七、八貫ヨリ四、五貫ニ互ル轉石ヲ畚ニ八杯除去シタリ、然レドモ尙深部ニハ相當障害トナルガ如ク認めラル、モノヲ見タルモ網引ニ際シ障害トナリ袋部ヲ破損スルハ淺部ノミトノ事ナリシヲ以テ障害除去ハ之ニテ完了セリ

【七月三日】

二八、大由良前漁場障害

水深 十二尋 (自午前九時三十五分 至全 九時四十分)

高サ約四尺、長サ六尺、幅五尺餘ノ大岩石ニシテ相當埋没セラレ居リテ除去容易ナラザルモノト認めラルレ附近岩礁部ニハいせねび、ぶだひ、べら、かさこ等棲息シ岩礁ニハ相當雜藻着生セリ

二九、よせか漁場障害

水深 (自十四尋 自午前九時五十三分 至全 十時十五分)

潜水三回ニシテ重量約七貫ノモノ十個ヲ除キタルモ尙小ナルモノアリ、然レドモ大ナル障害ハ之ニテ除去シ得タリ

三〇、ほどがしり漁場障害

水深 (自十四尋 自午前十一時三十分 至全 十一時三十分)

位置不明ナル爲第一回ノ潜水ニ於テハ發見スルニ至ラズ二回目ニ於テ障害物ヲ發見シ約十七、八貫ノ石一個ヲ除去セリ、之ニテ障害ナキニ至リタルガ如ク認めラル

三一、大良崎東端

水深 (自一尋 自午前十一時十八分 至全 十一時三十分)

岩礁部ハ緩傾斜ヲナシ大岩石ナク小岩石多ク重疊シ十六尋ニシテ底質砂トナリ稍々堅ク緩斜面ヲナセリ、岩礁部ニハほんだはら、雜藻類着生スルアルノミニシテ少ナクべら、かさこ、やはげ等棲息しさゞわノ分布ヲ見ルモ其ノ量少ナク形亦小ナリ

三二、おち瀬

水深 (自十五尋半 自午後二時三十五分 至全 三時十分)

獨立セル暗礁ニシテ十七尋深ヨリ潜水セリ、本礁ハ相當廣ク二十一尋半ニシテ尙小岩石重疊シ居レルヲ見ル、淺部ハ十五尋ヲ示シ二個ノ大岩アリ、十七尋深附近迄ハ雜藻ノ着生ヲ見ルモ夫レ以深ニハ之ヲ認めズ、あぢ兒、やはげ、いせねび、さゞわに、かさこ、べら等ノ分布アリ、いせねびハ相當多キガ如ク認めラレタリ、本礁ハ相當たひノ來游ヲ見ル由ナルヲ以テ基部迄調査セムトセシモ海底ハ先日來ノ降雨ニ依ル濁リ沈澱シタル爲白濁シ居リテ透視全ク不能ナリシヲ以テ二十一尋半以深ハ調査不能ナリシ

三三、赤崎鼻

水深 (自二尋半 自午後三時三十分 至全 四時十分)

「第二」ノ個所ト同一個所ナルモ稍々其ノ位置ヲ南方區域ニ取り廣汎ニ互リあわび、さゞわ等ノ養殖場トシテノ調査ヲ遂ゲシモ前回ト大差ナキヲ認めタリ

三四、赤崎鼻

水深 同 前 (自午後四時十二分 至全 四時五十分)

「三三」同ト全様ノ主旨ニ依リ北方地區ヲ調査セルモ大差ナキヲ認メタリ

【七月四日】

三五、伊佐木漁場障害

水深 七 尋 自午前八時三十三分  
至全 十時四十分

潜水調査五回ニシテ約十貫及三十貫ノ岩石二個ヲ除去シタリ、底質砂ナリ

三六、(名不詳)障害

水深 五尋半 自午前十一時五十五分  
至全 十一時五十分

網具ノ荒手ノ切斷纏絡セル約四十貫ノ岩石一個ヲ揚ゲ障害ヲ除去シ完全ナル漁場トナセリ、底質砂ニ  
少量ノ泥ヲ混ズ

三七、かくればた漁場障害

水深 七 尋 自午前十一時二十五分  
至全 十一時五十五分

大岩石三個存在シ根石ノ如クニシテ除去シ難ク且應急處置モ不能ナルガ如ク認メラレタリ

三八、伊佐木漁場障害

水深 四尋半 自午後二時三十分  
至全 二時四十分

「三五」ノ個所ヨリ稍々位置ヲ異ニセル個所ニシテ障害物アル旨ニテ調査セルモ發見スルニ至ラズ

三九、石神漁場障害

水深 六尋半 自午後三時零分  
至全 三時二十四分

重量約二十貫ノ石一個ヲ除去ス以テ完全ナル漁場トセリ、底質砂  
四〇、からと瀬

水深 自十五尋 自午後三時四十五分  
至全 四時十八分

獨立セル暗礁ニシテ最淺部十五尋ヲ示シ大岩石多ク高サ約二尋ニ及ブモノアリ、基部ハ砂ヲ以テ掩ハ  
ル、ガ如ク認メラレタリ、礁外ノ海底ハ砂ニシテかれひノ潜伏セシ形跡ヲ見タリ、其ノ他わい、めばる、  
やはげ、かさご、いさぎ、べら、いせび棲息シいせびノ如キハ砂底上ニ迹出シ居リテ其ノ數、數十尾ヲ  
數ヘ得タリ(之ハ産卵期ナル爲迹出セシモノナラムカ)岩礁面ニハ雜藻類着セルモ短カク且少ナシ

四一、白濱漁場障害

水深 十二尋 自午後四時四十五分  
至全 五時十二分

網地ノ纏絡セル約七十貫ノ石一個ヲ引キ揚ゲ完全ナル漁場トナセリ、底質ハ砂ナリ

【七月五日】

四二、錐ヶ瀬

水深 自四尋半 自午前八時二十分  
至全 九時零分

獨立セル暗礁ニシテ淺部ハ鍋足型ニ位置セル大岩礁アリテ中央凹部ニハ砂アリ頂部ニ於テ四尋半、五  
尋半、六尋ヲ示セリ、夫レ以外周圍ニハ大小種々ノ岩石重疊シ居ルアリテ所々砂ヲ以テ覆ハル、ほんだ  
はら、雜藻等相當ニ着生シいさぎ、やはげ、わい、かさご、べら、ぶだひ等棲息シいさぎ多キヲ見ル、二十  
尋以深ハ海水混濁白色ヲ呈シ透視スルヲ得ザルヲ以テ底質ヲ確ムルニ至ラズ

四三、只波鼻

水深 (自一尋 自午前九時三十分  
至八尋半 至全九時五十分)

岩礁部少ナク八尋半ニテ底質砂トナリ傾斜急ナリ、ほんだはら、雜藻、天草、たまみるアルモ二尋以深ハ雜藻ノミトナル、天草ハ其ノ附着層四尺ニシテ品質不良ナリ、べら、かさご、うに等棲息スルモ其ノ數少ナシ

四四、かみこばた漁場障害

水深 十一尋半 (自午前十時十八分  
至全十時卅六分)

障害ト目サル、モノハ漁場西方ノ突出部ノ岩礁部ト連續セルモノ、如クニシテ砂底中ニ大岩石三個存在シ除去容易ナラズ且應急處置又不能ナルガ如ク認メラレタリ

四五、藪ヶ下漁場障害

水深 二尋半 (自午前十一時二十分  
至全十一時卅五分)

泥底中ノ約四十貫ノ石一個ヲ除去シタルモ尙存在スルトノ事ニテ調査セシモ遂ニ發見スルニ至ラザリシ

四六、牛川前漁場障害

水深 (自一尋半 自午前十一時四十分  
至七尋 至全十一時五十分)

綱ニテ掛ケシメタルモ掛カリ居リシ障害物ハ投棄セラレタル小ナル鍋ノ泥底中ニ没入セルモノニテ今日迄大ナル障害ヲ爲セシト認メ難キヲ以テ尙調査セシモ遂ニ發見スルニ至ラザリシ

立間尻村

四七、大ヶ浦漁場障害

水深 七尋 (自午後二時三十分  
至全三時二十分)

二回ニ互リ調査セル結果高サ五寸、面積二尺四方餘ノ岩盤露出シ居リタルヲ以テ應急處置トシテ砂ヲ以テ覆ヘリ、其ノ他約五貫ノ石三個ヲ除去シタリ

四八、中鼻沖漁場障害

水深 十八尋 (自午後三時五十分  
至全四時零分)

手繰網漁場障害ニシテ吉田灣口中央ニ位置シ綱ニテ掛ケサシメ潜水セシモ海底暗黒ニシテ全ク何物ヲモ判別シ難キヲ以テ中止セリ

四九、小淺川漁場障害

水深 (自一尋 自午後四時十五分  
至七尋 至全五時十分)

潜水スルコト二回ニシテ曳キ掛ケシ綱ニ立貝一個アルヲ發見之ヲ除去シタリ、此ノ外何物モ障害トナルベキモノヲ見ザルヲ以テ中止セリ、本個所ハ底質砂泥ニシテ淺部二尋附近迄あぢも繁茂スルアリテ夫レヨリ以深ハ傾斜急トナリしやこ穴ヲ見タリ

【七月六日】

五〇、古城漁場障害

水深 (自十尋 自午前八時四十分  
至十二尋 至全九時二十分)

障害物ノ位置ト認メラル、個所ニ於テ三回潜水調査セルモ發見スルニ至ラズ、底質泥ニシテ軟カク傾斜ナリ

五一、鹽木漁場障害

水深 (自一尋 至八尋半) 自午前十時 至全 十時四十二分

八尋半附近ニ於テ高サ約五寸、面積半坪餘ノ岩盤露出シ介殼ノ附着セルモノヲ見タリ、之即チ障害物ヲシク認メラレタルヲ以テ介殼ニ網ノ掛リ破損スル慮アリタルヲ以テ之ヲ除去シタリ、岩盤ハ容易ニ除去シ難キヲ以テ一時的處置トシテ砂ヲ以テ覆フヲ良策ト認メタリ

五二、只波鼻西部

水深 (自一尋 至二十尋) 自午前十一時四十分 至午後零時二十分

岩礁部ハ大岩石重疊シ居リ傾斜緩ナリ十尋ニシテ岩礁盡キ砂底トナル、尙西進スルコト約三十間ニシテ二個ノ岩礁分離存在シ居リテいせわび棲息シ居レリ

岩礁部ニハほんだはら、雜藻等相當着生シ、さざね、べら、かさご、やはげ、いせわび等棲息セリ、いせわびハ其ノ數相當多シ

五三、古城漁場障害

水深 (自七尋 至九尋) 自午後四時五十分 至全 四時三十分

「五一」ノ個所ト同一ノ所ニシテ網ヲ以テ掛ケシメ調査セルニ佇立セル二個ノ岩石アリテ其ノ高サ各約六尺、其ノ間隔約二間ヲ隔テ居リテ北部ノモノハ頂上ニ於テ七尋半、南方ノモノハ八尋ヲ示シ海深ハ八

尋半乃至九尋ニ互ル

岩礁面ニハなまこ無數ニ棲息シ居リテ殆ンドなまこニテ覆ハレタルガ如キ感アリ、底質泥ニシテ傾斜緩ナリ

五四、龍王鼻漁場障害

水深 (自三尋半 至八尋半) 自午後四時四十八分 至全 五時十五分

岩礁部ノ連續突出セルモノニシテ淺部岩礁ニハ短カキほんだはら、雜藻等着生シ頂部ニ於テ三尋半ヲ示シ八尋附近迄突出ス、やはげ、べら、かさご、たこノ分布アリ、除去シ得ベキモノニ非ラサルモノト認メラレタリ

結論

奥南村

イ、一般狀態

本村沿岸ハ東宇和郡界立岩附近ヨリ由良崎附近ニ至ル海區ハ概ネ大岩石ヨリ成リ傾斜急峻ニシテ岸深ナリ、夫レヨリ内灣ニ入ルニ從ヒ傾斜ノ度ハ緩ニ岩礁部少ナキニ至ル

然シテ底質ニ於テハ由良崎附近以西ハ概ネ砂底ニシテ僅カニ泥ヲ混ズルモノアルニ過ギザルモ灣内ニ入ルニ從ヒ泥部多キニ至ルガ如ク認メラレタリ、之ヲ要スルニ灣奥部ハ流潮ノ影響ヲ受クルコト少ナキ結果細泥ノ移動ナキニ至ルモノト推察セラル

ロ、魚類

魚類ハたひ、たかのは、いさぎ、あい、こぶだひ、あこう、いがみ、めばる、かさこ、くろうを、わい、あぢ、ねこざめ、さざねわに、ぶだひ、しまだひ、あなご、べら、やはげ、はがつを等分布シ居リテ其ノ分布状態ハ由良崎附近ニ於テ兩分セラル、ガ如クニシテ内灣部ニハべら、かさこ、やはげ等ノ雜魚並めばる類ヲ見ルノミニシテ主要魚類ヲ見ルコト少ナキモ由良崎附近以西海區ニハ相當重要ナル磯付魚或ハ洄游性魚族ノはがつをノ如キノ來游セルモノアルヲ認メタリ、之即チ同海區ハ相當藻類多ク且岸深ナル爲沿岸近ク諸魚族ノ來游ヲ容易ナラシムル所以ナルガ如ク察セラレ

然シテ獨立セル暗礁部ニハ狀況ノ部ニ於テ記述セルガ如クたひ、くろうを、いさぎ類ノ瀬付魚ハ時期ニ依リ相當來游スルモノ多ク認メラル、ト共ニこころ瀬ノ如クはがつをノ來游ヲ見ルガ如キハしびこ、めじか等ニ於テモ時期ニ依リ來游スルモノト相像シ得ベシ

要スルニ由良崎附近並暗礁附近ハ釣漁業者ノ漁場トシテ適當ナルベク又磯魚ヲ目的トスル網漁業者ノ漁場タルベシ、今本村漁業状態ヲ見ルニ曳網漁業ヲ主體トシ此ノ間養蠶業ニ専心セルガ如ク見受ケラル、ヲ以テ閑期ヲ利用シ小資本ニテ營業シ得ベキ建網漁業及一本釣或ハ延繩漁業ヲ行ハ、相當收益ヲ擧ゲ得ベキモノ、如ク推考セラル

ハ、藻類

藻類ハ主トシテほんだはら類、雜藻ニシテ之又由良崎附近ニ於テ其ノ量兩分セラレ灣内部ニ入ルニ從ヒ減少シ由良崎以西地區ニ多キヲ見ル、然レドモ「たてば瀬」附近ハ石灰藻類或ハ藓苔類ノ着生ニヨリテ他藻類ノ着生ヲ見ザルノ地區ヲ有シ甚ダ奇異ノ現象ヲ呈セルモ一般ニほんだはら類、雜藻ハ分布セルモノト云フヲ得ベキモ有用藻類トシテハ見ルベキモノナシ

ニ、貝類其ノ他

貝類ハあはび、さざね其ノ他雜貝分布セルモあはび、さざねノ如ク有用ナルモノニアリテハ由良崎附近以西ニ其ノ分布多ク殊ニ赤崎鼻ニ於テ多キヲ見タリ、然レドモ灣奥部ニハ其ノ影ヲ見ザルガ如キ状態ニシテ全沿岸ニ互リ其ノ分布ハナキモノ、如ク認メラレタリ

最モ多キ赤崎鼻ハあらめ、かぢめノ如クあはび、さざねニ適セル餌料ハ發見セザルモ之ガ代用食タルほんだはら類、雜藻ノ着生ハ本村内他ニ其ノ比スルモノ無キガ如キ状態ニシテ又潜息スベキ岩礁多キヲ認メタリ、而シテ本地ハ其ノ面積廣ク尙蕃殖スベキ餘地多キヲ認メタリ

依ツテ同地ニ於テ漁業組合等主體トナリ一時的禁漁或ハ輪採、採捕時期ノ制限等ヲ申合的ニ勵行シ以テ之ガ蕃殖ヲ期サバ其ノ産額ハ尙ルベカラザルニ至ルベク考察セラレ

因ミニ同地ハ其ノ深度五尋以下ニシテ能ク鉞突ヲ以テ漁獲シ得ベク敢テ潜水採捕ニ依ルノ必要ナキガ如ク認メラレ採捕容易ナルガ如シ、其ノ他いせねびハ其ノ分布部分的ニシテ棲息量少ナク僅カニからど瀬ニ於テノミ棲息多キヲ見ルニ止マリ建網等ニテ漁獲スルヲ適當トスレドモ蕃殖保護上緩急宜シキヲ得ザレバ減少スルニ至リ悔ヲ殘スベシ

ホ、漁場障害

漁場障害ノ調査ヲ行ヒタルハ十二個所ニシテ此ノ内四ヶ所ハ除去容易ナラザルモノニシテ其ノ位置等ヲ明示シ或ハ一時的應急策ヲ指示シ他ノ八ヶ所ハ障害物ヲ除去シ完全ナル漁場トナシ漁場價值ヲ増大セ

三 浦 村

イ、一般状態

本村沿岸ハ灣奥ニ於テ稍々傾斜ヲ示セル部位アリト雖一般ニ大岩石ヨリ成リ所々斷崖ヲ形成シ傾斜急ニシテ岸深ナリ、底質ハ灣口部ニ於テハ砂ノ部位多ク順次灣内ニ入ルニ從ヒ泥多キニ至リ最奥部ハ泥トナリ軟カナリ、之即チ灣口部ニ比シ奥部ハ潮流ノ影況ヲ受クル事少ナク從ツテ細粒ナル泥土ノ流失少ナキニ基因スルモノナルベク推セラル

ロ、魚類

魚類ハべら、かさご、めばる、やはげ、かわはぎ、とす、こち、ぶたひ、わい、いさぎ、いわし、あぢ等分布シ就中めばる仔ノ多キヲ見タリ、之即チ潮流緩ナル爲稚兒ノ蕃殖生育ニ好適ナル結果ナラムト思考セラル、尙本村沿岸岬角部ニハ藻類ノ着生相當多キガ故ニ他ノ稚魚ノ發生又少ナカラザルガ如ク見受ケラル、ト共ニ之等稚魚ヲ捕食セムトスル魚族ハ岸深ニシテ灣奥部ニ至ルモ比較的其ノ深度減少スルコト少ナキト相俟チテ洄游性魚類ノ灣内奥部迄來游ヲ見ルニ至ルモノナラザルカラ思ハシメタリ

而シテすゞめ、つばくろ瀬等ニハたひ、いさぎ、あぢ等ノ來游スルモノ多カルベク釣漁業ノ好漁場トナルガ如ク推考セラル

依ツテ殆ンド釣漁業ヲ顧ミザル同村ニ於テハ閑期ヲ利用シ釣漁業ノ發達ニ力ヲ至スヲ良シトスルガ如ク認メラレタリ

因ミニ吉田附近ノ漁業者ハつばくろ瀬ニ迄來漁スルモノ相當多キニ達スルヲ聞知セリ

ハ、藻類

藻類ハ一般ニ着生ノ度奥南村ニ比シ多クあらめ、ほんたはら類、雜藻ノ分布アリテあらめハ灣口山崎鼻附近ニノミ多キヲ見ルノミニシテ他ニ之ヲ見ザルハ甚ダ奇異ノ感ヲ抱キタリト雖其ノ依ツテ來ル原因明瞭ナラザルヲ遺憾トスル所ナリ、此ノ外有用藻類トシテノモノヲ發見スルニ至ラズ、而シテ着生ノ度ハ他ト同様ニシテ灣口部ヨリ奥部ニ至ルニ從ヒ減少シ居レルヲ認ム

ニ、貝類其ノ他

貝類ハさゞわ其ノ他雜介ヲ見ルノミニシテさゞわハ灣口部ノ藻類多キ個所ニ多キヲ見ルト共ニ灣内ニハ之ガ分布セルヲ見ズ、あわびハさゞわノ状態ヨリ推シ棲息シ得ベキ可能性アルモ之ヲ發見スルニ至ラズ、然レドモ山崎鼻ノ如キ好適餌料タルあらめノ繁生スルアルヲ以テ移殖等ノ方法ヲ講ズレバ相當蕃殖スベキモノト認メラレタリ

なまこハ夏眠期ニ入りタル事トテ自然發見容易ナラザルモノト見受ケラレタルモ四ヶ所ニ於テ之ガ棲息セルモノヲ見タルハ蓋シ本村沿岸ニ相當多量ニ分布シ居ルモノト推考スルニ難カラザルモノト信ゼリ

ホ、漁場障害

いせむびハ其ノ分布個所ハ少ナキガ如クナルモ灣口藻類多ク且潛息スベキ個所多キ山崎鼻、尾崎鼻附近ニハ棲息シ得ベキ可能性アルヲ以テ移殖等ヲ行ハバ相當蕃殖スルモノト推考セラル

調査個所一ヶ所ニシテ潜水三回ヲ以テ完全ニ之ヲ除去シ以テ漁場價值ヲ増大シタリ

思フニ本障害ハ同地ヲ根據トスル運般船ノ常用錨綱ノ切斷セル結果之ヲ放棄シタルモノニシテ其ノ原因ハ人爲的ナリト稱スルヲ得ベシ、依ツテ如斯漁場内ニ設クベキモノハ金錨ヲ用キシメズ土俵等ヲ代用セシメナバ障害ヲ殘スニ至ラザルモノト察セラル、ヲ以テ今後大イニ注意ヲ要スベキ事項ナリト信ズ

立間 尻村

本村ニ於テハ主トシテ漁場障害ノ調査ニ日子ヲ費シタリシヲ以テ各點ニ互リ詳記推斷スル事能ハザルヲ以テ大略ノ事項ニ止ムルノ外ナク左ニ之ヲ記述セリ

本村沿岸ハ吉田灣ヲ南北ニ二分シ其ノ状態ヲ異ニスルガ如ク認めラル、即チ南岸ハ相當岩礁部存在シ且ほんだはら、雜藻類ノ着生ヲ認ムルノミナラズ、べら、かさこ、めばる、さゞね、いせねび等分布シ底質ハ泥或ハ砂泥ナリ、然ルニ北岸ハ岩礁部少ナク海藻類トシテハあぢもノ成生ヲ見ルニ止マリ魚類又僅カニべら類ヲ散見シ得ルノミニシテ海底ハ砂ヲ主トシ泥ヲ混スル個所少ナキヲ見ル、之即チ同港ニ流入スル河川ノ淡水ハ北岸部ヲ洗ヒ流出セル泥土等ノ粗ナル部分ハ附近ニ沈滯シ細粒ナル部ハ尙港外ニ吐出セラ、ニ依ルモノ、如ク從ツテ岩礁部位ノ存スル個所アリトスルモ海藻ハ淡水ノ影響ニ依リ着生少ナキニ至レルガ如ク推セラレタリ

漁場障害ハ六ヶ所ノ調査ヲ行ヒタルモ概ネ除去困難ナルモノニシテ之等ノ位置及應急處置等ヲ指示シ以テ操業上ノ注意ヲ促シタリ、而シテ完全ニ除去シ得タルモノハ一個所ニシテ本障害ハ立貝ノ爲メナルベク認めラレタリ

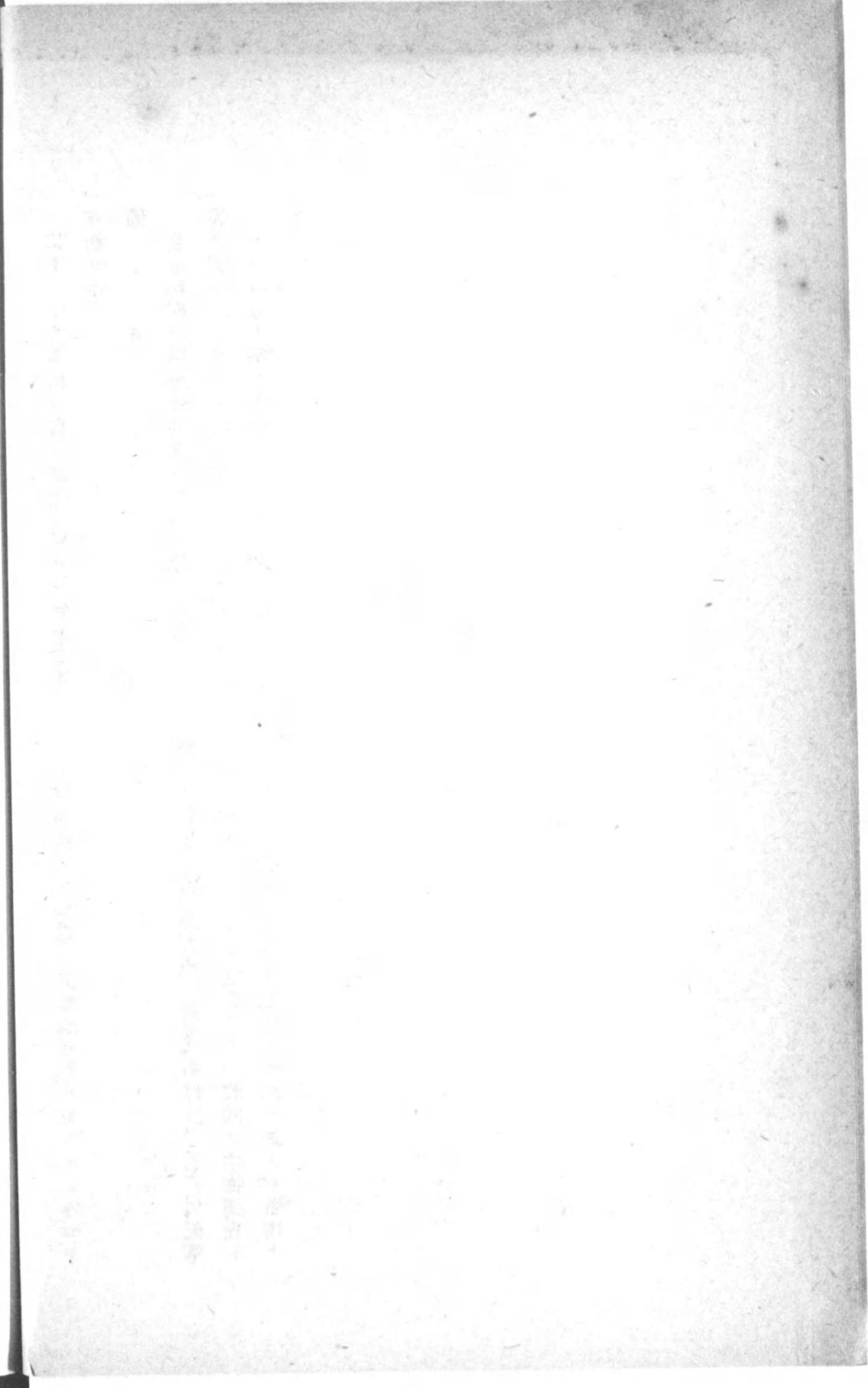
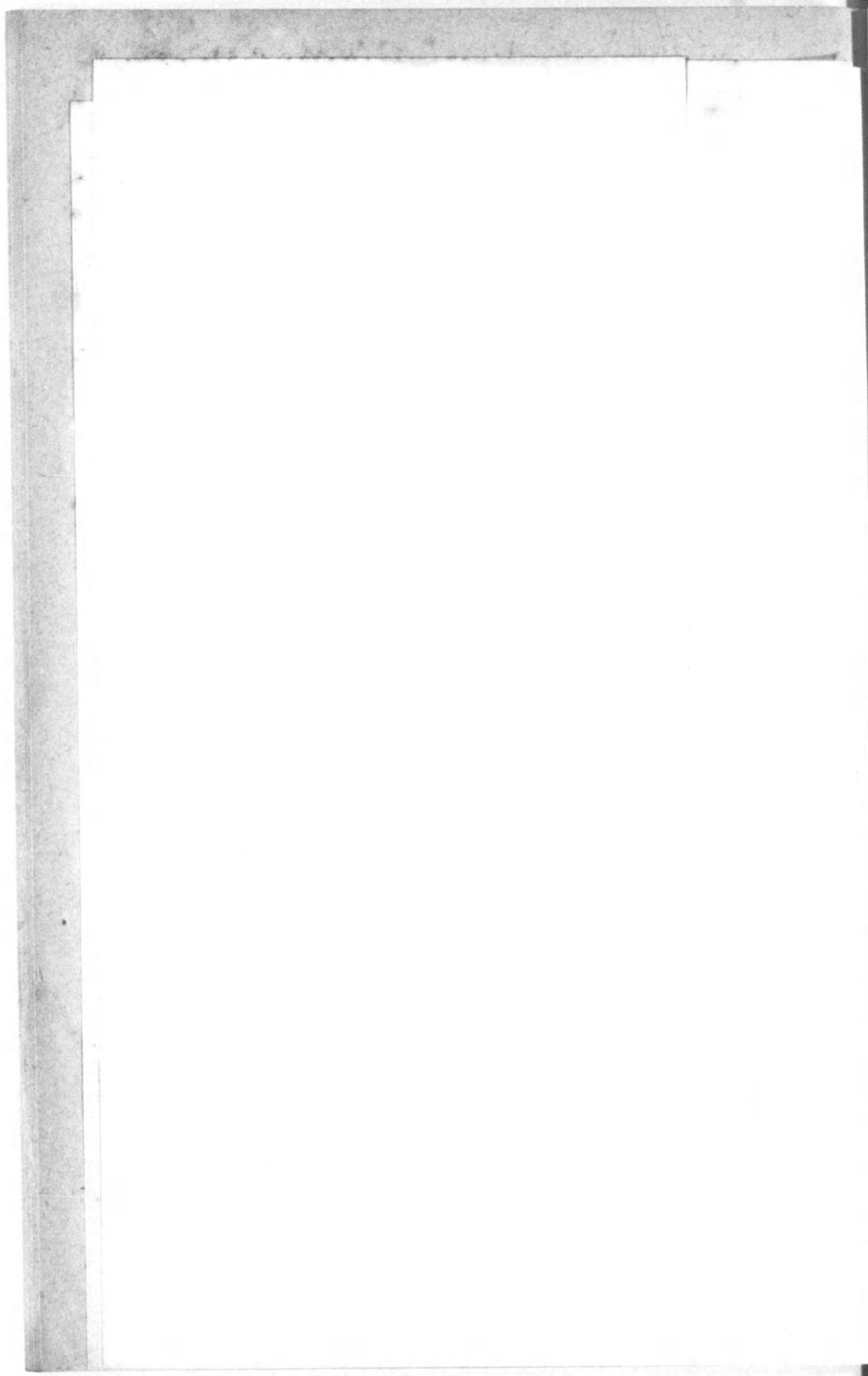
なまこハ古城ニ於テ多數棲息スルヲ見タルヲ以テ吉田港内ニハ相當分布スルモノ、如ク認めラレタリ

以上ニ依リ本村ハ自己地先ニ於テハ釣漁業等トシテノ好漁場ナキヲ以テ自然他ニ之ヲ求ムルノ外ナキガ如ク察セラル

備 考

北宇和郡沿岸海底調査ハ本年ニ於テ一巡シタリト雖其ノ目的、漁場障害或ハ眞珠、あはび、さゞね、天草等ノ調査ニ限ラレ施行セラレタルモノナルヲ以テ其ノ調査位置ニツキテハ連繋ナク一般的ノ生物調査トシテハ遺憾ノ點少ナシトセザルヲ以テ尙機ヲ見テ更ニ連繋アル調査ヲ行フノ要アルヲ思ハシムル事切ナリ





# 北宇和郡海底調査位置圖

三浦村

(番号、状況、番号、符合又)



北宇和郡海底調査位置圖  
 與南村及立間尻  
 (番号、状況、番号ト符合ス)



## 西宇和郡海底調査

### 一、調査ノ目的並範圍

今回調査ノ範圍ハ佐田岬端ヨリ東、西宇和郡界ニ至ル豊豫海ニ面スル西宇和沿海ニシテ主トシテ岬角部、離島、離礁、其ノ他代表的地點ニ潜水シテ磯付魚介、藻類、其ノ他底棲生物ノ分布蕃殖ノ狀況並底形底質等ヲ調査闡明スルニ意ヲ用ヒシガ同時ニ當業者ノ要望アリタル場合ハ漁場ニ於ケル障害物ノ調査並除去作業ヲモ併セ行ヒテ凡ソ漁業者ノ福利増進ニ資スベシト思考シタル事項ニツイテハ努メテ之ガ援助ト指導トニ任セリ

### 一、海岸部概勢

地質ハ半島部ヨリ真穴村小網代鼻ニ至ル迄ハ變成岩類大古大統ニ屬スル結晶片岩、同鼻以南東宇和郡界迄ハ水成岩類古生大統ニ屬スル秩父古生層ニシテ一般ニ山脈起伏シ平地ニ乏シク全般的ニ海岸ハ或ハ斷崖或ハ絶壁ヲ形成スルモノ多シ、而シテ山貌ハ高山ノ頂部ニハ尙樹林ノ繁茂スルモノアリト雖中腹部以下ハ概ネ耕地トシテ利用セラレ僅ニ岬角部並斷崖部ノ一部等ニ幾分魚付林ノ保存ヲ見ルノミ、地貌上記ノ如クナルヲ以テ海底ハ一般ニ傾斜急ナルヲ免レズシテ所謂岸深ノ狀態ヲナス

### 一、調査方法

一 區域ノ調査ニ當リテハ先ヅ淺所ヨリ漸次深所ニ及ボシ底形並底質等ノ推移ニ留意シツ、各種魚介、藻類並底棲生物ノ分布生棲狀態ヲ知り就中採集ノ可能ナルモノハ努メテ之ガ採集ヲ行ヒテ標本ノ作成ヲ

ナセリ、調査深度ハ場所ニヨリ一定セザリシモ潜水ノ都度瀬境又ハ磯境ヲ極ムルコトヲ常トセリ

### 一、経過 状況

本調査ハ七月十二日着手佐田岬端ヨリ沿岸沿ヒニ順次西、東宇和郡界ニ及ボス豫定ナリシモ中途荒天其ノ他事故發生ノ爲或ハ調査地ノ豫定ヲ變更シ或ハ一時中斷ノ止ムナキニ至リシモ結局九月三十日ヲ以テ終了シ所要日數三十二日、潜水場所百二十六ヶ所、潜水回数實ニ百六十二回ニ達セリ【調査日誌参照】

### 三 崎 村

#### 一、籠 島 附 近

三崎半島岬端附近ハ岩礁多ク籠島附近ニテハ五、五尋ヨリ潜水シ最深二十三尋ニ達ス、海底状況ハ十五尋位迄一帯ノ岩礁ニシテ夫レヨリ以深ハ砂ニ小砂利ヲ混ゼリ、有用海藻類ニツイテハ五、五尋附近ニテんぐさ(附着層約三尋)三乃至六尋ニわかめ十五尋迄ハくろめ(深度ヲ増スニ從ヒ長莖ナリ)比較的深部ニひらくさ等相當多量ニ蕃殖シ其ノ他はんだはら、ひらみる、みる、うみうち等は等ヲ認メタリ、尙磯付魚介ノ類ニハめばる、くまのみ(方言やはげ)、い仔、たこ、あはび、さゞね等ノ棲息スルアリ

#### 二、高 鼻 附 近

六尋ニ潜水シ最深十五尋ニ至ル、底面岩礁ニシテてんぐさハ七尋、くろめ十五尋迄着生シわかめハ比較的少ナシ、うみうちはノ若干ヲ採集ス、魚介ハくまのみ及べらノ少許、あわび、さゞね等ニ過ギザルモ岩礁境ノ附近ニ於テ五百乃至八百程度ノかれひ三枚ヲ突取セシハ特記ノコト、ス

#### 三、はかせの瀨附近

四尋ニ潜水シテ沖合十尋ニ至ル、海底比較的平坦ニシテ所々ニ岩石アリ一般ニくろめノ着生スルコト多ク八尋位迄ノモノハ莖短カク以深ノモノハ莖長シ、てんぐさ、わかめ共ニ少ナキモひらくさ多シ、其ノ他さんとき、うみうちは、はぶたへのり等ノ海藻ヲ採集ス、かわはぎ、べら、くまのみ、くろうを等ノ魚類並あはび、さゞね等ノ介類ヲ認ム、干満線附近ニひぢきノ芽生セルヲ見タリ

#### 四、ふのじみ附近

底質ハ砂ニ岩盤點在ス、干満線間ニひぢきノ芽生ヲ認ム、潜水深度ハ一尋乃至十尋ニシテ岩上ニハくろめ、わかめ、てんぐさ等ノ藻類多ク其ノ他はんだはら類、いちめがさアリ、從ツテあわび、さゞね、ごぶし等介類ノ棲息ニ適シ魚類ニハにざだひ(方言くろはぎ)、かさこ、べら等見受ラル

#### 五、馬の瀨附近

潜水深度ハ六尋半ヨリ二十八尋ニ及ブ、十五尋位迄ハ一帯ノ岩礁ヲナシ干満線間ヨリ淺所ニハひぢき、はんだはら、くろめノ着生アリ、くろめハ深度十五尋迄ニ及ビ此ノ附近ひらくさアリ、生棲生物ハいせねび(十五尋以下)あわび、さゞね、はら介ノ介殻、あこ、すゞき、めばる(其ノ稚仔モ多シ)、かさこ、べら、くまのみ等ノ魚類、海松等ナリ

#### 六、どほ瀨附近

三尋ヨリ潜水十五尋ニ至リ瀬境トナレリ、瀬上ハ砂ヲ覆ヘル所少ナカラズ、海藻類ハくろめ、ひらくさ全體ニ分布シ其ノ他みる、たまみる、ふじのはづた等特種ノモノアリ、介類ハあわび、さゞね、こしたか等ノ棲息アリテ就中さゞね多シ、魚類ハかれひ、い、あこ、めばる、うつば等ヲ見又いせねびノ棲息アリ

七、たまり水（又ハ大たまり）

四尋ヨリ潜水調査シ十一尋ニテ瀬境ニ達シ夫レ以下ハ波狀ヲ呈スル細砂ナリ、ほんだはらハ六尋半迄ニ夫レ以下十一尋迄少量ノひらくさ着生ス、いちめがさノ採集ヲナセリ、魚類ハまだひノ游泳スルヲ認メタル外かれひ、い、あこう等ヲ見タリ、其ノ他介類ニあはび、さゞね、こしたか等ノ棲息分布スルアリ

神松名村

八、せぶら瀨附近

三尋ヨリ潜水シ八尋半ニ於テ瀬境ニ達ス、干満線間ニハひじき、淺所ニほんだはら、くろめヲ認メ深度約六尋ニ至ル、てんぐさハ淺所ニ少許ヲ見ルノミ、瀬境以下ハ砂底ヲナシ波狀ヲナセリ、さゞね、あわび、ごぶし等棲息シ海藻類ハ上記ノ外とりあし、ゆかり、石灰藻等アリ、魚類ノ主ナルモノハくまのみ、べら、かさこ、かわはぎ等ニシテあほりい、か、いせびヲ認メラレタリ

九、梶谷崎附近

附近ニハ所々高崖ノ岩石アリ、海底ノ傾斜ハ極メテ急激ナリ、海中亦高崖ノ突兀スルアリテ高サ約十尋ニ達スルモノアリ、干満線ニひじき、比較的淺所ニくろめ、ほんだはら等繁茂セリ、而シテ十一尋迄てんぐさ、ひらくさノ分布ヲ見、さゞね、あわび、いせび等認メラレタリ

眞穴村

一〇、鼠島又ハ大島附近

一尋ヨリ潜水シテ十九尋半迄ノ範圍ニツキ調査セリ、底ハ一般ニ介殼混リ砂ノ小石原ニシテ之ニほん

だはら、みる、ひろはのどさかもごき、うみうちは等ノ海藻類着生ス、魚類ハ特ニくまのみ多クべらノ稚

小ナルモノ亦少ナシトセズ、其ノ他稚小ナル眞珠介二個ヲ採集シタリ、此ノ附近むらさきうに多シ

一一、なきり鼻附近

海底ノ傾斜ハ急ニシテ各所ニ轉石アリ、最初一尋半ニ潜水シ漸次二十一尋ニ至ル海藻類等比較的少ナク、ほんだはらハ七尋以深九尋位ノ範圍ニ着生ヲ認ム、其ノ他たまみるノ採集ヲナス、棲息動物ハあかい兒、あこう兒、くまのみ、なまこ、たいらぎ、さゞね（極メテ少ナシ）等ニシテしんじゆがひ稚介殼ヲ採集セリ

川上村

一二、古泊前の瀬

水深十七乃至十八尋ニシテ地方人ノ言ニヨレバいせびノ大形ナルモノ多數棲息スト云フモ潜水ノ際ニハ一尾ダモ發見スルニ至ラズ、たこ一頭ヲ突取セシ外魚類ハぶだひ、海藻類ハほんだはら、ひろはのどさかもごき、うみうちは等ノ若干ヲ認メシニ過ギズ

一三、しほ崎附近

一尋ヨリ十五尋半迄潜水調査セルモ至ツテ重要魚介藻ノ分布ニ乏シク六尋以深九尋位ノ所ニ短小ノほんだはらノ着生セル外みる、あかがひ殼、きせる介、びわがら石遺骸及はやノ類ヲ認メタルニ過ギズ

一四、しほ崎附近より合田、方

地方人ノ言ニヨレバしほ崎附近ヨリ縣道沿ヒ合田ニ至ル海岸深所ニハしんじゆ介（方言ゆうれいがい）

ノ發生多シト、依ツテ之ガ搜索ヲ目的トシテ調査ニ當レリ

底質砂質ニ石礫アリ淺所ニツイテ細密ニ調査セルモしんじゆがひハ其ノ片影ダモ認メズ、ほんだはらノ短小ナルモノ及てんぐさ(良質ナラズ)ノ薄層(約二尺位)ヲ認メタルニ過ギズ、其ノ他またひ(三四寸)一尾游泳スルヲ見、ぼたんあをさノ採集ヲナセリ

#### 一五、上泊前漁場

本魚場ハ川上村中最モ重要ノ曳網漁場ナレドモ最近海岸道路開通ニ際シ捨石ヲ漁場内ニ轉入シタル爲曳網ノ障害トナリ漁業者ノ不利困憊一方ナラズ、而シテ轉入石ハ僅カニ二三個位ナリトコトナリシモ先ヅ豫察調査ノ爲潜水シタルニ障害石ハ少ナクモ十數個ニ及ビ全部ノ取揚除去ハ相當ノ日時ト勞力ヲ要スルコトヲ確メタリ、底質ハ砂泥ニシテ濁リ易ク水深ハ五乃至八尋ヲ算ス、此ノ豫備調査ノ際かれひ一尾、あはび一個(障害石ニ附着)ヲ採取ス、而シテ漁業者側ハ之等障害除去ノ要望切ナルモノアリ、依ツテ之ヲ容レ前後實ニ十七回ノ潜水ニヨリ取揚除去ヲナシタル石數十九個(一個五十貫乃至二百貫)外ニ錨二個ニ達シ障害全部ノ除去ヲナセシヲ以テ漁業者漸ク愁眉ヲ開クニ至レリ、尙當所ニ於テハ障害石取除作業中其ノ濁リニ付キタルまだひ(二才位)三尾ヲ認メタリ

#### 一六、古泊前

場所ハ「第一」ノ陸方ニシテ此處ニ曳網ノ障害物アリト稱ス、依ツテ潜水ノ上精査スルニ障害物ハ高サ約三尺位ノ自然石(荒手ノ懸リタル根跡アリ)ニシテ簡單ニ除去スベクモアラズ、水深ハ八尋半ヲ算シはや類いわづたノ一種、眞珠介一個ヲ採集ス

#### 一七、川名津家の前漁場

水深八尋内外ノ所ヲ石垣ニ沿ヒ漁場内ニ轉落セル障害石ヲ搜索シツ、前後二回ノ潜水ニヨリ計五個ヲ取揚除去セリ

#### 一八、川名津波止附近

本場所ハ波止崩壞ノ爲散亂シタル石ガ曳網漁場内ニ轉落シ爲ニ障害トナルヲ以テ之ガ調査並除去方ニツキ要求アリシモ轉落ノ石ハ多數ニシテ一々除去スル日時ナク從ツテ當業者ノ山立法ニヨリ障害トナルベキ區域内ニアルモノニツキ前後四回ニ渉ル潜水ヲ以テ計十七個ヲ取揚除去シタリ、水深九尋乃至十三尋ヲ示シ潜水中あら兒、あこら兒、かわはぎヲ見タル外此處ニモたひノ游泳スルヲ認メタリ

#### 舌田村

#### 一九、鷺ヶ浦

二尋半ヨリ潜水シテ深度十六尋半ニ至ル、海底ハ傾斜急ニシテ淺所ハ陸地ノ海中ニ蜿蜒シタル岩盤ナレドモ漸次介殼混リノ砂地ニ轉石アル場所トナル、海藻類ノ繁殖ハ一帶ニ少ナクろめ、ほんだはら、うみうち、ちやしほぐさ、みる、石灰藻類等ノ若干ヲ認メタル位ニシテ魚類ニハ僅少ノべら、かさごノ棲息ヲ見タル外うみはせ、をこせ各一尾ヲ採取セリ、あはび、さゞねハ分布アルモ營養佳ナラズ且僅少ナリ、其ノ他あかにしノ卵、むらさきうに、すがい等ヲ採集ス

#### 二〇、つほつ鼻附近

此ノ附近ハ陸地岩盤ノ沖出岩礁廣クほんだはらノ短小ナルモノ比較的多クくろめハ間々着生スルニ過

ギズ、潜水範圍ハ一尋ヨリ九尋半ニ至ル、魚類ハくまのみ並めばる兒稍く多くこぶだひ兒、かさご、べら等ノ棲息ヲ見、かさご、たごノ採集ヲナシタリ

二一、おいか鼻附近

一尋半ヨリ八尋半迄潜水調査ス、六尋半邊リ迄ニほんだはらノ僅カニ着生スルノミ、あわび殻一個ヲ採集セシ外ハヤ類、みる等ヲ認メシニ過ギズ

二二、合田鼻附近

二尋半迄ハ大ナルごろ石ニシテ九尋迄ハ海底ノ傾斜急ナレドモ九尋ヨリハ平坦トナレリ、海藻類ハ淺部ニほんだはら、稍く深所ニちやしほくさ、いわづたノ一種位ノ着生スルニ止マリたいらぎ、とりがひ殻、かさご(分布アルニ止マル)ノ採集ヲナシ附近ニあぢ兒ノ通過スルヲ見タリ

眞 穴 村

二三、中 寄 附近

漁場障害調査ノ目的ヲ以テ先ヅ七乃至八尋ニ潜水ス、底質砂ニシテ海底ニハ十貫乃至二十貫位ノ石多數散在シべら、かさごノ類多數棲息ス、たご二頭、巻介卵ヲ採集セリ、然レドモ上記場所ハ障害物ヲ離レ居ルヲ以テ更ニ稍く沖測ノ九尋ノ所ニ潜水セシニ障害物發見調査セルニ五寸乃至二尺位ノ高サニ露出スル大石約十個位アリ容易ニ引起シ除去困難ノ状態ナリシヲ以テ應急的ニ砂埋法ヲ指示シ置ケリ

二四、沖かぶ島沖側附近

一尋半ヨリ潜水シテ漸次沖合ニ向ヒ二十尋ニ達ス、瀬境ハ十尋ニシテ淺所ハ岩礁又ハ大石重疊セル海

底ナレドモ深度ヲ増スニ從ヒ石數減ス、海藻ハ干満線間ニひじき芽生ノ多數着生スルヲ認ム、ほんだはらハ短小(芽生)ナレドモ多數ニ蕃殖シ其ノ間少數ノくろめヲ混ズ、磯付魚類ハめじな、めばる、俗稱くろくち、ぶだひ、あら兒、べら、かさご、あいご、くまのみ、い、兒其ノ他いさぎ等其ノ種類ト量ニ富ミ、又かさご、なまこ、いせび等モ多ク、うみまつハ赤、青、黒三様ノモノヲ見タリ、思フニ本場所ハ底建網、刺網等底魚、磯魚ヲ目的トスル漁業ニ好適ナランカ

二五、龍 崎

淺所ハ岩盤底ニシテ以下大岩各所ニ點在ス、海藻類ハ比較的少ナク四尋以淺ニほんだはら類ヲ認ムルニ過ギズ、四尋以深ハ石灰藻類其ノ他雜藻ノ少許ヲ見ルノミ、こぶだひ、めばる、べら、かさご、くまのみ等ノ魚類棲息シいせび一尾、かさご二尾、あかい兒二尾ヲ突取セシ外、かさご五個、あわび殻一個並ほんだはらニ産付セルあほりいか卵ヲ採集セリ

二六、小網代の鼻

淺所ニハ岩礁、大岩ノ轉カレルアリテ干満線附近ニかめので、ふじつば、淺所海底ニむらさきうに、其ノ他ほんだはら、うみうち等は等ノ海藻ヲ見ル、瀬境ハ十尋ナリ 附近ニまで介殻ノ散在アリシヲ以テ調査スルモ生介ヲ發見スルニ至ラズ、同時ニいたや介、あか介、まだれ介等ノ介殻ヲ採集セリ、魚類ハべら、かさごノ少量ヲ認メシノミニテ一般ニ磯魚並海藻類ハ少ナシ

二七、眞網代平瀬附近

二尋ヨリ潜水シ瀬境十七尋ニ至ル海底ハ淺所岩礁、其ノ他ハ一帶ノ大、中石重疊ノ石原ニシテ淺所ニハ



海藻類ノ着生少ナクほんだはらノ點在スル程度ナレドモ三尋乃至四尋ヨリほんだはら稍多ク五乃至十尋半迄くろめノ着生アリ、棲息魚類トシテあら、めじな兒、にざだひ、めばる、かさこ、べら、ぎと、くまのみ等ヲ認メタルモ介類ハ少ナキガ如シ

二八、ごろとぎ鼻(一名立神鼻)附近

海岸ハ斷崖ノ岩礁地帯ニシテ海底ノ傾斜ハ甚ダ急峻ナリ、三尋半ノ所ニ潜水シ最深二十五尋乃至三十尋ニ及ブ十尋半迄くろめノ分布稍多ク其ノ他ほんだはら、さんごも類、みる等ノ海藻認メラレあわび、さゞねノ棲息スルアリ、魚類ハ左程多カラズ、べら、かさこ、くまのみ等ヲ認メシニ過ギズ、地方人ノ言ニヨレバ此附近ニハあまぎノ棲息多シト云フ

二九、なりおうじ網代附近

曳網漁場ノ障害物ニツキ調査ヲナス以前砂埋ニヨリ障害物ヲ被包シテ從業セシガ近來又々露出障害トナルニ至レリト云フ實査セルニ障害物ハ二ヶ所露出スルモ除去ハ困難ナルヲ以テ再ビ砂埋ヲ指示シ置ケリ、附近ニ沖あさり介ニ多數ノ蛸ノ集合シタル形跡アリたこ二頭ヲ突取セリ、思フニカ、ル場所ニ沖あさり介ノ蕃殖セシハ以前砂埋メノ際該介ヲ共ニ移植セシニ依ルカ、潜水深度ハ十尋半位ナリ

三〇、こうしん鼻附近

一尋半ヨリ二十尋半ニ互ル範圍ノ調査ヲナス、二十尋半ヲ瀬境トシテ以淺ハ傾斜急ナルモソレヨリ海底ハ平坦トナレリ、海底ハ瀬境迄所々ニ小轉石アリ海藻類モほんだはら、ひろはのどさかもどさ等僅少ニシテ磯付魚類等モ特記ノモノナシ、此附近浮藻ニ集ヘルくまのみノ稚兒及わそノ游泳ヲ見ル

三一、とう崎附近

二尋ニ潜水シ瀬境六尋半迄ハ轉石アリ魚介藻ノ類ハ極メテ寥々ニシテ淺所ニほんだはらヲ認メべらノ少數ヲ見タル以外いわがきノ殻ヲ採集セルニ止マル

三二、なだ漁場

漁場障害物調査ヲ目的ニ山見ニヨリ十四尋ニ潜水シタルニ目的物發見精査スルニ一尺四方位ノ石二個ニシテ何レモ上部二寸位ヲ露出シ面上ニふじつばノ類多數着生スルヲ確メタルヲ以テ之ガ除去作業ヲナセリ

二 木 生 村

三三、周木白崎附近

四尋半ニ潜水シテ瀬境九尋半ニ至ル底ハ概ネ陸地岩石ノ餘勢タル岩盤ナリ、比較的淺所ヨリくろめ、ほんだはらノ類簇生シ約四尋邊リニ至ル、食餌ノ豊富ナル關係カ採集ノあわび(四個)さゞね(二個)ハ營養良好成長亦佳良ノ様見受ケラレタリ、其ノ他介類ハいわがき一個、また介殼一個ノ採集ヲナセリ、魚類ハめばる、かさこ、くまのみ、たかのはだひ等又わび殻ヲ認メタルヨリ察スルニいせわびノ棲息モアルベクあほりいかヲモ認メタリ

三四、じょうのした漁場

曳網漁場ノ障害調査並除去ノ爲前後三回ニ涉リ潜水ス、深度ハ比較的淺ク二尋乃至三尋ナリ、第一回潜水ニ於テ數個所ノ障害物ヲ認メタルモ或ハ掘起シ不可能ナル程度ノ大ナル石アリ或ハ掘リ得ル小形ノ

モノアリ、何レモふじつば、かき等ノ介類着生セシヲ以テ掘起シ不可能ノモノハ單ニ之等介類ノ除去ニ止メ他ハ當業者ノ要望ニヨリ何レモ掘起シ作業ヲナセリ、同様第二回潜水ニ於テ拾數個ノ障害石ヲ掘起シ引續キ第三回ニ於テ拾個ヲ掘起シテ此ノ作業ヲ終ル、掘起セル石ハ干潮時ヲ見計ヒ當業者ニ於テ陸ヘ引キ揚グル筈ナリ

三五、びり島西南端附近

此ノ附近ハ干満線間ニひじき芽生、いわひげ、ふじつば等ノ着生認メラル、淺所ニハほんだはらヲ主トシ所々くろめノ混生アリト雖深度五尋以上トナレバ殆ンド海藻類ヲ認メズ、海底ハ傾斜急ニシテ二十一尋ヲ瀬堺トシ石ハ餘リ大ナラズ、あわび、さざねノ外べら、かきこ、ぶだひ、くまのみ、みる、むらさきウニ等分布棲息スルヲ認メタリ

三六、須崎附近

岩盤ノ沖出ハ遠ク南西方ニ延ビ附近瀬石ハ比較的大ナリ、干満線間ニひじき芽生(一寸位)淺所ニウミウちは、みる、くろめ(比較的多シ)等ヲ見ルモ稍々深度ヲ増セバ海藻類ハ左迄多カラズ、只ほんだはら類並石灰藻類ノ瀬境(十六尋半)邊リ迄認メラル、ニ過ギズ、又てんぐさハ良質トハ云ヒ難キモ淺所ニ約三尺内外ノ附着層ヲ有ス、いせにび、あわびノ若干ヲ見さざねハ約二貫匁位ヲ採集セシモ一般ニ小型ノモノ多シ、磯魚類ハ種類ニ富ミめばる、いさぎ、あこう、みぎまき、めじな、にきだひ、ぶだひ俗稱しまだひ、かさこ、べら、くまのみ及之等ノ稚兒ニシテ數量又比較的多シ、依ツテ此ノ附近ニ於テモ磯魚ヲ目的トスル漁業ハ好適ナラン乎

三七、びり島北西端平瀨

附近ハ岩礁及一帶ノ瀨ニシテ八尋ヲ以テ瀨境トス、干満線間ニひじき、いわひげヲ見淺所ハほんだはらヲ主トシくろめハ所々ニ着生ス、其ノ他ウミウちは等分布アリ、棲息魚類ハあこう(一尾突取ス)いさぎ、めばる、俗稱しまだひ、かわはぎ等ニシテみまおこせ一尾ヲ突取セリ、又あわび、さざねノ分布アリ

三八、權現下附近

雜木ヲ載ケル斷崖下汀所々ニ大石轉在ス、三尋ヨリ十四尋ノ瀨境迄調査ス、海底ハ概ネ石瀨ニシテ、淺所ノ石ハ白ク海藻ノ着生殆ンドナシ、然レドモ稍々深所ヨリほんだはら類ノ着生アリテ十一尋附近迄至ル、其ノ他ひろはのささかもごき、石灰藻類、しわのかわ(?)等若干ノ採集ヲ行ヒタル外ハめばる兒ノ稍々多キヲ認メタルノミ

三九、周木こつてじま附近

周木波止ニ近ク岩石ノ海中張出シ廣シ、七尋ヲ以テ瀨境トセリ、岩上くろめ、ほんだはらノ繁茂スルコト多クめばる、いさぎ、あいご、こぶたひ(約二貫匁ノモノ一尾突取ス)かわはぎ、めじな、しまだひ、くまのみ等磯付魚類ノ棲息繁ク之等魚類ノ漁場トシテハ適當ナルヲ確メタリ、又さざねノ棲息モ多ク外ニおこせ一尾ノ採集ヲナシタリ

四〇、白石瀨

本調査ハ魚礁ヲ調査スル目的ヲ以テ山見ニヨリ礁上十六尋ニ潜水シテ該礁ヲ一周ス、礁ノ頂點ハ水深十六尋ヲ算ス、礁ノ凹陥部ニハ砂ヲ止メル所アリ、礁上ノ着生物ニハ特記ノモノナク紅藻類ノ一種石灰

藻ノ類其ノ他各種ひごる虫類、うみまつ、海綿ノ類等ナルモ磯魚類ハめばる、いさぎ、ぶだひ、あいご、めじな、べら、くまのみ等及あぢ兒(二年生)相當ニ多キ様認メラレタリ

四一、長浦瀬

長浦ノ砂濱中ニアル岩盤ヨリ連續沖出セル瀬ニシテ最初十三尋ニ潜水シ十六尋ニ達シテ一段階ヲナシ下段ハ十八尋半ヲ算ス、初段階上ニハくろめ、ほんだはら、ひろはのどさかもごき等ノ海藻アリ、魚類ニハめばる、いさぎ、ぶだひ、かわはぎ等アリ、特ニ相當大ノめばる多シ、たこ、なまこ、めばる、あなご等ヲ突取セリ、尙さゞにノ分布アリ

四二、二及灣口中央部

灣口中央部ニ石灰帆船沈没シ、ソレ以來同所ニ曳網ノ障害アリ調査方要求アリシヲ以テ之ガ調査ヲナス潜水深度ハ十三尋内外ニシテ海底ハ潮流ノ疎通悪シキモノ、如ク浮泥多シ、障害ノ因ハ矢張り沈没セシ際ノ石灰ニシテ百餘俵附近ニ散亂シ何レモ石ノ如ク硬化セリ、以上ヲ確メ得タレドモ之ガ除去ニツイテハ相當ノ日子ヲ要シ斯克テハ豫定事業遂行ニ差支ヲ來スヲ以テ實狀ヲ闡明セル程度ニ止メ置ケリ

四三、三瓶灣口中央部築磯調査

二本生漁業組合ニ於テハ大正十一年以降築瀬ノ目的ヲ以テ三瓶灣口中央部水深三十尋ニ古船、石、糖、雜木技等ヲ沈設シ爾來此處ニあぢ(大小各種)ニベ(三貫乃至六貫ノモノ)等特ニ集合シ釣獲多シト云フ、依ツテ之ガ狀況調査ノ目的ヲ以テ潜水セシモ水深深キニ過グル爲諸作業意ノ如クナラス、爲ニ全般ヲ精査スルニ至ラザリキ、潜水場所ニ於テハ沈没船ノ所在不明ニシテ石ノ點在スルヲ認メタル程度ナリ

四四、岡の瀬附近

沿岸ヨリ離レタル落ニシテ附近ハ荒石ナリ、二尋ヨリ潜水シテ十尋半ニテ瀬境ニ達セリ、海藻類ハほんだはら、うみうち、ながみる、たまみる、ひろはのどさかもごき、紅藻類ノ一種ヘラ、いわづた等ニシテ魚類ハぶだひ、めばる、くまのみ、べら、あかひい、あなごノ棲息ヲ見ル外小あぢノ集合スルヲ認メ又沖方ニたひ、いせびヲ見タリ、其ノ他卷介卵(塔狀)?ノ採集ヲナス

四五、垣生白崎附近

曳網漁場ノ障害物調査ノ爲潜水ス、障害ハ根石ノ如ク高サ五乃至六尺、長、巾共五尺内外ノモノト他ニ一ヶ所アルモ同根石ニシテ除去困難ナリ

四六、金の瀬

沿岸ヲ離レタル岩礁ニシテ凸凹多ク其ノ差一尋乃至二尋ニ達ス、岩上ニハ泥土ノ堆積スルモノ多ク底ハ濁リテ明瞭ナラズ、ぶだひ、めばる等磯付魚類ヲ始メたひ、くろだひ、小あぢ等ノ瀬付スルヲ見タリ、尙なまこノ棲息ヲ認メ二個ヲ採レリ、潜水深度十二尋半乃至十四尋半

眞穴村

四七、地大島左右水網代

曳網漁場ニ於ケル障害物調査ヲナス、潜水深度七尋半乃至十尋ニシテ主要障害物トシテ引場可能ノモノニケ所アルヲ確メタルモ引揚ノ準備ナカリシ爲其ノ作業ハ後廻シトス、潜水中めばる、こち兒、さゞね、たこ等ノ少數ヲ見、すたれ介ノ介殼及卷介卵卷介中ニ棲息スル小魚(黄色ヲ呈スルモノニ尾)等ノ採

集ヲナセリ、ほんだはら少々着生ス

障害物ハ翌日二十貫乃至五十貫ノ石計四個ヲ取揚ゲタリ

四八、全 右

四七漁場ノ一部ニシテ潜水深度ハ十七尋ニ達ス、此ノ附近ノ漁場障害物ハ根石ニハ非ラザルモ點々タル轉石多ク一々取揚スルコトハ困難ナリ、潜水中かさご、べら、いそ、い、くまのみ等ノ魚類棲息スルヲ見、石灰藻類ノ所々ニ着生スルヲ認メタリ

四九、しのうら鼻

二尋ヨリ二十尋迄潜水ス、淺所ハ石白クむらさきうにヲ所々ニ認ムル外海藻類至ツテ少ク稍々深所ニ至リテほんだはらノ少量ヲ認ムルノミ、魚類モ又しまだひ、かさご、べら等少數ヲ認ムルニ過ギズ、さゞ一個ヲ採集セリ、併セテ漁場障害ニツキ調査セシガ障害物ハ續キ磯ニシテ之ガ除去ハ困難ナリ

五〇、うごう鼻

十二尋乃至二十尋ニ潜水シテ曳網漁場障害物ノ調査ヲナセシモ全障害ハ瀬ノ沖出セル爲ニシテ除去スベクモアラズ、此附近くまのみ少々棲息スルノミニシテ海藻類等少ナシ

五一、小島かいつき瀬

かいつき小島ニ連ナル一帯ノ岩礁ニシテ海底ノ高底甚ダシ、二十一尋ヲ以テ瀬境ニ達ス、海藻ハほんだはらノ着生最モ多クうらめ亦少ナカラズ、其ノ他そゞ、うみうち、ひろはのさかもどき等ノ分布アリ、藻付魚類其ノ他ノ生物ハ極メテ豊富ニシテ魚類ニいさぎ、めじな、こぶたひ、あいご、ぶたひ、かわは

ぎ、かさご、くまのみ、い及之等ノ稚兒アリ、又あぢ(二才)ノ多數集合スルアリ、いせわび、さゞわ等ノ棲息又少ナカラズ、其ノ他海綿類、びわがら石ノ各種、ひごろ虫類ノ採集ヲナシ海面ニ近クあほりいカノ稚兒多數游泳スルヲ認メタリ

五二、おうにゆう

所々ニ大岩アリ十七尋半(瀬境)迄潜水ス、瀬石ハ可ナリ大ナリ、淺所ヨリ七尋附近迄ほんだはら、くろめ、ちやしほぐさ等ノ海藻分布アリ、介類ニハさゞわノ棲息稍々多シ、其ノ他めばる、かわはぎ(一尾突取)くまのみ等ノ魚類ヲ見ル

五三、目 釘 漁 場

本漁場ハ地大島ノ豊後水道ニ面セル主要ノまいわし曳網網代ナレドモ比較的淺所ニ網ノ障害アリトノコトニテ調査セリ、水深ハ三尋乃至四尋ヲ超エズ、底ハ砂ニシテ稍々硬シ、而シテ右障害物ニ對シテハ當業者ト共ニ隈ナク探索セシモ終ヒニ發見スルニ至ラズ、思フニ當漁場ハ偏南ヨリ偏西ノ強風ニ際シテハ常ニ波荒ク比較的淺所ノ底砂亦集堆離散ヲ反覆シ偶々調査當時ニ於テ障害物モ底砂ノ集堆ノ爲覆ハレテ露出セザリシナルベシ

五四、雉子ヶ浦網代

曳網漁場ニシテ之ガ障害物ノ調査ヲナス、調査ノ結果約六寸位ヲ露出セシ障害ナルコトヲ確メタレドモ自然石ニシテ到底簡單ニ除去スベクモアラズ、潜水深度七尋乃至十尋ニシテ底質ハ介殼ニ砂ナリ

五五、沖 の 澁

此ノ瀨ハ大島東北端ヨリ東方ノ海中へ長ク延出シタル瀨ニシテ三尋ヨリ潜水シ十六尋ニ達セリ、三尋乃至五尋位ノ比較的淺所ニハほんだはらノ繁茂多ク間々くろめ着生ス、うみうちは、みる等モ認メラル魚類ニハ大小めばる特ニ多ク(一尾突取)いさぎ、あこう、めじな(一尾突取)かさご、くまのみ等モ少ナカラズ、介類ハさゞわノ分布アリ一個ヲ採集セリ

五六、曾根崎附近大瀨

此ノ瀨ハ曾根崎附近ヨリ南方沖合ニ長ク延出セリ、高低稍々甚ダシク其ノ差二尋ニ及ブ所アリ九尋半ニテ瀨境ニ至ル、海藻ハほんだはら類多キモ短小ニシテくろめハ各所ニ點在スルノ程度ナリ、うみうちは、くろめノ幼芽ヲ採集ス、いせびノ棲息アリ(雌一尾突取)あはびハ分布アルモノ、如ク殻二個ヲ採集シさゞわハ稍々多シはら介一個採集ス、魚類ハいさぎ、たかのはだい、めじな、べら、かさご、くまのみ、うつば等少ナカラズ、又なまこノ棲息スルヲ見タリ

五七、ほゞろ瀨

此ノ瀨ハ山王島附近ヨリ南沖合へ延出セル瀨ナリ、七尋ヨリ瀨境十七尋ニ潜水セリ、海藻類ニハくろめ、ほんだはら、みる、うみうちは等アリ、さゞわノ棲息ハ稍々多ク磯付魚類ハ「五六、大瀨」ニ略々同シクシテ一般ニ多シたこ一頭採集

五八、家の前大瀨

曳網ノ障害物ニツキ調査セリ、潜水程度ハ七尋乃至十七尋ナリ、障害物ハ一大岩石ニシテ高サ約二尋ニ達ス、荒手網ノ懸リタル根跡アリ除去等ノ作業容易ナラズ潜水中障害物附近ニテたこ一頭、なまこ三

個ヲ採集セリ

三 類 町

五九、あなのくち網代

曳網ノ障害ニツキ調査セリ、潜水場所ノ深度ハ五尋半乃至六尋ナリ、潜水スルコト前後五回ニシテ第一回ハ海底ニ直立棒立トナレル長サ約二間ノ鐵管ヲ引キ揚ゲタリ、第二回ハ其ノ他ノ障害ニツキ搜索セルモ發見セズ、第三回潜水者負傷ノ爲一時中止シ第四回ハ障害物ヲ繩懸ケシテ潜水セシモ發見スルニ至ラズ(潜水中たこ入りタル壺一個引揚ク)最後ニ漸ク之ヲ發見シ引起シ作業ノ上約百貫ノ石ヲ引揚ゲタリ

六〇、鰈ヶ 瀨

所々ニ大岩ノ露出アリ二尋乃至三尋位ノ場所ハ大型ノ轉石ナルモ海藻類ハ至ツテ少ナク四尋位迄ほんだはら、たまみる等ノ若干ヲ見ルト、てんぐさノ短少ナルモノ着生ス然レドモ磯魚ハ稍々其ノ種類ト數ニ富ミ潜水中認メラレシモノヲ舉グレバいさぎ、あこう、めじな、あいご、かわはぎ、しまだひ、たかのはだひ、こぶだひ、ぶだひ、べら、かさご、めじな、にぎたひ等ナリ、尙小型ナレドモさゞわ比較的多ク、あはび殻一個ヲ採集セリ、潜水程度ハ四尋ヨリ十尋迄ナリ

六一、立石 附近

渚江ニハ大石ノ轉ズルアリ海底又大小石各所ニ點在ス、三尋ヨリ瀨境十七尋迄潜水セシガ海藻ハ一般ニ少ナクみる、ながみる、ほんだはらノ少々附着アルノミ、べら、かさご、しまだひ、めじな、くまのみ等ヲ認メ又さゞわノ分布アリ(一個採集)其ノ他採集セシモノニこんごうふぐ、いわがき等アリ

三 島 村

六二、藏貫浦横網代

曳網漁場ニ於テ二ヶ所ノ障害物調査並除去ヲ爲シタリ、前回ハ潜水深度三乃至六尋海底ハゴロ／＼石多ク障害物ハ高サ三尺、周圍五、六尺ノ石ニシテ除去容易ナラズ然レド附近ニ木根ノ沈下スルアリテ障害物ノ一部トシテ直ニ引揚ゲタリ、潜水中かさこノ多數及かれひノ棲息ヲ認めいわづたノ一種おごのり、ごりがひ殻等ヲ採集セリ、後回モ三尋乃至四尋ノ比較的淺所ニシテ障害物トシテ約五十貫ノ石一個ヲ引揚ゲタル外障害ト認ムル小石三個ヲ淺所ヘ持ち上リ障害ノ區域外ヘ除キタリ

六三、うまぶら網代

漁場ノ障害物ニツキ調査セルニ周圍八尺高サ四尺ノ自然石ニシテ除去ハ困難ナルヲ知リタリ

六四、うまぶらノ鼻

渚汀ニハ大石數多露出ス、一尋半ヨリ瀬境八尋半迄潜水セリ、海藻ハほんだはらヲ主トシ淺所ヨリ瀬境迄着生ス、へらいわづた分布ス、介類ハかさこ(四個採集)岩がき、こしだか等見受ケラレ魚類ニめばる、いさぎ、あこう、あいこ、べら、かさこ、たかのはだひ、にぎだひ、こぶだひ兒、きざ兒、しまだひ、くまのみ等棲息セリ、潜水中まだひノ游泳スルヲ認メタリ

六五、福島ノ西南端

干満線間ニひじきノ芽生着生アリ、二尋ヨリ潜水シテ瀬境九尋ニ至ル範圍ヲ調査ス、瀬境迄ハほんだはら主トシテ分布ス、かさこノ棲息アリ二個採集ス、いさぎ、こぶだひ兒、あら兒、べら、かさこ、くまの

み等ノ魚類ヲ見ル

六六、藏貫灣口沖の瀬

藏貫ノ灣口ニ位置スル離レ瀬ニシテ瀬上九尋ヨリ潜水ス、最淺個所ハ四尋半ニ過ギズ、十二尋ニシテ瀬境ニ達ス、ほんだはら、みる、へらいわづた、うみうち等は海藻類着生シうみまつノ着生モ認メラレ、いせむび多ク棲息(一尾突取)ス、魚類ハあぢこ、いさぎ、まだひノ集ヘルヲ見ル外あこう、たかのはだひ、こぶだひ、ぶだひ、めばる、かわはぎ、めじな、あいこ、くまのみ等ノ磯魚類ニ富ミ又たこ、なまこヲ見受ケラレタリ

六七、前 網 代

當業者ノ山立ニヨリ六尋ニ潜水シ曳網障害物タル徑五、六寸、長サ五尺位ノ沈下木根ヲ引揚セリ

六八、皆江前網代

曳網ノ障害物ニツキ調査ス、六尋半ニ潜水シテ目的物ヲ發見セシモ障害物ハ大石ニシテ幅二尺五寸、長サ四尺ニ達シ石自体ハ引揚困難ナレドモ其ノ形状ヨリ考フルニ特ニ障害トナル部分アルヲ以テ其ノ部分ヲ爆破セバ比較的容易ニ目的ヲ達シ得シカ

六九、落 岩

渚汀ニハ陸上ヨリ落下セル轉石多シ干満線間ノ石上ニハかきノ多數ニ附着スルヲ認メ淺所ニハほんだはらノ着生アリ其ノ他ながみる、おごのり、石灰藻ノ採集ヲ爲セリ、魚類等ノ棲息スルモノ少クこち兒ノ若干ヲ認メシニ過ギズ、潜水深度二尋乃至三尋ナリ、水面近クあほりいかノ稚兒多數游泳スルヲ見タリ

七〇、かれひ崎

干満線附近及淺所ニハ多數ノ大石アリテ石ハ漸次沖合ニ稍々小型トナル、石面干満線間ニハけがき、いしげ附着ス、二尋ヨリ潜水シテ瀬境十一尋ニ至ル、海藻類ハほんだはらノ短小ナルモノヲ主トシたまみる、ちやしほぐさ、くろめ等アリ、魚類ハめばる(其ノ他稚兒多シ)かさご、べら、あいご、こぶだひ兒、ぶだひ、あこう兒、にざだひ、さぎ兒、くまのみ等磯魚ノ稚兒多ク又たこ、さざね、あわび殻等ヲ採集シまだひ二尾ノ洄游スルヲ認メタリ

七一、鯨 岩

一大岩石ノ續キ磯ナレドモ四尋ヨリハ急激ナル段階ヲナシ十六尋ニ落ちテ瀬境ヲナス、干満線間ニハけがき、いしげ等ヲ認メ二尋乃至四尋附近マデほんだはらアリ、其ノ他たまみる、むかでのり等アリ、たかのはだひ、しまだひ、ぶだひ、めばる(特ニ稚魚多シ)こぶだひ兒、かさご、べら、くまのみ等魚類相當ニ多クいわがきハ各所ニ認メラレタリ、尙まで介殻一個採集ス

七二、おこご瀬

くうら鼻ヨリ續キタル一大岩礁ニシテ二三尋位ノ淺所廣ク六尋乃至十二尋半ノ二段階ニヨリテ瀬境ニ達ス、藻類ハふくろのり若干ノ外ハ石灰質ノ雜藻ヲ主トス、さざねノ分布アリ二個ヲ採集セリ、ぶだひ、しまだひ、めばる兒、いさぎ、にざだひ、めじな、かさご、べら、くまのみ等ノ磯魚ハ相當ニ多シ

七三、前 漁 場

曳網障害物ニ對スル調査並除去ノ爲潜水ス、水深ハ約七尋ニシテ第一回潜水ニ於テ五、六十貫ノ石二

個及碇一個、第二回潜水ニ於テ約百貫ノ石一個、最後ノ潜水ニ於テ三、四百貫位ノ大石一個ヲ取揚ケシテ漁場ヲ安全ナラシメタリ

七四、くほ 漁 場

曳網漁場障害物調査並除去ノ爲前後四回ニ互リ潜水セリ、深度ハ四尋半乃至八尋迄ナリ、第一回及二回ハ障害物ノ發見ニ至ラズ、第二回潜水ニ於テかさご一尾、つきひがひノ介殻一個ヲ採集シタリ、第三回潜水ニ於テ漸ク目的物ヲ發見セルニ二三百貫ニ達スル大石ナリ、引揚途中墜落セルヲ以テ第四回ノ潜水ヲ以テ漸ク引揚ゲ漁場外ニ搬出セリ

七五、きゆうりまつ附近

海岸ハ岩質ノ斷崖ヲナセドモ所々ニ雜木ノ生スルアリ渚汀ニハ大小ノ轉石多シ、九尋ヨリ瀬境十八尋半迄潜水ス、十五尋邊リマデほんだはら並短小ノくろめアリ瀬石ハ一般ニ大形ナリ、いさぎ、こぶだひ(特ニ其ノ稚兒多シ)あいご、ぶだひ、めばる、かさご、べら、めじな等磯付魚類ヲ見タル外まだひノ來游スルヲ認メさざねノ棲息モ稍々多ク四個ヲ採集セリ

七六、古 藪 網 代

當業者ノ山見ニヨリ七尋ニ潜水シテ障害物ノ探索ヲナセシモたいらぎ介一個ヲ採集シタル以外他ノ障害物ヲ發見セズ

七七、高島西南端附近

高島西南端ニ突出スル岩盤ハ緩傾斜ヲ以テ海中ニ没スルヲ以テ干満線間ニ入ルベキ岩面ハ比較的平坦

ニシテ且廣シ、當業者ノ言ニヨレバ此ノ部位ニハふのりノ相當ニ着生スル由ナレバ之ヲ手入シテ其ノ増殖ヲ圖ラムカ尙一層ノ收獲ヲ擧ゲ得ベキヲ信ズ、潜水場所ハ概ネ岩盤ノ續キ磯ニシテ淺所ニハほんだはら類簇生シくろめ混生スルモ少ナシ、磯ハあわび、さざねノ棲息ニ適シ又磯魚ノ分布少カラズ、潜水中認メラレシ種類ハめばる(九尾ヲ突取)あこ(二尾突取)あいこ、たかのはだひ、しまたひ、べら、かさこ、くまのみ等ニシテめばる、あこノハ甚ダ多シ

七八、小 高 島

曳網漁場ノ障害物調査並除去ヲナス、最初ハ十三尋ノ個所ニ於テ障害石二個ヲ引揚シ次ニ五尋ノ稍々淺所ニ於テ二個ノ石ヲ發見引揚セリ、大イサハ五十貫乃至二三百貫ノモノナリ、第二回ノ潜水ノ際あいこ一尾突取ス

七九、窪浦より中田鼻に至る

下泊窪浦ノ一端ヨリ中田鼻ニ至ル淺所ニハ春季真珠介ヲ採集スルコトアリト依ツテ之ガ狀況調査ヲ目的トシテ探索セシモあさり介殻ノ十數個、たこ一頭ヲ採集セシ外ハ其ノ片影ダモ發見セズ、底質ハ概ネ砂質ニ小石ノ場所ナリ

八〇、泊 崎

千満線附近ニハ大石ノ各所ニ轉セルアリけがき多數附着ス、二尋ヨリ十二尋半迄潜水ス、ほんだはら、くろめ、みる、たまみる、むかでのり等ノ海藻類分布シほんだはら、くろめハ共ニ着生稍々多ク十二尋半(瀬境)ニ達ス、めばる兒、かさこ、べら、しまたひ、にさだひ、くまのみ等ノ魚類ヲ見ル

八一、地の島西端

海岸ハ一部斷崖概ネ岩質突兀ナリ、四尋ヨリ磯境九尋迄潜水セリ、海藻類ハ四尋迄くろめ、九尋迄はんだはらニシテ其ノ他みる、たまみる、そぐ、やはすぐさ等ノ分布アリ、魚類ハめばる、たかのはだひ、あこ、べら、かさこ、くまのみ等稍々多クあこ、かさこ、めばる各一尾ヲ突取セリ、さざねノ棲息ハ一般ニ多クあはび又分布アリ

八二、ひらとこ

海底ノ石ハ大型ニシテ場所ニ依リテハ岩礁斷崖ヲナス、三尋半ヨリ潜水シテ磯境ナル十七尋ニ至ル、千満線間ニハいしげ、淺所ニハばたんあをさ、一帯ニほんだはらノ短小ナルモノ及くろめノ少量分布アリ、魚類ハべら、かさこ、くまのみ等若干ニ過キズ、ほら介一個、まて介殻ヲ採集ス

八三、地の島東北部

地ノ島東部ヨリ北部ニ尋線迄ノ比較的淺所ニ於テ潜水調査ス、當業者ノ云フ所ニヨレバ此ノ附近ニてんぐさ着生スト雖實査ノ結果ハ附着僅カニ一尺内外ニ過ギズ且短小ニシテ優良ナルモノトハ云ヒ難シ、あわび、こしたか各一個ノ採集ヲナス

八四、高島西ヶ崎

海底調査ト併セテ當業者ノ要望ニヨリ樹網敷設ノ適否ニツキ調査セリ、北岸ハ斷崖ヲナシ附近淺所ハ蜿蜒セル大石礁アリ、三尋ヨリ潜水シ七尋ニシテ磯境ナレドモ尙砂底ヲ調査シツ、最深十四尋半迄調査セリ、海藻類ハ磯境迄ほんだはらヲ主トシくろめ少々、たまみる、そぐ、ひろはのささかもごき等認メラ



レ介類ニあわび、さゞねアリ特ニさゞねハ多シ、魚類ニシテ棲息ヲ認メタルモノハぶたひ、べら、かさご、にさだひ、たかのはだひ、くまのみ等ニシテ尙七尋以深ノ砂地ニ於テハまだひ四尾ノ洞游ヲ見タリ、樹網敷設場所トシテハ七尋(距岸四十間位)ノ砂地ハ三、四十間沖合迄障害物モナク磯魚類、たひ等前記ノ如クニシテ其ノ量モ少ナカラザルヲ以テ相當ニ有望ナルベキカ

八五、小 高 島

三尋半ヨリ潜水ス、瀬境ハ二十尋半ニシテ海底ノ傾斜ハ比較的急ナリ六尋線附近迄はんだはらヲ主トシテ七尋ヨリ十二尋半迄分布アリ、シクろめマ、着生スルモ夫レヨリ十尋線附近迄ハ海藻殆ドナク十尋線以深ニ至リテ又々着生アリ、いさぎ、めばる、こぶだひ兒、うつば、べら、かさご等ノ魚類及さゞねノ棲息分布スルヲ見タリ

八六、みつくり島

三尋ヨリ瀬境十二尋半迄潜水調査ス、海藻類ハはんだはらヲ主トシテ七尋ヨリ十二尋半迄分布アリ、シクろめハ幾分着生ヲ見ルト雖多カラズあはび、さゞねノ介殼、ぶだひ、こぶだひ兒、にさだひ、かさご、べら、くまのみ等ノ魚類ヲ見タリ

川之石町

八七、小 島

一尋半ヨリ潜水シテ瀬境十三尋半ニ達シ再ビ瀬上ノ調査ヲ爲セリ、干満線間ニハけがき、いしげ着生シ五、六尋以浅ニハはんだはら、くろめアリ、然レドモ六尋半乃至八尋半ノ間ニハ石灰藻等雜藻ノ短小ナルモノ、外海藻ナク八尋半ヨリ十三尋半ノ瀬境附近迄再ビはんだはら分布アリ、其ノ他みる、ひろはの

とさかもごき、うみうちわ、いわひげ等ノ海藻採集ヲナス、介類ハさゞねノ蕃殖稍々多ク魚類ハめばる、かわはぎ、にさだひ、べら、かさご、くまのみ等認メラル

八八、か つ べ 崎

干満線間ニけがき、いしげノ着生アリ、一尋乃至二尋ノ淺所ニハはんだはら、くろめノ混生スルヲ見ルモ夫レヨリ六尋線迄ハ主ニはんだはら、更ニ十四尋半迄ハ主ニくろめ分布セリ、海底ノ傾斜ハ甚ダ急ニシテ瀬境ハ二十尋ナリ、十七尋乃至十八尋ノ比較的深所ニいわがきノ分布ヲ見タリ、其ノ他さゞね、各種石灰藻、ひごろ虫類、なみのはな等ノ採集ヲナセリ、魚類ハべら、かさご、い、くまのみ等ニシテ特ニめばる兒ハ棲息多シ

八九、花 山

一尋ヨリ瀬境ナル十二尋半迄潜水ス、二尋半位ノ所ニうみうちは甚ダ多ク其ノ以浅ニはんだはらノ少量ヲ見ルノミ、魚類ハべら、かさごノ若干ヲ認ムルニ過ギズなまこノ稚小ナルモノ、採集ヲナセリ

九〇、矢 野 崎

干満線間ニけがき、ひじき芽生多數着生アリ一尋ノ處ヨリ瀬境十七尋半迄調査セリ、海藻ハはんだはら主ニシテくろめハ僅少ナリ、八尋半迄ノ近傍ニきざみづた多ク又いせねびノ棲息多シ、さゞねノ分布アリ二個ヲ採取セリ、魚類ハめじな多クしまだひ、こぶだひ、にさだひ、めばる、かさご等モ認メラレいわし(五寸位)ノ多數洞游スルアリ又なまこノ棲息アリ此附近上層ニハあほりいか稚兒(二寸位)多數游泳スルヲ見タリ

九一、中 鼻

海藻ノ傾斜ハ甚ダ急ナリ潮境ハ十六尋トス、淺所ニハほんだはら、うみうちはノ着生ヲ見八尋以外ノ所ニさざみづたアリ、べら、かさこノ少量及くまのみ等ノ魚類ヲ見ル

九二、松 ケ 鼻

干満線間ニハけがきノ附着アリ海底ハ傾斜急ニシテ斷崖ヲナス所アリ十二尋半ヲ以テ潮境トス、八尋線附近迄ハほんだはら、うみうちはノ繁茂アリいせむびノ棲息多ク潜水中大小取混ゼ三、四十尾ヲ發見セリ、魚類ハあら兒、めじな、あこ、ぶだひ兒、めばる、べら、かさこ、くまのみ等ノ磯魚多キ外くろだひ、かます兒、あち兒、いわし等モ見受ケラレタリ

九三、川之石川尻石堤附近

底砂泥ニ小石ヲ混ジ真珠介ノ發生所トシテハ好適ナルモノト認メシモ惜ムラクハ場所廣カラズ且河川ヨリ工場悪水ノ流出アルモノ、如ク之ガ影響ヲ蒙ルモノト認メラル、此處ヘハ以前廣島牡蠣ヲ移植セシコトアリ成長佳良ナリシモ工場悪水ノ影響ニテ肉ニ惡臭アリ食スルニ耐ヘズト、調査當時ニ於テモ小石ニハマがきノ相當ニ附着スルヲ認メタレドモ大部分ハ死殻トシテ殘レリ

眞 穴 村

九四、渡 ケ 瀨

眞穴村大島ニ於テ設置セル築磯ニツキ調査セリ、各種材料ヲ沈設セシハ昨年春季ニシテ古網船三隻ノ外石、樹木枝、糖等ヲ使用セリ、材料沈設後二ヶ月ニシテたひ、あち等ノ魚類ヲ誘致シタルモノ、如ク沈設

場所ノ潮下ニ於テ相當ニ釣獲アリ最高釣獲物たひ二百枚(百五十枚乃至二百枚)ニ達セリ、築磯場所ノ水深ハ十六尋半ニシテ調査ノ結果ハ沈没船二隻ハ相接シテ沈下セルモ他ノ一隻ハコレヨリ四間位ヲ隔テ居レリ、樹枝ハ舟喰虫ノ食害ヲ受ケ外皮上ニハひとら虫類多數附着ス、尙現場附近ハ常ニ小泡ノ浮上シ居ルヲ見タリ、底質ハ細砂ナリ、潜水中いさぎ兒、めばる、あら兒、かわはぎ、あこ、ぶだひ等ノ誘致セラ、ヲ認メかわはぎ二尾、ぶたひ一尾ヲ採集セリ

九五、くぬぎ瀨

潜水深度ハ七尋半乃至十七尋ニシテ最初十五尋ヨリ潜水シ調査セルニ此瀨ハ海底ニ聳立スル岩礁ニシテ傾斜モ亦急ナリ、岩上ニハ短小ノほんだはら、ゆかり、うみうちは、石灰藻類、地衣類(赤色)其ノ他ひとら虫類等着生ス、魚類ハあこ、しまだひ、あいこ、かさこ、わい、あち兒、いさぎ、くまのみ等ヲ認メ特ニ三、四百枚位ノまだひノ誘致サル、コト多キヲ見タリ、さくわ二個、いわがき一個、八百枚廻リ、かれひ一尾ヲ採集セリ

九六、沖 の 瀨

大島ノ東北端ヨリ東方沖ヘ延ビタル瀨ニシテ「第五」ノ場所ヨリ更ニ東方沖合ニ當レリ、四尋ヨリ瀨境十五尋ニ至ル瀨石ハ四尋附近大ナレドモ深度ヲ増スニ從ヒ小形トナル、あこ、こぶだひ、いさぎ、めじな、みぎまき、しまだひ、くまのみ等魚類ノ棲息アリあこ一尾ヲ突取セリ

神 松 名 村

九七、三 ツ 瀨

附近ノ山ハ左程高カラズ海岸ハ低断崖ヲナス海底ノ傾斜ハ稍々緩ニシテ所々ニ岩礁アリ磯境ハ十二尋ニシテ夫レヨリ以深ハ砂地トス海藻類ハ淺所ニほんだはらヲ主トシくろめハ多カラザルモ深所ニシテ九尋邊リニハくろめノ蕃殖多シ、其ノ他石灰藻等ノ若干着生ス、さゞね、あわび等介類ノ棲息ニハ適スルモノ、如シ、又いせねびモ相當ニ分布シ潜水中大小各一尾ヲ採集セリ、其ノ他魚類トシテ認メラレシモノハめばる、しまだひ、あこう、かわはぎ及少數ノべら、かさこ等ナリ、ほら介一個採集ス

四ツ濱村

九八、はやのて

海底ハ多ク白砂ニシテ只海中ニ轉出スル岩石底礁ニノミほんだはらヲ主トシテくろめ少々着生アリ、磯付魚類又多カラズ、べら、かさこ、めばる、きゞ、くまのみ及あち兒等少數ヲ認メシニ留マル、潜水深度二尋乃至三尋半ナリ、此附近かれひ棲息ノ跡アリ

九九、雀

澗

海岸ハ断崖ニシテ附近ニ雀落(大岩)アル外ハ海底一帯ノ白砂ヲナシ二尋乃至三尋ノ處ニ點々底礁アルニ過ギズ、海藻ハほんだはらノ少量アルノミ、いわがき(二個ヲ採集)ノ繁殖スルコト多キモ當業者ノ云フ所ニヨレバ鑛毒ノ影響ヲ受ケ滋味多クシテ食スルニ耐ヘズト

一〇〇、大

瀬

海岸断崖渚汀ニハ轉石多シ、大瀬ハ海岸ヨリ難レタル瀬ニシテ水深五乃至六尋ニシテ瀬境ハ七尋半ナリ、海藻ハほんだはらノ少量分布スルノミ然レドモ魚類ハ其ノ種類ニ富ミめばる、あこう、かれひ、いさ

ぎ、くろだひ、めじな、かさこ、きゞ、あち兒等ヲ算シはなおこせ、あこう、めばる、かれひ各一尾ノ採集ヲナセリ、其ノ他いせねびハ小形ナレドモ其ノ數多ク(二尾採集)さゞね五個、また介殼一個ヲ採集ス

三 机 村

一〇一、小瀧 網代

曳網漁場ニシテ障害物調査ノ爲潜水ス、深度ハ十一尋乃至十七、八尋ニ及ブ、障害物ハ繩懸ケニヨリ發見セシモ周圍一丈五尺、高サ三尺位ニ達スル大石ナル爲除去困難ナリ、たこ一頭採集ス

一〇二、ね ぶ 崎

海岸ハ岩石突出シ附近ハ大型ノ轉石多ク海中又大岩石ノ横タハルアリ二尋ヨリ潜水シテ四尋半ニテ早クモ瀬境ニ達ス、干満線間ノ岩上ニハいしげノ着生ヲ認ム、淺所ハ一帯ニ轉石ノ大ナルモノヨリナリほんだはら、くろめ等海藻繁茂セリ、かさこ、めばる、いさぎ兒、きゞ兒、にざだひ、くまのみ、はなをこせ(一尾採集)等ノ魚類ヲ見ル

一〇三、くらがり網代

曳網ノ障害物調査ヲナス、砂中ニ一尺位ヲ露出スル石アレドモ根石ナルモノ、如ク除去ハ容易ナラザルヲ以テ砂埋法ヲ獎メ置ケリ

一〇四、牛 澗

沿岸ヨリ離レタル澗ニシテ沖側五尋半ヨリ潜水シ周圍ヲ一周セリ、八尋ヲ以テ瀬境トス、海藻ハほんだはらヲ主トシくろめハ僅少ナリ、殊ニ之等ノ海藻ハ沖側ニ少ク岡側ニ多キ様認メタリ、あはびハ發見

スルニ至ラザリシモさゞは稍多ク十數個ヲ採集セリ、めばる、いさぎ、かさこ、べら、くまのみ等魚類ノ外ハかれひ棲息ノ根跡アリ、其ノ他たこ一頭、うちむらさき介殻一個ヲ採集ス

一〇五、船 瀬

沈没セル船ノ曳網ニ障害トナルモノニシテ當業者ノ山見ニヨリ十二尋へ潜水調査スル所アリシモ遂ニ發見ニ至ラズシテ止ム

一〇六、和 田 鼻

塩成前濱ノ西南ニ突出セル數個ノ大岩石ニ接近シテ潜水調査ス、之等大岩石ヲ離レタル場所ハ一帯白砂ナリ、干満線間岩上ニハいしげ、ひじき(最長三、四寸)着生シ淺所ノ岩上ニくろめ、ほんだはら簇生ス、さゞはノ分布アリべら、かさこ、あぢ兒等ノ魚類ヲ見ル

町 見 村

一〇七、あ い 瀨

主トシテ此ノ附近ハラの糞其ノ他ノ暗礁、底瀬多シ、四尋ヨリ潜水シ瀬境ハ十尋ナリ、海底ハ底礁瀬石ノ凹凸甚ダシク歩行ニ困難ヲ感ズ、海藻ハ稍淺所ニくろめノ少許アルノミニシテ全般ニ涉リほんだはらノ着生アリ、瀬境ノ底質ハ小砂利ニ介殻ヲ混セリ、めばる、べら、かさこ、いさぎ、にざだひ、めじな、しまだひ、くまのみ等ノ魚族並さゞはノ分布スルアリ、底形等いせびノ棲息ニ適ス

一〇八、雀 澗

五尋半ヨリ九尋半ノ瀬境迄潜水ス、海藻ハほんだはらヲ主トシくろめ少々、ひめゆかり等着生シめば

る、めじな、かさこ、くまのみ、くろだひ、まだひ兒等ノ游泳棲息スルヲ見タリ

一〇九、横 瀬

底ハ一帯ノ岩盤廣ク岩間ノ凹陥部ハ砂ヲ被レリ、底面ノ着生物ハほんだはらノ短小ナルモノ石灰藻類、ひごろ虫類、うみうち等は等ニシテ水深ハ概ネ十六、七尋ヲ算スルモ最淺十三尋ナル所アリ、わい及其ノ稚兒ニ富ミいせび亦多ク(二尾突起)其ノ他ぶだひ、こぶだひ、いさぎ、あいご、こち、しまだひ、かわはぎ、くまのみ等ノ魚類モ少ナカラズ、但シべら、かさこハ分布アルモ多カラズマタまだひノ誘致セラル、ヲ見タリ

伊 方 村

一一〇、横 道

豊ノ浦部落南端ニ突起セル岩礁附近三尋半ヨリ潜水ス、瀬境ハ十尋ヲ算シ瀬石ハ一般ニ大ナリ、約七尋線迄ハほんだはらヲ主トシテ着生シくろめハ少ナシ、さゞはノ分布アルモ形小ニシテ多カラズ(五個採集)魚類ハぶだひ、めばる、にざだひ、べら、かさこ、くまのみ等見受ケラル

町 見 村

一一一、女 岬 崎

女岬崎端ヲ離レタル一大岩ノ沖側三尋ヨリ潜水シテ瀬境二十一尋ニ達ス、岩ノ干満線附近ニハひじき(最大三、四寸)ノ着生アリ、ほんだはらハ十七尋附近迄見ラル、モくろめハ僅少ニシテ石灰藻類ハ多シ、さゞはノ分布アルモ少ク(一個採集)しまだひ、にざだひ、べら、かさこ、くまのみ等ノ魚類ヲ見ル

一一二、二ツ 瀨

岩礁附近ノ三尋ヨリ六尋ニ潜水ス、落ノ淺所ハほんだはら、くろめヲ見干満線附近ニハけがき、かめのて、いしげ、ひじき(四、五寸)等着生アリ、尙ほんだはら及くろめノ僅少ハ瀨境附近迄及ベリ、しまだひ、いさぎ、べら、かさご、にざだひ、くまのみ、さぐね等魚介類ノ分布スルアリ

伊方村

一一三、い け 瀨

黒島ノ西端ニ當リ大小多数ノ岩礁點在ス、三尋ヨリ調査シ瀨境十三尋ニ至リ再ビ瀨上ヲ迂回ス、干満線附近ニいしげノ着生ヲ見ル、ほんだはらハ比較的淺所ト瀨境ナル十三尋ヨリ九尋半ノ稍々深所ニ於テ見ラレくろめハ甚ダ少シ、其ノ他うみうちは、ちやしほぐさ、みる、石灰藻類等アリ、さぐねハ棲息スレドモ少クめばる、にざだひ、めじな、べら、かさご、くまのみ等ノ磯魚類ハ相當ニ多シ、此附近一帯ノ干満線間岩礁ハふのりノ増殖ニ適スルモノト認ム

一一四、ひきだし鼻

黒島ノ東南端岩礁轉石アル場所ノ二尋半ヨリ九尋ニ潜水調査ヲナス、海藻ハほんだはら及くろめノ少量、うみうちは、ゆかり等アリさぐね二個ヲ採集シ、魚類ハめばる、かさご、べら、くまのみ、たなごノ稚兒等ヲ見ル

一一五、から島東南端附近

三尋ヨリ十四尋半迄潜水ス、四尋半迄ハほんだはらニ僅少ノくろめアリ、めばる、かさご、にざだひ、

べら等ノ魚類ヲ認ム

一一六、むろ崎

大岩石及岩礁突兀タリ、二尋半迄ノ範圍ニツキ調査セリ、ほんだはらハ八尋半迄ノ處ニ着生シ八尋半ヨリ瀨境十二尋半迄ニハくろめ、たまみる着生ス、棲息魚類ハあいご、めじな、べら、かさご等ニシテさぐねモ亦分布アリ

一一七、びしやご鼻

岩礁附近ノ三尋ニ潜水シテ沖合ノ瀨境十三尋半ニ至ル、三尋ヨリ七尋迄ハほんだはら、七尋ヨリ十三尋半迄ニくろめ、たまみるヲ見海藻分布状態略々「むろ崎」ニ近シ、めばる、かさご、あいご、ぶだひ、べら、くまのみ等及いわしノ洄泳スルヲ認ム

一一八、大瀨 漁場

曳網漁場ニ存スル障害物調査ノ爲前後二回潜水ス、水温十八尋ヲ算スル比較的深所ナリ、第一回ハ當業者ノ山見ニヨリ探索ノ結果二十貫内外ノ石一個ヲ引揚シ第二回ハ繩懸シテ引キ當テタル障害石百貫内外ノモノ一個ヲ引揚ゲタリ

一一九、沖の岩

海岸ニハ轉石多ク一部岩礁ヲナス、干満線附近岩上ニハひじきアリ三尋迄ほんだはら分布シくろめハ干潮線下ニ薄層ヲナシ少々認メラル、ニ過ギズ、四尋以下ニ至リテハ主トシテたまみる着生ス、さぐねノ棲息ハ稍々多ク十二個ヲ採集セリ又いせびヲ認メラレ一尾採集ス、魚類ノ主ナルモノハみぎよこ、

めばる、ぶだひ、あいご、かさご、しまだひ、べら、くまのみノ外附近ヲ洄游スルたい兒等ナリ

一一〇、よしが浦網代

曳網ノ障害物ニツキ調査セリ、搜索ノ結果發見セルニ高サ五寸、幅三尺、面積約半坪位ヲ露出スル自然石ナルモノ、如ク除去作業等ハ容易ナラザルヲ以テ應急的ニ砂埋法ヲ指示シ置ケリ

一一一、みこし瀬

伊方村港浦港口ニアル瀬ニシテ岩石ヨリナリ初メ十四尋ノ瀬上ニ潜水セシガ頂點ニ近キ所ノ水深ハ七尋半ヲ算スルノミ、海藻類ハ殆ド稀スルニ足ルモノナク僅カニ石灰藻類外ニひとら虫類等ノ着生ヲ認ムルノミ、いせびの棲息アリ(二尾採集)魚類ニハめばる(三尾採集)ぶだひ(二尾採集)あいご、かさご、べら、くまのみ、あぢ、ぶら兒等ヲ見タリ

八幡濱町

一二二、佐島西端

佐島西端ノ岩礁上三尋ヨリ潜水シテ沖合ニ出テ瀬境十七尋ニ達シテ旋回シ瀬上ヲ再調査ス、瀬境ニ於テハ海底ノ傾斜甚ダ急ナリ、淺所ハ若干ノ石灰藻、ひとら虫類ノ附着アル外海藻類等ハ認めラレズ概ネ岩面露出セリ、稍々深所ヨリ九尋迄はんだはら、くろめ着生ス、あわび、さゞねノ棲息ヲ認めさゞねハ稍々多シ(三十三個採集)めばる、めじな、こぶだひ、かさご、べら並あぢ等ノ魚類ヲ見タリ

一二三、佐島東端附近

海底ハ轉石多キ石原ニシテ淺所ハ地盤ノ傾斜稍々緩ナルモ瀬境ニ至リテ甚ダ急ナリ、四尋半ヨリ潜水

シテ沖合ノ瀬境ヲ極メ(十四尋)旋回再ビ瀬上ヲ調査シテ一尋ニテ上ル、海藻類ハはんだはらヲ主トシ比較的淺所ニ限ラレ四尋以深ニ少ナシ、やはすぐさヲ採集ス、さゞね二個ヲ採集シめばる、かわはぎ、べら、かさご、くまのみ等ノ若干ヲ認めタリ

眞穴村

一二四、大島西南端瀆

此ノ附近ハ岩礁底瀆ニ富ム、干満線附近ハ上部ニハいしげ其下ニひじき附着ス、瀬境ハ沖合八尋半トス、海藻ハ三乃至四尋位迄ニはんだはら夫レヨリ深所ニくろめ少々着生スルノミニシテ他ハ概ネ石灰藻ひとら虫類ノ附着アルノミ、磯魚ハ一般ニ豊富ニシテいさぎ、ぶだひ、めじな(五百外内外ノモノ一尾採集)、しまだひ、にざだい、べら、かさご、かわはぎ、あぢ兒等種類モ又少カラズ又いせびノ棲息ヲ認め、た一頭ヲ其ノ卵ト共ニ採集ス、さゞねモ相當ニ分布アリ、こしだか一個採集ス、又うみまつモ着生セリ

一二五、大島南端

大島ノ外海部中央ニ突起セル斷崖附近ニシテ四尋ヨリ潜水シ瀬境七尋迄ノ調査ヲナス、海藻ハ干満線間ニひじき着生シ海底瀬境七尋迄はんだはらノ分布アルモくろめ少ナシ、さゞねヲ認ムルモ多カラズ、魚類ハこぶだひ、兒いさぎ、べら、かさご、くまのみ等ナリ

一二六、粟の小島南端

海底ハ一部岩礁ノ續キ一部瀆石ニシテ瀬境ノ沖出シハ九尋半ナリ、淺部二尋ヨリ潜水ス、海藻類ハはんだはら主ニシテ九尋半迄分布アリくろめ亦認めラル、モ多カラズ、いせびノ棲息アリ、介類ニハさ

まねノ蕃殖スルコト稍多ク(四十個採集)又いがひノ分布アリテ一個ヲ採集セリ、魚類ハいさぎ、めばる、べら、かさご、しまたひ、くまのみ、いゝ兒等ナリ

一、西宇和郡海底調査ノ結果ニ就キテ

今回西宇和郡沿海海底調査ノ跡ヲ綜合考察シ有用磯付魚介藻類ノ分布状態竝之ニ對スル卑見ヲ述ブレバ次ノ如シ

一、たひ

たひハ沿岸潜水中モ所々ニ其ノ來游ヲ認メシガ就中横瀬、クニギ瀬特ニクニギ瀬ニハ瀬付トシテ常棲スル三百匁乃至四百匁位ノモノ甚ダ多キヲ以テ之ガ釣獲方法ヲ調査講究スルニ於テハ利益多カルベシ

一、かれひ漁場

三崎村高鼻(潜水位置<sup>2</sup>)附近ニ於ケル水深十五尋内外ノ細砂底ニハ優良かれひノ棲息多ク今回ノ調査ニテ一尾八百匁乃至一貫匁内外ノモノヲ連續シテ三尾採探セリ、思フニ此ノ附近ハかれひノ新漁場トシテ漕釣等有望ナラム

一、磯付魚類

沿岸一帯ニ磯魚ノ種類ニ富メドモ特ニ眞穴村沖ガブ島、全地大島カイツキ瀬、大島西南端磬、二本生村須崎、全コツテジマ、白石瀬、三島村沖ノ瀬、全高島西南端、四ッ濱村大瀬、伊方村黒島イヶ磬、全ミコシ瀬等ハ集合棲息多キヲ以テ磯魚類ヲ目的トスル建網漁業等ハ有利ニ營マルベシ

一、いせねび

各地ノ岩礁間大抵之ガ分布アルモ一般ニ其ノ數少ナク形態又大ナラズ僅カニ川之石灣内松ヶ鼻、二本生村白石瀬、三島村沖ノ瀬、町見村女岬沖横瀬等ニ於テ比較的多數ヲ認メタルニ過ギズ、以上調査ノ實績ニ徴スルニ本郡沿海ノいせねびハ蕃殖上ノ障害ヲ蒙リツ、アルモノ、如ク其ノ因ニシテ若シ人爲的亂獲ニアリトセバ漁業者ハ一致協力大イニ之ガ増殖ニ努ムルノ要アリ、而シテいせねびノ増殖法トシテハ三重、和歌山兩縣下ニ實施シテ偉効ヲ顯ハシツ、アル一定年期又ハ區域ヲ限リタル絶對禁漁ノ方途ニヨルヲ最モ簡便ニシテ効果アルモノト認ム

一、あわび、さざね

あわびハ三崎半島岬端地方二本生村周木、白崎ニ於テハ稍々優良ナルモノヲ採集シ其ノ他ノ地方モ各岬端部、暗礁帶、島嶼、離礁等ニ互リ廣ク之ガ分布ヲ見ルト雖概ネ形小ニシテ營養狀況良好ノモノ少ナシ

さざねハあわびニ比シ一層分布區域廣ク殆ド各所ニ之ヲ見ルト雖就中三崎村ドボハヤ、眞穴村沖カブ島、全地大島ホ、ロ瀬、全大島西南端、全粟ノ小島南端、二本生村周木コツテジマ、全須崎、三島村下泊高島、全地ノ島西北端、川之石町小島、八幡濱町佐島西端部附近ニ多數ヲ認メシガ之亦あわび同様形態小ナルモノ多シ

斯クあわび、さざね等磯付重要介類ノ小形ニシテ營養状態不良ニ見受ケラル、ハ亂獲モ其ノ一因ナルベケレドモ今回親シク海底状態ヲ精査シタル所ニヨレバ磯ノ荒廢ニ伴フ食餌不足ヲ主因トナスガ如シ、即チ之等介類ノ主食餌タルくらめ、わかめ等ノ繁茂生育スル場所ハ甚ダ狭範圍ニ屬シ之ニ反シ石灰藻其

ノ他ひごろ虫類等不用生物ノ着生ニ委ネ海底爲ニ白色化シ所謂磯燒の荒廢ヲ來セル所比較的廣シ、思フニ之ガ對策トシテハ保安林ヲ涵養擴大シテ一時ノ出水ヨリ來ル磯ノ荒廢ヲ防止スルト同時ニ食餌海藻ニ對シテハ出來得ル限り保獲ヲ加フルハ勿論更ニ移殖等ニヨル積極的増殖法ヲ講ズルヲ以テ根本策ナリト思惟ス

一、しんじゆがひ

從來本縣ニ於ケルしんじゆがひノ分布區域ハ北宇和郡吉田灣ヲ北界トシテソレ以南ノ海面ナリト信ゼラレシガ今回ノ調査ニヨレバ其ノ分布區域ハ更ニ北進シテ西宇和郡三島村下泊灣川上村沿海ヨリ川之石灣ニ迄及ベルコトヲ確メタリ、然レトモ地形底質海況等ヨリ推シテ何レモ多數ノ増殖ハ望ミ得ザルベシ

一、てんぐさ

てんぐさニシテ優良ナルモノ、分布區域ハ三崎村佐田岬端ヨリ神松名村梶谷崎ニ至ル迄ノ沿海ニシテ此區域ニハひらくさ亦分布蕃殖ニ適セリ、其ノ他川上村ノ一部、三島村下泊ノ離島部等ニ若干ノ着生ヲ認メタレドモ其ノ量ハ少ナク質又良好トハ云ヒ難シ、而シテ優良草ノ分布區域タル三崎村神松名村沿海ニハ投石等ニヨル着生面ノ擴張ヲ行ヒ尙増殖ノ餘地アルベク眞穴村大島西部沿海三島村下泊離島部沿海等ハ優良藻ノ移殖ニヨリ増殖ヲ期待シ得ベキ所アリ

一、わかめ

調査日時ノわかめ繁茂期ヲ經過セル後ナリシヲ以テ當時既ニ流失シタルモノモアリシナルベク分布區域等判然セザル點アルモ調査ノ結果ニヨレバ之ガ多數ニ繁殖スルハ三崎村佐田岬附近ニシテ半島部ヲ東

スルニ從ヒ漸次ニ減少シ半島部以外ノ場所ニモ之ガ分布ハ少ナキガ如シ、然レドモわかめハ移殖ニヨル増殖比較的容易ニシテ該藻ハくろめト共ニあはび、さ、いノ主要食餌ニ相當スルヲ以テ今後之ガ増殖ニツキテハ大イニ考慮ヲ要スベキモノト認ム

一、くろめ

くろめノ分布ハ西宇和郡沿海一帶ニ互ルト雖現下ノ狀態ハ磯ノ荒廢ニヨリ該藻ノ蕃殖スベクシテ蕃殖シ能ハザル所多シ、依ツテわかめト共ニ磯掃除移殖等ヲ適宜施行スルト同時ニ根本的ニハ磯荒廢ノ因タル一時的出水ヲ防止スル爲保安林ノ涵養ヲ急務ナリト認ム

一、ふのり

ふのりハ三崎半島部其ノ他各離島沿岸等相當ニ適地多キヲ以テ從來ノ如ク單ニ自然ノ成行ノミニ放任セズ更ニ人工的附着磯ノ整備、掃除、其ノ他岩質ノ如何ニヨリテハコンクリート被着等積極的増殖法ヲ講ズルト同時ニ採取ニ當リテモ適當ニ留意スルニ於テハ増産ヲ期待シ得ベシ

底質調査

位置	底質	礫	大砂	中砂	小砂	細砂	泥	摘要
1	小砂質	8%	8%	19%	53%	12%	0%	介殼
2	細砂質	4%	3%	3%	28%	61%	1%	同
3	同	5%	11%	9%	20%	48%	7%	同
								r + c.c



55	52	51	49	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	33	31
同	同	同	同	砂	泥	砂	砂	泥	泥	砂	大	同	同	同	砂	大	砂	細
					泥					砂					砂		砂	
					質	質	質	質	砂	質	質	質			質	質	質	質
15	20	20	4	25	2	10	4	(材料少量ナリ)	0	12	10	13	7	6	18	25	12	5
23	30	30	16	30	3	25	21	)	0	33	40	12	25	17	30	34	30	10
22	10	16	18	15	4	15	20		0	17	20	18	18	22	25	15	14	12
25	17	21	28	15	13	10	27		5	20	15	24	21	33	20	15	15	25
13	18	12	24	11	38	25	19		30	11	12	24	23	20	6	9	17	40
2	5	1	10	4	40	5	9		65	7	3	9	6	2	1	2	12	8
同	同	同	同	同	同	同	同	介殼	卷介及介片ノ少許ヲ認ム	同	同	同	同	同	同	同	同	同
c.c	c.c	c.c	C	c.c	r	c.c	+	r	C	c.c	C	C	+	+	c.c	c.c	+	

30	29	28	27	26	25	24	22	21	20	19	13	11	10	8	7	6
砂	細	砂	大	砂	大	大	細	同	同	同	砂	大	砂	大	砂	小
	砂		砂		砂	砂	砂					砂		砂		砂
質	質	質	質	質	質	質	質	質			質	質	質	質	質	質
10	0	5	15	12	23	30	0	8	5	6	11	23	11	1	2	0
21	4	25	30	15	44	32	7	18	22	22	16	56	26	40	2	4
25	12	22	20	22	16	12	5	26	32	19	15	19	22	36	31	11
24	35	26	17	32	11	13	24	34	30	26	29	2	26	13	32	63
15	43	20	17	17	5	10	43	13	10	20	23	0	12	10	14	21
5	6	2	1	2	1	3	21	1	1	7	6	0	3	1	1	1
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	介殼
+	r	c.c	c.c	c.c	C	c.c	r	C	c.c	C	C	+	C	+	C	C

108	106	105	104	102	100	99	98	97	95	94	92	91	90	89	88	87	86	85
細小砂質	小砂質	小砂質	同	同	小砂質	同	同	中砂質	砂質	介細砂質	同	砂質	同	同	同	砂質	介細砂質	同
4	0	1	1	0	0	1	3	7	15		20	3	9	15	11	15		10
16	0	2	1	2	1	14	18	23	14		20	13	30	23	35	30		25
16	27	3	15	4	1	45	52	49	37		10	12	22	15	18	20		25
29	68	46	73	76	50	37	25	20	29		10	19	21	18	18	18		26
30	5	38	10	18	47	3	2	1	5		20	30	15	21	14	14		12
5	0	10	0	0	1	0	0	0	0		20	23	3	8	4	3		2
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	介殼	同	同	同	同	同	同	同	同
C	r	r	r	r	r	r	r	r	r	c.e	+	+	+	+	C	c.e	c.e	c.e

(底質採集量少ナシ)

薬及介殼破片ヲ混ス

84	82	81	80	75	72	71	70	69	65	64	62	60	59	58	57	56	
同	砂質	小砂質	同	同	同	同	砂質	細砂質	礫質	小砂質	砂質	砂質	同	同	砂質	小砂質	
7	13	7	3	10	20	3	13	10	35	8	0	15	2	10	12	1	
8	30	17	24	32	33	32	27	2	35	14	1	25	2	33	37	8	
13	23	25	26	25	23	28	17	1	25	13	1	22	3	18	23	32	
38	20	30	21	21	13	26	24	25	13	31	11	23	12	18	16	45	
32	10	19	19	10	9	8	15	57	2	30	50	12	55	13	9	12	
2	4	2	7	2	2	3	4	5	1	4	37	3	26	8	3	2	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	介殼	ナシ	同	同	同	同	介殼
C	c.e	c.e	c.e	c.e	c.e	C	c.e	c.e	r	c.e	C		C	r	C	c.e	c.e

摘要

位置	底質	礫	大砂	中砂	小砂	細砂	泥	摘要
126	小中砂質	1	11	29	38	19	2	同 C
125	大中砂質	15	35	25	18	6	1	同 C
124	砂質	13	23	12	23	26	3	同 C
123	大中砂質	10	30	20	23	15	2	同 C
122	大礫砂質	27	30	15	17	9	2	同 C
120	細砂質	3	4	2	13	55	23	同 r
119	細砂質	2	20	15	29	30	4	同 r
118	砂泥質	2	5	4	11	39	9	同 r
117	大中砂質	13	33	19	14	12	1	同 C
116	小中砂質	4	23	27	31	14	1	同 C
115	大細砂質	12	40	21	17	9	1	同 C
114	小大砂質	1	5	12	36	3	7	同 C
113	大砂質	30	50	13	4	3	0	同 C
112	同砂質	16	45	21	8	3	1	同 C
111	大砂質	3	36	27	20	11	3	同 C
110	砂質	7	22	20	28	21	2	同 C

備考

摘要中介殻 c.c.ハ半量以上ノ多数ヲ示シ Cハ稍々多ク rハ混在顯著 rハ僅カニ混スル程度ナリ  
底質区分ノ標準左ノ如シ

礫 徑 三m以上  
大砂 徑 一m以上  
中砂 徑 一m以下 〇、五m以上  
小砂 徑 〇、五m以下 〇、二m以上  
細砂 徑 〇、二m以下 〇、〇五m以上  
泥 徑 〇、〇五m以下

### 西宇和郡海底調査潜水日誌

月日	時刻	天候	潜水回数	潜水場所	深度	底質	主要魚介藻類ノ分布
七、一三	四時 <sup>時</sup> 五〇分 五時〇五分	B-C	1	三崎村佐田岬端 カゴ島附近	23 F	1	めばる、たこ、あわび、さゞね、てんぐさ、ひらくさ、わかめ、くろめ等
七、一四	九時〇五分 〇二時〇五分	B-C	3	全カセノハヤ	10	3	あわび、さゞね、てんぐさ、わかめ、ひらくさ、きんさき、くろめ等
七、一四	〇九時〇五分 〇二時〇五分	B-C	4	全カセノハヤ	10	3	あわび、さゞね、てんぐさ、わかめ、ひらくさ、きんさき、くろめ等
七、一四	〇九時〇五分 〇二時〇五分	B-C	4	全カセノハヤ	10	3	あわび、さゞね、てんぐさ、わかめ、ひらくさ、きんさき、くろめ等
七、一四	〇九時〇五分 〇二時〇五分	B-C	4	全カセノハヤ	10	3	あわび、さゞね、てんぐさ、わかめ、ひらくさ、きんさき、くろめ等
七、一四	〇九時〇五分 〇二時〇五分	B-C	4	全カセノハヤ	10	3	あわび、さゞね、てんぐさ、わかめ、ひらくさ、きんさき、くろめ等
七、一四	〇九時〇五分 〇二時〇五分	B-C	4	全カセノハヤ	10	3	あわび、さゞね、てんぐさ、わかめ、ひらくさ、きんさき、くろめ等
七、一四	〇九時〇五分 〇二時〇五分	B-C	4	全カセノハヤ	10	3	あわび、さゞね、てんぐさ、わかめ、ひらくさ、きんさき、くろめ等
七、一四	〇九時〇五分 〇二時〇五分	B-C	4	全カセノハヤ	10	3	あわび、さゞね、てんぐさ、わかめ、ひらくさ、きんさき、くろめ等
七、一四	〇九時〇五分 〇二時〇五分	B-C	4	全カセノハヤ	10	3	あわび、さゞね、てんぐさ、わかめ、ひらくさ、きんさき、くろめ等

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
三三、三五五 P-M	三二、〇〇五 P-M	二二、四二五 P-M	二二、一六〇 P-M	二一、〇〇〇 P-M	一一、二〇三 A-M	一一、〇〇七 A-M	〇〇、五三五 A-M	〇〇、一八〇 A-M	九九、二五〇 A-M	九八、一四五 A-M	八八、四〇五 A-M
B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	C	C	C	C	C	C	C
28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17
16	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
陸全 村古泊 側	全 右	全 右	全 右	全 右	全 右	全 右	全 右	全 右	全 右	全 右	全 右
8 1/2	5-8	5-8	5-8	5-8	5-8	5-8	5-8	5-8	5-8	5-8	5-8
漁場障害物調査しんじゆ介ヲ見ル	全 右	全 右	全 右	障害物除去作業	全 右 あらノ兒ヲ見ル	全 右	全 右	全 右	障害物除去作業	たひ三枚作業中ノ濁ニ集マル	全 右

七、一七	"	"	"	"	"	七、一六	"	七、一五	"	七、一四	月 日	
八八、二〇五 A-M	四四、二〇五 P-M	四三、〇〇三 P-M	三三、二五〇 P-M	二二、五〇五 P-M	二一、一五五 P-M	一一、三三三 P-M	一一、〇〇〇 A-M	〇九、一〇〇 A-M	四三、四〇〇 P-M	三二、二四五 P-M	時 刻	
C	B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	B	B	B-C	B-C	候 回数	
16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	天 潜水	
15	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	位 置	
全 右	人全 上泊 家前	浅所 リ香 田村 ニ向 フ	全 シ ホ ザ キ	古全 泊上 前泊 ノ内 瀬	ナ川 上土 村キ リ鼻	鼠真 穴村 島	カ全 シ ヤ 崎	セ神 ブ松 ラ名 ラ村 ハハ ヤ	大全 タ マ リ	ト三 崎村 佐田 岬端	地 水 場 所 名	
5-8	5-8	16	15 1/2	17-18	21	19 1/2	30	8 1/2	11	15	度 深	
			13		11	10		8	7	6	質 底	
障害物除去作業	かれひ、あはび等 漁場障害物ノ調査チナス	たひ、しんじゆがひ、なまこ、てんぐさ等	此ノ附近なまこノ棲息多シ	ぶだひ、たい、いせねび	あこう、なまこ、さゞね、しんじゆがい	くまのみ、べら及しんじゆがい	ろめ等	いせねび、あわび、さゞね、てんぐさ、ひらくさ、くろめ等	あほりいか、いせねび、あわび、さゞね、さこぶし、てんぐさ、さりあし、くろめ等	たひ、かれひ、あこう、あはび、さゞね、ひらくさ等	かれい、あこう、めばる、いせねび、あはび、さゞね、くろめ、ひらくさ等	主 要 魚 介 藻 類 ノ 分 布

〃	〃	〃	〃	〃	七、二一	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三、一四 五 P.M	二、三〇 七五 P.M	二、〇四 〇六 P.M	一〇〇、三 五五〇 A.M	一〇九、二 〇〇〇 A.M	九、八〇 一五六 A.M	五、四〇 一〇五 P.M	四、〇〇 二二三 P.M	三、三〇 一〇三 P.M	一、一〇 四二〇 A.M	一、〇〇 五五〇 A.M	一〇〇、四 五二二 A.M
C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40
30	29	28	27	26	25	24	23	23	22	21	20
全ウ 穴井 シ ン 鼻	眞穴 村 ナ リ カ ウ シ 網 代	全 ゴ ロ ト キ 鼻	全 平 眞 網 代 鼻	全 小 網 代 鼻	全 龍 眞 網 代 崎	全 沖 カ ブ 島	全 右 網 代 沖 崎	中 眞 穴 村 小 網 代 崎	全 合 田 鼻	全 イ カ 鼻	全 ツ ボ ツ ボ ノ 鼻
20 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>	10 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>	30	17	13	26	20	9	7-8	9	8 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>	9 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>
30	29	28	27	26	25	24	—	—	22	21	20
魚介藻類少シほそノ游泳スルヲ見ル	漁場障害調査 たこの棲息アリ	あはび、さゞね、くろめ等	各種磯魚類並くろめ	いたや介、あか介、すだれ介、まて介等ノ介殻ヲ見ル	こぶだび、めばる、かさこ、あはび、さゞね、いせね	いせね、び、さゞね、なまこ、くろめ等	全 右	べら、かさこ多クたこ採取	あはび、さゞね	あはび	こぶだび、たこ、さゞね、くろめ等

七、二〇	〃	〃	七、一九	〃	〃	〃	〃	〃	七、一八	七、一七	月 日
一〇九、三 〇〇五 A.M	一一、二 五七 A.M	一一、〇 二〇 A.M	九、八 五二二 A.M	三、二 三四五 P.M	二、三 四〇五 P.M	一、〇 三二五 P.M	九、九 四〇五 A.M	九、八 一〇五 A.M	八、七 〇二五 A.M	四、四 一〇五 P.M	時 刻
C	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R-C	候天 回数
39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	候天 回数
19	18	18	18	15	17	18	15	15	15	17	位置 水深
驚 田 ヶ 浦	全 右	全 右	波 止 場 附 近	全 村 上 泊 前	人 全 家 前	波 止 場 附 近	全 右	全 右	人 全 家 前	家 全 村 上 泊 前	水場 所 名
16 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>	9-13	9-13	9-13	5-8	8	9-13	5-8	5-8	5-8	8	度深
19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	質底
あわび、さゞね、くろめ等	全 たい、あら見、あこ う 兒 等 ヲ 見 ル	全 右	全 右	全 右	障 害 物 除 去 作 業	漁 場 障 害 物 調 査、 か れ び 採 取	全 右	全 右	漁 場 障 害 物 調 査 並 除 去	漁 場 障 害 物 調 査 並 除 去	主 要 魚 介 藻 類 ノ 分 布

月日	時刻	候天 回数	潜水 位置	水場 場所	度深	質底	主要魚介藻類ノ分布
七、二四	三、三五〇 P.M	C	40	白全二石及瀬	18	40	いさぎ、あぢ兒、其ノ他、磯魚類及いせねび多シ
七、二五	八、五〇〇 A.M	B	42	二全及灣口	13	42	いさぎ、めばる多シ、たこ、なまこ、さゞね、くろめ等
七、二六	九、〇〇〇 A.M	B	43	二全及瀬	10	43	いさぎ、めばる多シ、たこ、なまこ、さゞね、くろめ等
七、二七	九、〇〇〇 A.M	B	44	二全及瀬	10	44	いさぎ、めばる多シ、たこ、なまこ、さゞね、くろめ等
七、二八	九、〇〇〇 A.M	B	45	二全及瀬	10	45	いさぎ、めばる多シ、たこ、なまこ、さゞね、くろめ等
七、二九	九、〇〇〇 A.M	B	46	二全及瀬	10	46	いさぎ、めばる多シ、たこ、なまこ、さゞね、くろめ等
七、三〇	九、〇〇〇 A.M	B	47	二全及瀬	10	47	いさぎ、めばる多シ、たこ、なまこ、さゞね、くろめ等
七、三一	九、〇〇〇 A.M	B	48	二全及瀬	10	48	いさぎ、めばる多シ、たこ、なまこ、さゞね、くろめ等
七、三二	九、〇〇〇 A.M	B	49	二全及瀬	10	49	いさぎ、めばる多シ、たこ、なまこ、さゞね、くろめ等
七、三三	九、〇〇〇 A.M	B	50	二全及瀬	10	50	いさぎ、めばる多シ、たこ、なまこ、さゞね、くろめ等
七、三四	九、〇〇〇 A.M	B	51	二全及瀬	10	51	いさぎ、めばる多シ、たこ、なまこ、さゞね、くろめ等

月日	時刻	候天 回数	潜水 位置	水場 場所	度深	質底	主要魚介藻類ノ分布
七、二二	三、三五〇 P.M	C	31	ト全穴井ザキ	6 $\frac{1}{2}$ F	31	魚介藻類少シ其ノ游泳スルヲ見ル いわがき殻採集 たいノ棲息アリ
七、二三	四、一五〇 P.M	C	32	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、二四	四、一五〇 P.M	C	33	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、二五	四、一五〇 P.M	C	34	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、二六	四、一五〇 P.M	C	35	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、二七	四、一五〇 P.M	C	36	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、二八	四、一五〇 P.M	C	37	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、二九	四、一五〇 P.M	C	38	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、三〇	四、一五〇 P.M	C	39	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、三一	四、一五〇 P.M	C	40	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、三二	四、一五〇 P.M	C	41	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、三三	四、一五〇 P.M	C	42	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、三四	四、一五〇 P.M	C	43	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、三五	四、一五〇 P.M	C	44	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、三六	四、一五〇 P.M	C	45	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、三七	四、一五〇 P.M	C	46	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、三八	四、一五〇 P.M	C	47	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、三九	四、一五〇 P.M	C	48	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等
七、四〇	四、一五〇 P.M	C	49	ナ全タ漁場	14	33	めばる、かさご、たかのはだひ、あをりいか、いせねび、あはび、さゞね、いわがき、くろめ等

七、三〇	"	"	"	"	"	々	"	"	七、二九	"	"
八八、四三〇五 A-M	五五、〇〇五〇 P-M	四三、四〇五〇 P-M	三三、四〇二八 P-M	三二、一〇四六 P-M	二二、四〇三七 P-M	二二、三六一〇 P-M	二一、〇三〇七 P-M	八八、三〇五五 A-M	七七、三二五五 A-M	二二、四三〇五 P-M	一一、二〇五〇 A-M
B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	P
97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86
68	67	66	65	64	63	62	62	59	59	59	61
前全 皆網江 代	前全 網 代	沖全 藏貫 瀬	福全 島西 端	ウ全 マブ ラ鼻	ウ全 マブ ラ網 代	全 右	横 三島 村藏 貫 代	ナ全 三瓶 町チ 網代	全 右	ナ全 ノク チ網 代	立全 石
6 $\frac{1}{2}$	6 $\frac{1}{2}$	13	9	8 $\frac{1}{2}$	5 $\frac{1}{2}$	3	3-6	6	6	6	17
			65	64			62				
全 右	漁場障害調査並除去作業	たい、いさぎ、あち兒其ノ他磯魚類多シ、たこ、なまこ、いせび	いさぎ其ノ他磯魚類、さゞね等	まだひ、いさぎ其ノ他磯魚類ノ外さゞね、いわがき等	漁場障害物調査	漁場障害物調査並除去作業	全 右 かれひ、かさこ多シ	漁場障害物除去作業ヲナス	全 右 たこ採取	漁場障害物調査	さゞね、いわがき等

"	"	七、二八	"	"	"	々	"	七、二七	"	七、二六	月 日
一〇九、五五〇〇 A-M	九九、三〇〇〇 A-M	九八、〇四〇五 A-M	四四、五三〇〇 P-M	四三、四〇〇〇 P-M	三三、三〇七〇 P-M	一一、〇三四五 A-M	一〇、四二二三 A-M	九八、三三〇〇 A-M	四四、四〇〇〇 P-M	四三、四一五五 P-M	時 刻
B	B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	B	B	B	B	B	候天 回潛 水
85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	位置 地 名
60	59	59	58	57	56	55	54	47	53	52	度深
蝦全 ヶ 磐	全 (稍々沖側)	ナ全 三瓶 町チ 網代	大全 大島 瀬	ホ全 ホ ロ瀬	曾全 地大 島 崎	沖全 ノ 磐	雄全 子大 島 ヶ 浦	右全 左 水	目全 釘 漁 場	ホ全 、ニ ユ ウ	質底
10	6	6	17	17	4 $\frac{1}{2}$	16	7-10	17	3	17 $\frac{1}{2}$	主要魚介藻類ノ分布
60		59	58	57	56	55				52	
いさぎ、其ノ他磯魚類、あわび、さゞね、てんぐさ等	全 右	漁場障害調査並除去	漁場障害物調査 たこ、なまこ、棲息	いさぎ其ノ他磯魚類、さゞね、くろめ、たこ等	ろめ等	いさぎ其ノ他磯魚類多シ、さゞね、くろめ	漁場障害物調査	漁場障害物除去作業	曳網障害物調査ヲナス	めばる、さゞね、くろめ等	

〃	〃	八、一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	七、三一
九、三〇 五八 A-M	八、八、 五〇三 A-M	七、七、 四〇五 A-M	五、五、 三〇一 P-M	四、四、 五〇八 P-M	三、三、 五三七 P-M	三、二、 二五五 P-M	一、一、 三〇五 A-M	一、〇、 〇四五 A-M	一、〇、 三三五 A-M	九、八、 〇三〇 A-M	八、八、 二〇五 A-M
B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	B-C
120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109
85	84	83	82	81	80	79	78	78	77	76	75
小全 高島	西全 高島 ヶ崎	地全 ノ島 東方	ヒ全 ラト コ	地全 ノ島 西北端	泊全 崎	窪全 浦ヨリ 中田鼻	全 右	小全 高島	高全 島	古全 藪網 代	キ全 ユウリ マツ
20 $\frac{1}{2}$	14 $\frac{1}{2}$	2	17	9	12 $\frac{1}{2}$	3	5	13	3	7	18 $\frac{1}{2}$
85	84	83	82	81	80						75
いさぎ、其ノ他磯魚類、さゞね、くろめ等	たい及磯魚類、あわび、さゞね、くろめ等	てんぐさ、あはび、こしたか等	べら、かさこ少量、ぼら介、まて介殻等	磯魚類ニ富ミ、あわび、さゞね、くろめ等	磯魚類稍多シ、くろめ相當ニ繁茂ス	あさり介殻、たこテ見ル しんじゆがい棲息スト云フモ見當ラズ	全 右 あいこ採取	漁場障害物調査並除去	めばる、あこう、其ノ他磯魚多シ あはび、さゞね、くろめ	漁場障害物調査並除去	いさぎ、其ノ他磯魚類並たい、さゞね、くろめ等

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	七、三〇	月 日
四、三、 四〇三 P-M	三、三、 四六七 P-M	三、三、 三二二 P-M	三、三、 一五〇 P-M	三、三、 一〇三 P-M	二、二、 五〇〇 P-M	二、二、 三七一 P-M	一、〇、 二四五 A-M	一、〇、 三〇一 A-M	九、九、 三五五 A-M	八、八、 五五〇 A-M	時 刻
B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	B-C	B	B	B	B	候天 数回水
108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	位置 潜水 場所 名
73	74	74	74	74	73	73	72	71	70	69	度深
前全 網代	全 右	全 右	全 右	ク全 ボ網 代	全 右	前 三島 村下 泊場	ホ全 コゴ 瀬	鯨全 岩	カ全 レイ 崎	濱全 中(落 岩)	質底
7	4 $\frac{1}{2}$ -8	4 $\frac{1}{2}$ -8	5	4 $\frac{1}{2}$	7	7	12 $\frac{1}{2}$	16	11	3	主要魚介藻類ノ分布
							72	71	70	69	
全 右	全 右	漁場障害物調査並除去	全 右 かさこ、つきひがい介殻採集	全 右	全 右	漁場障害物調査並除去	磯魚類さゞね等	磯魚類及いわがき等	たい及磯魚類、たこ、あわび、さゞね、くろめ等	あなりいか、こち、おこのり等	



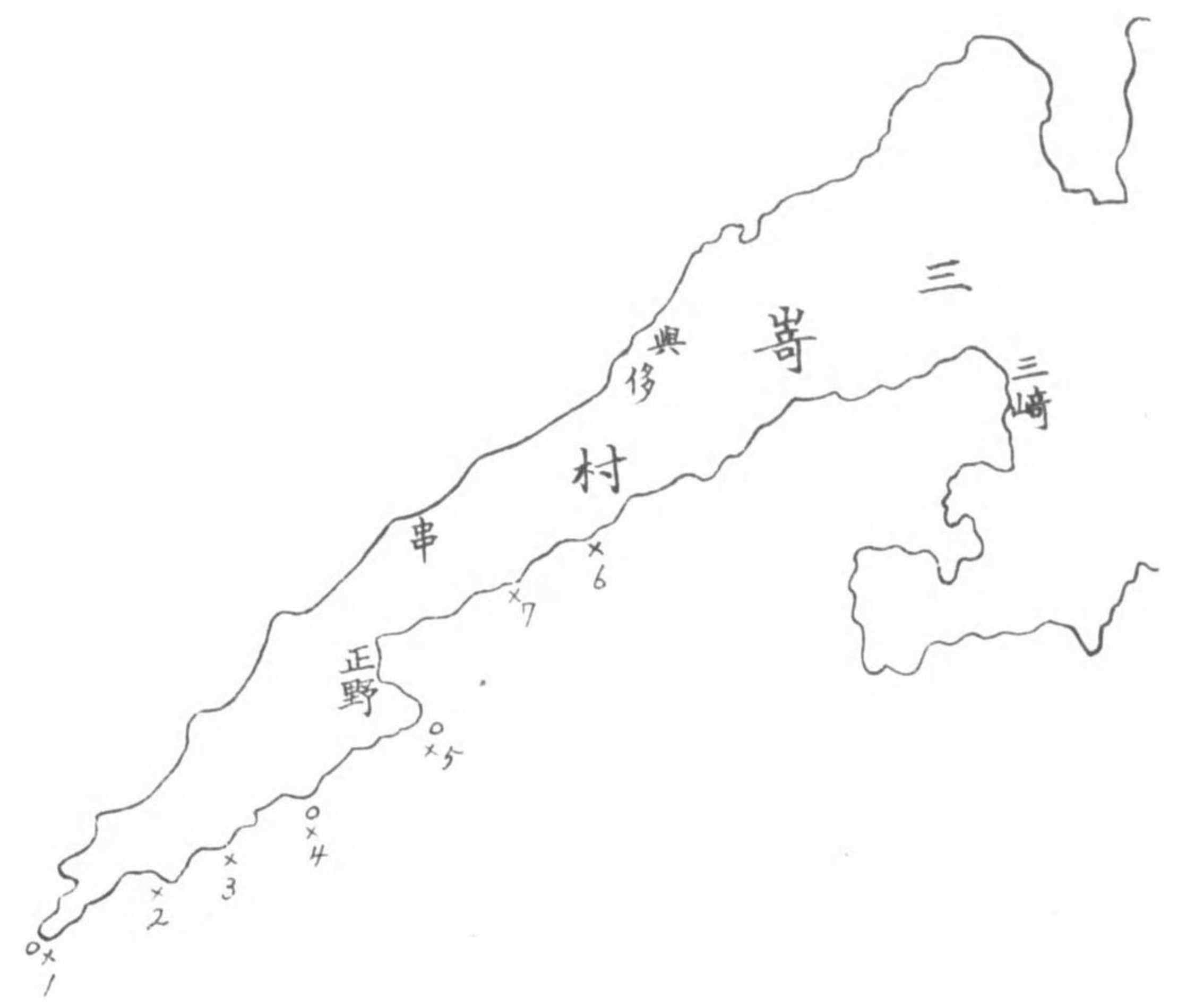
月日	時刻	候天	潜	位置	水	場所	名	度深	質底	主要魚介藻類ノ分布
九、二六	一〇、三五〇〇 A-M	B-C	182	97	三	神松名村	瀬	12	97	磯魚、いせほび、あわび、さゞね、くろめ等
"	一一、〇五〇〇 A-M	B-C	183	98	ハ	四濱村	テ	3 1/2	98	かれひ、あち兒、くろめ等
"	一一、二〇〇五 A-M	B-C	184	99	雀	雀	磔	2 1/2	99	いわがき
"	四、四五〇五 P-M	B-C	185	100	大	大	瀬	7 1/2	100	かれひ、いさぎ、あち、其ノ他磯魚、いせほび、さゞね
"	五、一〇七五 P-M	B	186	101	山	三机村	網代	11	101	漁場障害調査 たこ採取
九、二七	九、九〇〇五 A-M	B	187	102	エ	エ	崎	4 1/2	102	いさぎ兒、其ノ他磯魚、くろめ等
"	九、三二〇五 A-M	B	188	103	ク	全	網代	1	103	漁場障害物調査
"	一〇、三六四五 A-M	B	189	104	牛	牛	磔	8	104	いさぎ、かれひ、其ノ他磯魚、たこ、さゞね、くろめ等
"	一一、一五〇〇 A-M	B	140	105	船	船	瀬	12	105	漁場障害物調査
"	一一、三二〇〇 A-M	B	141	106	和	全	鼻	3	106	さゞね、くろめ等
"	四、四〇〇〇 P-M	B	142	107	ア	町見村	イ	10	107	磯魚類、いせほび、さゞね、くろめ等
"	五、二五〇〇 P-M	B	143	108	雀	雀	磔	4 1/2	108	磯魚、くろめ等

月日	時刻	候天	潜	位置	水	場所	名	度深	質底	主要魚介藻類ノ分布
八、一	一〇、四〇〇〇 A-M	B-C	121	86	ミ	全	ツ	12 1/2	86	磯魚類及あわび、さゞね、くろめ等
八、五	〇〇、二五〇〇 A-M	R-C	122	87	小	川之石町	島	13 1/2	87	磯魚、さゞね、くろめ等
"	一一、〇四〇〇 A-M	C	123	88	カ	全	ツ	20	88	めばる兒、其ノ他磯魚類、さゞね、いわがき、くろめ等
"	一一、三〇〇七 A-M	C	124	89	花	全	山	12 1/2	89	なまこノ稚兒稍多シ
"	三、二二五〇 P-M	C	125	90	矢	全	野	17 1/2	90	磯魚類ヲ始メ、いわし、あほりいか稚兒、なまこ、いせほび、さゞね、くろめ等
"	三、五四〇〇 P-M	C	126	91	中	全	鼻	16	91	べら、かさこ少量
"	四、三〇〇五 P-M	C	127	92	松	全	ヶ	12 1/2	92	かます、あち、いわし等ノ外磯魚類多ク又いせほびノ棲息多シ
"	五、三〇〇〇 P-M	C	128	93	川	川之石町	附近	1	93	しんじゆがい、まがき等
九、二四	二、〇二〇五 P-M	B	129	94	渡	眞穴村	大島	16 1/2	94	築磯漁場調査 いさぎ、其ノ他磯魚集ル
"	三、一三五五 P-M	B	130	95	ク	全	ニ	17	95	離礁調査、あち兒、いさぎ、其ノ他磯魚並たひ、かれひ、いわがき、さゞね
"	四、三〇〇〇 P-M	B	131	96	沖	全	ノ	15	96	いさぎ、其ノ他磯魚類

備考 潜水深度ハ最深度ヲ記入シ六尺ヲ以テ一尋トス

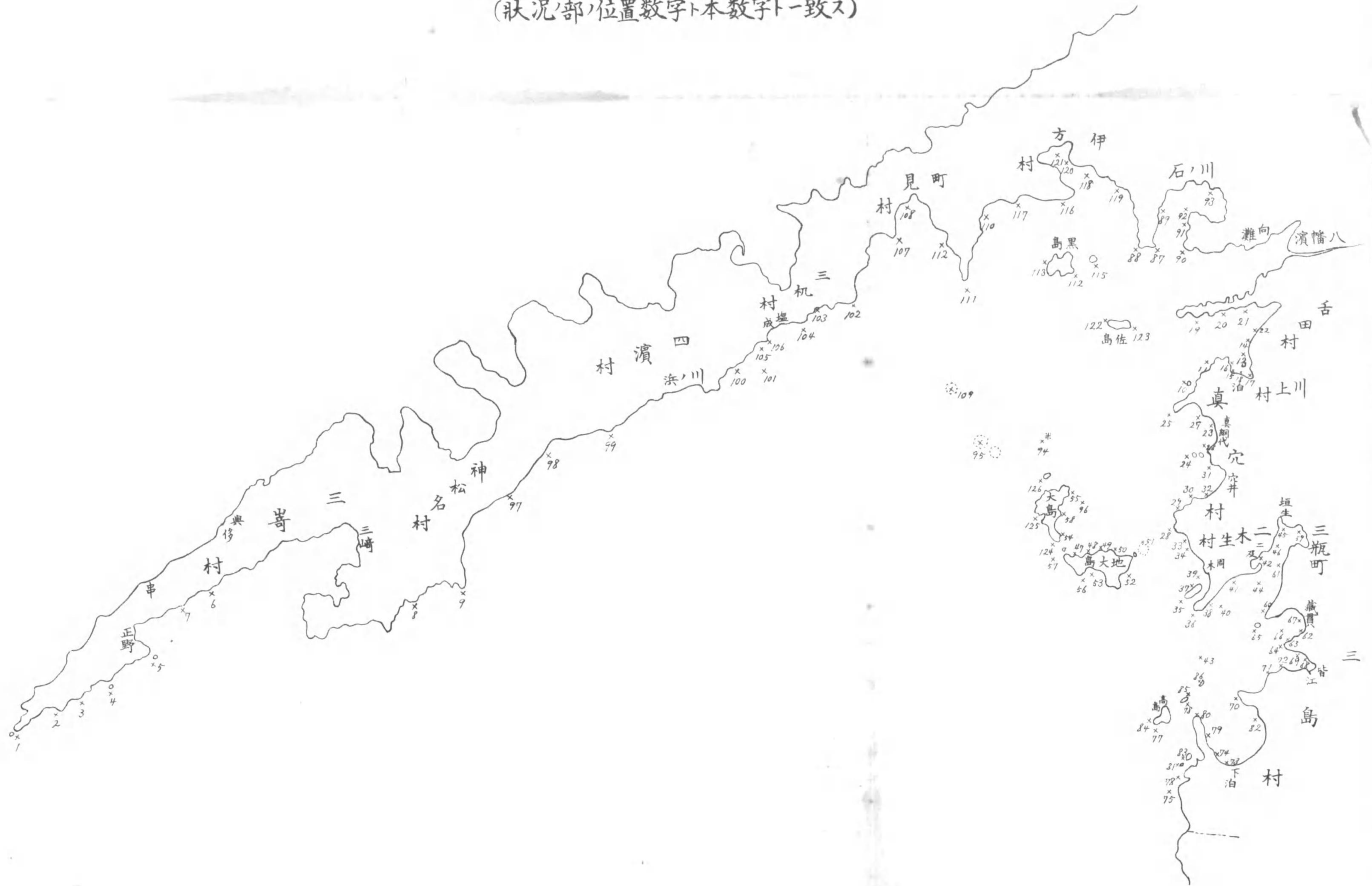
月日	時刻	天候	潜水回数	位置	地名	場所	深度	質底	主要魚介藻類ノ分布
九、二八	九、四〇〇〇 A.M.	C	144	109	横	伊方村豊ヶ浦道	13-17	—	たひ、いさぎ、其ノ他磯魚、いせねび、いせねび多シ
九、二九	八、三五五〇 A.M.	C	151	116	室	全島南端	12 $\frac{1}{2}$	116	あゐご、めじな、さゞね、くろめ等
九、二九	八、三五五〇 A.M.	C	152	117	全	ヒシヤゴ鼻	13 $\frac{1}{2}$	117	いわし及磯魚少量、くろめ等
九、二九	四、一五〇〇 P.M.	B	150	115	東	島南端	14 $\frac{1}{2}$	115	めばる、かさご、にざだひ及くろめ等
九、二九	三、四三〇〇 P.M.	B	149	114	ヒ	全島南端	9	114	たなご、めばる、さゞね、くろめ等
九、二九	三、一三五〇 P.M.	C	148	113	イ	伊方村黒島	13	113	磯魚類相當ニ多ク、さゞね、くろめ等
九、二九	〇〇、二五〇〇 P.M.	B-C	147	112	二	全ツ	6	112	全右
九、二九	一一、五三〇〇 A.M.	B-C	146	111	女	町見村甲岬	21	111	磯魚少々、さゞね、くろめ等
九、二九	一一、一〇〇〇 A.M.	B-C	145	110	横	伊方村豊ヶ浦道	10	110	磯魚、さゞね、くろめ等
九、二九	一一、〇九〇〇 A.M.	C	144	109	横	伊方村豊ヶ浦道	13-17	—	たひ、いさぎ、其ノ他磯魚、いせねび、いせねび多シ
九、二九	一〇、九〇〇〇 A.M.	C	158	122	佐	島西端	17	122	あち、其ノ他磯魚、あわび、さゞね、くろめ等
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	159	123	全	東端	14	123	磯魚少々、さゞね等
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	B-C	157	125	南	大島南端	7	125	いさぎ、かさご、さゞね、くろめ等
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	160	124	南	真穴村大島西端	8 $\frac{1}{2}$	124	あち、いさぎ、其ノ他磯魚、いせねび、さゞね、たなご、くろめ等
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	161	125	大	全島南端	7	125	いさぎ、かさご、さゞね、くろめ等
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	162	126	全	粟ノ小島南端	9 $\frac{1}{2}$	126	いさぎ、其ノ他磯魚、いせねび、さゞね、いがひ、くろめ
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	155	120	全	ヨシガ浦網代	7	120	曳網障害物調査
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	156	121	全	ミコシ瀬	14	—	磯魚類多ク、あち、ぶり兒ヲ見ル、其ノ他いせねび
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	157	118	大	全島田ノ浦瀬	18	—	曳網障害物調査並除去

月日	時刻	天候	潜水回数	位置	地名	場所	深度	質底	主要魚介藻類ノ分布
九、二八	九、四〇〇〇 A.M.	C	144	109	横	伊方村豊ヶ浦道	13-17	—	たひ、いさぎ、其ノ他磯魚、いせねび、いせねび多シ
九、二九	八、三五五〇 A.M.	C	151	116	室	全島南端	12 $\frac{1}{2}$	116	あゐご、めじな、さゞね、くろめ等
九、二九	八、三五五〇 A.M.	C	152	117	全	ヒシヤゴ鼻	13 $\frac{1}{2}$	117	いわし及磯魚少量、くろめ等
九、二九	四、一五〇〇 P.M.	B	150	115	東	島南端	14 $\frac{1}{2}$	115	めばる、かさご、にざだひ及くろめ等
九、二九	三、四三〇〇 P.M.	B	149	114	ヒ	全島南端	9	114	たなご、めばる、さゞね、くろめ等
九、二九	三、一三五〇 P.M.	C	148	113	イ	伊方村黒島	13	113	磯魚類相當ニ多ク、さゞね、くろめ等
九、二九	〇〇、二五〇〇 P.M.	B-C	147	112	二	全ツ	6	112	全右
九、二九	一一、五三〇〇 A.M.	B-C	146	111	女	町見村甲岬	21	111	磯魚少々、さゞね、くろめ等
九、二九	一一、一〇〇〇 A.M.	B-C	145	110	横	伊方村豊ヶ浦道	10	110	磯魚、さゞね、くろめ等
九、二九	一一、〇九〇〇 A.M.	C	144	109	横	伊方村豊ヶ浦道	13-17	—	たひ、いさぎ、其ノ他磯魚、いせねび、いせねび多シ
九、二九	一〇、九〇〇〇 A.M.	C	158	122	佐	島西端	17	122	あち、其ノ他磯魚、あわび、さゞね、くろめ等
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	159	123	全	東端	14	123	磯魚少々、さゞね等
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	B-C	157	125	南	大島南端	7	125	いさぎ、かさご、さゞね、くろめ等
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	160	124	南	真穴村大島西端	8 $\frac{1}{2}$	124	あち、いさぎ、其ノ他磯魚、いせねび、さゞね、たなご、くろめ等
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	161	125	大	全島南端	7	125	いさぎ、かさご、さゞね、くろめ等
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	162	126	全	粟ノ小島南端	9 $\frac{1}{2}$	126	いさぎ、其ノ他磯魚、いせねび、さゞね、いがひ、くろめ
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	155	120	全	ヨシガ浦網代	7	120	曳網障害物調査
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	156	121	全	ミコシ瀬	14	—	磯魚類多ク、あち、ぶり兒ヲ見ル、其ノ他いせねび
九、二九	一〇、〇〇〇〇 A.M.	C	157	118	大	全島田ノ浦瀬	18	—	曳網障害物調査並除去



# 西宇和郡海底調査位置圖

(状況部、位置数字、本数字一致ス)



## 喜多郡海底調査

### 調査ノ目的及範圍

#### 一、緒論

本郡水産會ニ於テハ數年前ヨリ漁獲減少セルまで漁場ノ恢復ヲ計ルベク漁場ニ休養ヲ與ヘ居リタル同漁場ノ結果ニツキ昨年度ニ於テ之ガ調査ヲ施行セルニ本海底ハ肱川ヨリ吐出セラル、水流、豊後水道ヨリ進入スル潮汐等ニ依リ其ノ變化極マリ無ク爲ニまでノ棲息ニ達セザルニ至リ僅カニ變化ナキ部位ニ餘命ヲ保ツモノアルニ過ギザルモノナルガ如ク推斷セラレタル状態ナリシヲ以テ本年度ハ海底ノ變化ノ状態ヲ調査スル事トシ本場山岸技手潜水シ調査ヲ施行セリ

#### 二、經過狀況

調査期間中荒天ニ際會シ調査ヲ中止スルノ外ナキニ至リタル事アリシモ概ネ順調ニ遂行スルヲ得タリ本郡沖合ハ潮流極メテ速ク小潮時ト雖憩流時少ナク調査困難ナルハ昨年度體驗セル所ナリシヲ以テ急潮時ハ沿岸調査ヲ行フ等配意シタルモノナルモ調査時期中ハ曇天勝チニシテ加フルニ霨多カリシヲ以テ昨年度ノ調査位置ハ山見法ニ依リタル結果之ト同一方法ヲ取り得ザリシト且水先人ハ昨年ト同一人ナラザリシノミナラズ、流潮等ニ左右セラル、等諸種ノ障害ヲ受ケ豫期ノ如ク昨年ト同一地點ニ潜水シ調査スルヲ得ザリシヲ遺憾トス、然レドモ漁場ハ概ネ同シクセル關係上昨年ト同一漁場ヲ廣汎即チ數點ニ互リ調査シ得タルモノト云フヲ得ベク斯クテ九月三日歸場セリ

其ノ各部ノ状況左記ノ如シ

長濱町及今坊沖合並沿岸

【八月二十三日】

(イ) はなぎれ一杯もたれ (一尋ハ六尺トス)

水深 十四尋 (自午前十時卅一分 至全 十時五十分)

底面ハ凹凸アリテ凹部ニハくすねがひノ死介多ク推積シ居リテ西進スルニ從ヒ底質粗砂トナリ點在セル石ニハあらめ雜藻等ノ着生スルアリテべら、おこせ、い等棲息シマテノ死介ヲ見ルモ生介アルヲ見ズよのきもたれノ松出し

水深 (自七尋半 自午前十一時十三分 至全十一時三十八分)

底面ハ凹凸甚ダシク一般ニ粗砂ナルガ如ク所々ニ於テ浮泥ノ堆積スルモノアルヲ見ル、凹所ニハくすねがひノ死セルモノ多ク堆積シ其ノ厚サ四五寸ニ及ビ居リテちちノ仔多ク棲息スルアリテマテノ死介スラ發見スルニ至ラズ

(ハ) 中いくろノ九合もたれ

水深 十尋半 (自午後二時十五分 至全 二時五十五分)

底面ハ小石多ク所々ニ分離シテ砂部ヲ有シおこせ、たこ、べら、いそ、たてがひ、びすがひ等ノ分布ヲ見ルモマテノ死介少量ヲ見ルノミニシテ生介ヲ見ズ

(ニ) 全 右

水深 十五尋 (自午後三時十七分 至全 四時二分)

前調査位置ヨリ位置ヲ變シタル個所ニシテ底面岩礁ニシテ最淺部ニ於テ十四尋ヲ示シ基部ハ砂ヲ以テ覆ハレ居リテあらめ、ほんだはら其ノ他雜藻類多ク着生シたかのは、あいなめ、あなご、かわはぎ、ごらふか、にし及いせいび數十尾、大だこ數尾ノ棲息セルヲ見ル等海底ノ狀況ハ前年ト大差ナキガ如ク認めラレ岩礁基部凹所ニマテノ死介堆積セルヲ見ルノミニシテ生介ヲ認めズマテ死介ノ集マレルハ同所ハ一ツノ暗礁ヲ形成セルヲ以テ潮流ニ壓流セラレタルモノ、本所ニ集マレルモノト見ルヲ得ベシ

【八月二十四日】

(ホ) うねなぐろめん由利ノ一杯もたれ

水深 九尋半 (自午前九時五十九分 至全 十時七分)

底面平坦ニシテ砂中ニこぶし大ノ石散在シあらめヲ主トシ雜藻相當着生セリ、べら、かさご、ねこざめ等棲息シマテハ死介ノ散亂セルヲ見ルノミニシテ生介アルヲ見ズシテ底質堅シ

(ヘ) 全 右

水深 九尋半 (自午前十時四十一分 至全 十時五十四分)

底面平坦ニシテ軟カク細砂ニシテ小ナルかれひノ棲息セルヲ見シノミナリ

(ト) 全 右

水深 十尋 (自午前十一時三十七分 至午後零時六分)

底質ハ砂ニシテこぶし大ノ石ヲ混ジあらめ雜藻ノ着生スルアリテたこ、かさご、べら、かわはぎ、たかの

は、おこせ等棲息シ凹所ニハまでノ棲息スルモノアリト雖多カラズ、西進スルニ從ヒ細砂トナリ底面波  
状ヲ呈ス、までノ棲息セル部ニハ砂ニ介殻ヲ混ジ軟カク凹入セル個所ナリ

(チ) じをら

水深 (自一尋 自午後二時三十四分  
至全一尋 至全三時十六分)

岩礁部少ナク三尋ニシテ底質砂トナル、岩礁ハ陸岸ヨリ連坦セルモノ少ク所々ニ轉在スルモノ多クシ  
テほんだはら、あらめ、あをさ、雜藻等混生シべら、かさご、めばる、たなご、やはげ、あいなめ、こぶだひノ  
仔しまだひノ仔、かわはぎ、ぎんぼ小鯛、もいか、なまこ、うに、あはび、さどね、かき等分布セルヲ見ル、而  
シテあちノ洄游シツ、アルヲ認メタリ、海底ハ平坦ニ近ク緩傾斜ナリ

(リ) こぐちだに

水深 (自一尋 自午後三時二十九分  
至全一尋 至全四時三十分)

岩礁部ハ大岩ヨリ成リ二尋半ニシテ盡キ底質砂トナリ緩傾斜ニシテ殆ド平坦ニ近シ、岩礁部ニハあら  
め、ほんだはら、雜藻、天草等ノ分布スルアリテ、天草ハ一尋附近ヨリ着生シ其ノ附着層五尺位ニシテ質  
良好ナリ、而シテほんだはらハ附着殊ニ多キヲ見タリ、べら、かさご、あいなめ、めばる、あはび、さどね、  
かき棲息ス

(又) なかいわぐる

水深 十尋半 自午後四時五十五分  
至全一尋 至全五時十六分

底質砂ニシテ平坦ナルガ如クあかにしノ棲息セルアリ、までノ在否ハ海水混濁シ居リテ認識不能ナリシ

【八月二十五日】

(ル) 波止場沖

水深 六尋半 (自午前十時五十六分  
至全一尋 至全十一時九分)

底質砂ニシテ粗クこぶし大ノ石多キヲ見ル、雜藻少量着生シ、たご、べら、おこせノ棲息スルアリ、ま  
てノ死介ヲ見ルモ生介アルヲ認メズ、底ハ概シテ堅シ

(ヲ) 全右

水深 七尋 (自午前十一時十九分  
至全一尋 至全十一時三十一分)

往時までノ好漁場ニシテ石轉々存在セシトノ事ナルモ現在ニ於テハ石少ナキニ至リタリト雖底質粗砂  
ニ介殻ヲ混ジ軟カニシテ將來海底ノ變化ヲ來サルモノトセバまでノ棲息ニ適切ナル個所ト認メラル、  
わい、こちノ仔ノ棲息セルヲ見タリ

(ワ) たかいそ

水深 (自一尋半 自午後三時三十七分  
至全一尋 至全四時十五分)

連坦セル岩礁部ハ少ナク大岩石所々ニ存在シ、ほんだはら、雜藻、あらめ、天草等着生シ天草ハ其ノ附着  
層一丈ニ及ビ品質良好ナリ、べら、かさご、あいなめ、こぶだひノ仔、しまだひノ仔、たなご、もいか、こち、  
たご、さどね分布シ、尙鮑ノ死介ヲ見ルモ生介ヲ發見スルニ至ラズ、天草ハ尙地域ノ擴張ヲ爲シ得ベシ  
ト雖望ヲ大ニスルヲ得ズ、而シテ鮑ハ其ノ死介ノ生長度ヲ見ルニ良好ナルガ如ク認メラレタリ

(カ) 今坊築磯

水深 十六尋半 (自午後四時四十四分 至全 五時十七分)

昨年調査セシ際ニ於テハ船型ヲ止メ居リシモ現在ニ於テハ其ノ片影ヲ認メズ僅カニ船ノ位置セシト覺シキ個所ノ幾分隆起シ居ルヲ認メ得ルニ過ギズシテ數個ノ石アルヲ見ルモ概ネ海底中ニ没入シ其ノ頂部ノミヲ見ルニ止マリかれひ、たひらきノ棲息セルヲ見タリ、最早ヤ築磯ノ價値ナキニ至リタルガ如ク見受ケラレタリ

(ヨ) 水源地 沖

水深 (自三尋 至七尋 自午後五時四十六分 至全 六時八分)

樹網漁場トシテノ海底状態ヲ究ムル爲潜水セルモノニシテ岩礁部縁邊ヨリ始メタリ、即チ岩礁部境界ニ於テ三尋ヲ示シ全部砂底ナリ、傾斜ハ甚ダ緩ニシテ遠淺ナルモ潮流稍急ナルヲ覺ヘタリ、而シテ魚族洄游ノ有無ニツキテハ多量ナラザルヲ思ハシメタリ

【八月二十六】

(タ) なかいわぐろくちあけ

水深 十尋 (自午前九時二十八分 至全 九時五十二分)

海底ハ礫ヨリ成リ雜藻少量着生シかわはぎノ仔夥シク且たこの棲息セルアリ、さてノ死介二個ヲ見シノミニシテ他ニ何物ヲモ見ズ

(レ) なかいわぐろ九合もたれ沖

水深 二十二尋半 (自午前十時十九分 至全 十時四十三分)

なかいわぐろ九合持れ水沖合二十尋線附近ノ探險ヲ爲シタルモノニシテ底質ハ砂ニシテ平坦ナリ、たひらぎノ棲息セルモノアルヲ見シノミニシテさてノ死介スラ發見スルニ至ラズ、たひらぎノ棲息セル部位ハ底面凹ミ居リテ砂泥堆積シ其ノ周圍高キニ至リタルニハ非ラザルカヲ思ハシメタリ

(リ) まてば

水深 十二尋 (自午前十一時四十六分 至午後 零時二十六分)

底質粗砂ニシテ所々ニ小石ヲ存シさてノ死介少量ヲ見ルノミニシテ生介アルヲ見ズ

(ツ) 大谷沖巾着網漁場障害

水深 六尋半 (自午後四時四十七分 至全 五時十九分)

巾着網ノ漁場障害ニシテ其ノ位置明瞭ナラズ爲ニ潜水調査ヲ行フ事二回ニ及ヒタルモ遂ニ發見スルニ至ラズ

出 海

【八月二十七】

(ネ) ほごろ瀬南部

水深 (自九尋 至十二尋 自午前八時四十三分 至全 九時四十九分)

離礁ニシテ大岩石多ク存在シ、あらめ、ほんだはら、雜藻等繁生シかわはぎ、やはげ、いせねび、めばる、みきまき、あい、べら、かさご、わい、あぶらめ等棲息スルモノ多キヲ見タリ、淺部岩礁間及十二尋附近ハ砂トナリ粗ナリ、岩礁基部ニハ磨滅セルまで死介數個ヲ見タリ、之潮流ノ爲壓流セラレタルモノ、懸滯



セルモノナルベシ、中層ニ於テあぢ兒ヲ見タリ

(ナ) ほゞろ瀬北部

水深 (自一尋 自午後零時十分  
至十九尋 至全 零時四十分)

前回ノ個所ト略々同様ナルガ如ク察セラルルモ岩礁ハ稍々其ノ形小ナルガ如クニシテ着生藻類ハあ  
め少ナクほんだはら多ク海松存在シ雜藻ノ着生度ハ異ナラズ、棲息魚類ハ大同小異ナルモいさぎ、黒魚  
多ク又大型めばるヲ見タリ、十九尋附近ハ一帶ニ砂ニシテ所々ニ小岩石ノ點在スルヲ見ル

(ラ) いきづまり

水深 (自一尋半 自午後三時四十分  
至七尋半 至全 四時三十分)

岩礁部ハ大岩ヨリ形成セラル、モ少ナク七尋半ニシテ盡キ底質砂トナル、かちめ、雜藻、ほんだはら等  
着生スルモ多カラズ、べら、かさご、かわはぎ、やはげ、さゞね等ノ分布ヲ見ルモ少ナク、海底砂部岩礁邊  
縁部ニハ小サキかれひノ潜伏セシ形跡ヲ認メタリ

(ム) みよしよう

水深 (自十尋半 自午後四時四十分  
至十三尋半 至全 五時二十九分)

離礁ノ調査ヲ行フ目的ナリシヲ以テ陸岸ヨリ迹出セル岩礁部ノ境界線附近ヨリ潜水セリ、沿岸部ノ岩  
礁ハ十尋半ニシテ盡キ底質砂ニシテ稍々白色ヲ呈シ大ナルかれひノ潜伏セシ跡多キヲ見傾斜緩ナリ、陸  
岸ノ礁部ニハかちめ、ほんだはら、あらめ、雜藻等アルモ其ノ成長良好ナラズシテ短カク、べら、かさご、  
めばる、さゞね等ノ分布セルヲ見ル、岩礁部ヨリ離ル、事約三間位ニテ一暗礁アリあらめ、雜藻着生シ本

礁ニ引續キ東部ニハ四、五貫乃至十貫位ノ岩石連坦シ其ノ面積約十坪位ヲ有シ雜藻相當着生シ大かれひ、  
いひノ礁上ニ憩ヒ居レルヲ見ルト共ニあここの棲息セルモノ多キヲ見タリ、本礁外海底ハ砂ニシテ大か  
れひノ潜伏セシ跡多量ニシテ且潜伏シ居レルモノ數尾アリテかれひノ好漁場タルガ如シ

【八月二十八日】

(ウ) さか い め

水深 (自四尋 自午前九時十六分  
至六尋半 至全 九時五十三分)

岩礁部ハ少ナキモ傾斜急ニシテほんだはら、あらめ、雜藻等ノ着生スルアリテ天草ハ二尋附近ヨリ存在  
シ附着層ニ尋ニ達シ品質普通ナルガ如ク相當着生面積ヲ増大スヘキ可能性アリ、岩礁部ハ六尋半ニシテ  
盡キあいなめ、くろうを、かさご、あここの、こぶだひ、やはげ、めばる等棲息シさゞね、あはびハ分布アルモ  
少ナキガ如ク認メラレタリ

(井) 大 野 鼻

水深 (自一尋 自午前十時九分  
至七尋半 至全 十一時二分)

岩礁部少ナク大岩ヨリ成リほんだはら、雜藻ヲ主トシあらめ少量ヲ混生ス、やはげ、べら、かさご、めば  
る、さゞね、あいなめ、かわはぎ等分布シ七尋半ニシテ底質砂トナル、小サキかれひノ棲息スルモノ多キ  
ヲ見タリ、本個所ハかれひノ兒ノ發育ニ適セルモノ、如ク察セラレ「みよしよう」ノかれひノ大イサト全  
ク相反スルヲ見ル

(ノ) さゞの瀬漁場障害

水深 (自五尋 自午後一時二十四分  
至九尋半 至全二時五十分)

當初八尋半ヨリ潜水調査ヲ行ヒタルモ底質砂ニシテ障害物ヲシキモノヲ見ルニ至ラズ、更ニ七尋半ヨリ調査シタルニ一岩礁ニ遭遇セリ、本岩礁ハ陸岸ヨリ連續突出セルモノニシテ孤立セルモノニ非ズシテ除去容易ナルモノニ非ラザルモノト認めラレタリ

其ノ附近岩礁ニハ短カキほんだはら雜藻ノ着生スルアリテべら、かさご、さざね等ノ分布セルヲ見タリ而シテ漁場ノ障害ト目サル、ハ陸岸ヨリ突出セル岩礁縁邊ナルガ如ク察セラレタルヲ以テ縁邊ヲ歩行シ其ノ突出ノ度ヲ知ラシメ漁業操業上ノ参考ニ資シタリ

【八月二十九日】

潜水者病氣ナリシト荒天ノ爲作業困難ナリシ結果調査ヲ休メリ

【八月三十日】

大暴風ニシテ作業不能ナリシヲ以テ調査ヲ中止セリ

青 島

【八月三十一日】

(オ) 青島後ろ(辨天島側)漁場害障

水深 十二尋半 (自午前十時三十一分  
至全十一時二十三分)

潮流急ニシテ豫定ノ位置ニ沈降スルヲ得ザリシ結果第一回ニ於テハ障害物ヲ發見スルニ至ラズ、第二回目ニ陸岸岩礁部ヨリ轉出セシモノト認めラル、約七十貫位ノ石ヲ發見シ之ヲ除去シタリ、附近岩礁部

ニハ雜藻着生シやはげ、べら、かさご等ノ棲息シ居レルヲ見タリ、附近ノ底質ハ砂ナリ

(ク) 青 島 前

水深 (自一尋 自午後零時九分  
至五尋 至全零時四十五分)

岩礁部ハ大岩ヨリ成リ傾斜緩ニシテほんだはら、雜藻ヲ主トシあらめ少量ヲ混シ多量ナリ、べら、やはげ、めばる、かさご、むつ、たこ、さざね、あはびノ分布ヲ見ルモ多量ナラズ、五尋ニシテ底質砂トナリあぢ藻ノ生成スルヲ見タリ

(ヤ) 大谷網代漁場害障

水深 五 尋 (自午後三時二十一分  
至全四時零一分)

砂中ニ大部ヲ埋没セラレタル約八十貫ノ石一個ヲ除去セリ、同岩石ノ埋没セラレタル底面ニハふじつばノ死滅セルモノ附着シ居ルヲ認めタリ、之レ波浪等ノ爲陸岸部ノモノ轉出セシモノナル事ヲ推セリ

長 濱 町

【九月一日】

(マ) 棧 橋 沖

水深 三 尋 (自午前八時零分  
至全八時三十分)

長濱港務所ヨリ同地棧橋ノ錨引ケタルモノカ棧橋ハ陸岸ニ寄セラレ其ノ固定ヲ缺クヲ以テ之ガ原因調査ヲ依頼セラレタルニ依リ之ガ調査ヲ行ヒタリ

調査ノ結果棧橋端固定用錨三個中之ガ中央部ニ於ケル石錨ハ埋没セラレタル砂中ヨリ轉出シ居リテ他

ノモノニハ異状ナキヲ認メタリ、之レ要スルニ各錨綱ノ緊張ノ度平均ヲ缺ギタル結果全重量ヲ中央部錨ノミニ荷セシ結果ナルベク認メラレタリ  
因ミニ棧橋ノ移動スルニ至リタルハ其ノ汽船ノ棧橋ニ繫留スル際棧橋ニ衝突シタル以後之ガ移動ヲ認メタリト

(ケ) 大谷沖漁場障害

水深 六尋 (自午前九時五分至全九時二十分)

巾着網漁場障害ト略々同一ト思ハル、個所ニ於テ蝦漕網障害物ニ懸リ之ヲ切斷セリトノ事ニテ之ガ調査ヲ申出デタルモノアリシヲ以テ之ガ調査ヲ二回ニ互リ調査セシモ潮流急ニシテ調査容易ナラズ、遂ニ發見スルニ至ラザリシ

櫛生

(フ) 櫛生前漁場障害

水深 九尋半 (自午後一時三十七分至全一時五十九分)

蝦漕網ノ漁場障害ニシテ潜水調査二回ニ及ビタルニ發見スルニ至ラズ、而シテ本地区ハ潮流急ニシテ調査作業困難ナリシ

(コ) 築磯

水深 二十四尋 (自午後三時七十分至全三時三十四分)

本築磯ハ大正十二年築設セラレタルモノニシテ既ニ數年ニ及ビ船型ヲ止メズ敷ノミ殘存セルヲ見ル、

而シテ敷ハ殘存セル石ニ依リ固定セラレ其ノ形狀ヨリ察スルニ軸ヲ東トシ居ルモノ、如ク認メラレタリ  
石ニハ海綿類着キ居リテたこ、めばる、みきまき等棲息シ尙附近砂中ニかれひノ潜伏セルアリテ底質砂ニ泥ヲ混ジ居レリ

(エ) ほゞろ瀬 (中間部)

水深 九尋半 (自午後四時十三分至全四時五十五分)

前二回ノ調査地ノ中間ト覺シキ所ヲ調査セルモノニシテ大岩ヨリ成リ着生藻類同様ナルヲ見ル、魚類ハめばる、しまたひ、かわはぎ、やはげ、たひ、こぶたひ、いせび、ねこぎめ、わい、かさご、べら、みきまき等棲息シ中層ニ於テいわし、あぢ兒ノ群游セルヲ見タリ、而シテさゞね一個竝あわびノ死介ヲ見ルモ其ノ量多カラザルガ如ク認メラレタリ

三、結 論

イ、まて 漁場

經過ノ部ニ於テ記述セル如ク其ノ調査位置ハ昨年ト同一點ナラザル部多クシテ僅カニなかいわぐろ九合もたれ及肱川口ノ二個所ノ一致ヲ見ルノミニシテ其ノ變化状態ヲ見ルニ、肱川ノ水流ノ影響ヲ受クルコト少ナキト認メラル、なかいわぐろ九合持れニ於テハ生物竝底質状態ノ變化ナキガ如ク認メ得タルモ、肱川口ハ左表ノ如ク兩調査間、日時ニ於テ三日、時間ニ於テ一時間ノ相違アルニ過ギザルヲ以テ若シ海底ニ變化ナキモノト假定セバ兩調査時ニ於ケル水深ハ之ヲ過大ニ見積ルモノ一尋内外ノ差異ニ過ギザルベシ、然ルニ前年ニ比シ四尋ノ深度ヲ増加セルハ海底ノ變化ニ依リ生ジタルモノト認メザルヲ得ズ

肱川口調査表

調査年月日	民歴月日	調査時刻	調査時水深
昭和二年六月八日	五月九日	午前十時四十分	八尋
同三年八月二十六日	七月十二日	同 十二時四十五分	一二尋

又同海底ニ於テ昨年著シク認めラレタルくすねがひハ全ク死滅シ其ノ介殻ハ所々ノ凹部ニ堆積シ居レリ、蓋シ是等ノ現象ハ肱川ヨリ排出セラル、河水ノ變化ニ基因スルモノト思推セラル

ロ、築磯

築磯ニツキテハ今坊、櫛生ノ二個所ニ於テ調査シタルモノニシテ状況ノ部ニ於テ述べタルガ如ク現時ニアリテハ魚族ノ潜息シ得ベキ個所ナキニ至レルヲ以テ最早ヤ効果ナキモノ、如ク認めラレタリ  
櫛生ニ於テ沈設セラレタルモノニツキテ見ルニ大正十二年ニ築設セルモノハ數ノミ殘存スルニ過ギザル状態ナルヲ以テ魚族ノ潜息スベキ個所ノ存続期間ハ沈設用船舶ノ強弱又ハ潮流ノ緩急等ニモ左右セラレベキモノ、概ネ廢船ニ近キモノヲ使用スルヲ以テ經濟上ヨリ有利ト目サル、ガ故ニ、強固ナルモノヲ使用セザル限リ其ノ有効期間ハ四ケ年乃至五ケ年内外ナルモノト認ムルヲ得ベシ、然シテ沈設位置積載材料ニツキテハ尙考究ノ餘地アルヲ思ハシメタリ、即チ一般魚族ハ餌料多キ沿岸部ニ沿ヒ洄游スルノ習性ヲ有スルモノナルヲ以テ可成其ノ通路ニ沈設シ此處ニ魚足ヲ止メ滯留期ヲ長カラシムルカ或ハ定着性魚族ノ潜息場タラシムル目的ノ下ニ築磯スルヲ以テ有利トス、此ノ主旨ヨリシテ沿岸ヲ遠カラザルヲ適

ト當スルガ如ク推セラル、モ櫛生ニ於ケルモノ、如キハ其ノ沿岸ニ於テ最モ遠ク且魚族ノ滯留多キモノト相像セラルルはゞる瀬ヨリ更ニ沖合ニ位置セルモノアリテ却ツテはゞる瀬ト陸岸トノ中間部ニ沈設シ沿岸部及沖合部ノはゞる瀬ヲ通過スルニ途ノ魚族ヲ誘致スルガ如ク爲スヲ適當トスルガ如ク推考セラレタリ

而シテ積載材料ニツキ考察スルニ米糠及醬油粕等ノ如キモノハ直接魚族ノ餌料トナルモノニ非ラザルガ如ク(從來調査ノ結果没設セラレタル俵中ヨリ餌料ヲ掘出シ食シタルガ如キ形跡ナク且其ノ内容物ハ全ク腐敗土化シ居レルニ徴シ直接餌料ナラズト認ム)唯間接ニ生物ノ發生ヲ誘引シ之ニ依リテ魚族ノ來游ヲ來スモノト認めラル、又海松ノ如キ枝葉繁茂セルモノ、陰影ニハめばる等ノ群游セルハ屢々實見スル處ナルノミナラズ築磯ニツキテモ樹木ノ枝葉多キ陰ニハ必ず魚族ノ游泳セルヲ見ルガ故ニ枝葉多キ樹木ヲ船縁ニ出シ或ハ帆柱ヲ立テタルガ如ク樹木ヲ植ユル等ノ方法ニテ陰ヲ成ル可ク多カラシムルヲ適當ト推考セラル、然レドモ潮流ノ抵抗多キニ至リ沈設位置ニ移動ヲ生ジ或ハ業態ノ如何ニヨリテハ實行シ難キモノアルベキヲ以テ豫メ留意スル事肝要ナリトス

ハ、沿岸状況

本郡沿岸ハ一般岩礁部少ナクシテ淺ク、底質砂ノ部多ク西宇和郡界ヨリ奥部ニ入ルニ從ヒ岩礁部減少スルニ至ル、而シテ海藻トシテハほんだはら、あらめ、雜藻、あをさ、天草等ニシテ魚族ハかれひ、べら、かさこ、やはげ、めばる、あいなめ、かわはぎ、くろうを、あこう、こぶだひ等其ノ他さゞわ、たこ、かき等相當分布セルヲ見タリ

天草ハ今坊附近沿岸一帯ニ分布シ其ノ附着層ハ二尋内外ニシテ質良好、尙礎掃除等ニ依リ擴張ノ餘地アリト雖望ヲ大ニスルヲ得ズ

みよしよう及大野鼻附近ハかれひノ棲息スルモノ甚ダ多キヲ見タルモ大野鼻ニ於ケルモノハ小ニシテみよしようニ於ケルモノハ大型ニシテ甚ダ奇異ノ感アリ、蓋シ各其ノ好適ナル場所ヲ得タルモノナラムカ

二、漁場 障害

漁場障害ハ五ヶ所ノ調査ヲ行ヒ二ヶ所ハ完全ニ除去シ漁場價值ヲ増大シ得タリト信ズ、其ノ他ノ障害ニ就キテハ潮流時ニ於テ網ヲ以テ引キ掛ケ位置ヲ明カニスルヲ得バ其ノ障害ノ程度等ヲ調査シ得ルモノト信ズルモ本年ハ之ガ準備ナカリシ爲不明ニ終レリ

ホ、またて漁場底質

別表ノ如シ

底質表

位置	底質	礫	大砂	中砂	小砂	細砂	泥	摘要
ト	介砂質	33	45	8	10	4	0	介殼 C
ホ	介砂質	15	20	9	32	27	0	介殼 C
ハ	泥砂質	2	6	10	20	27	35	r
ロ	砂質	15	8	5	42	28	2	+
イ	介砂質	20%	28%	10%	10%	25%	7%	C

チ	リ	×	ナ	ソ	カ	レ	ソ
砂質	介砂質	介砂質	大砂質	細砂質	介砂質	介砂質	介砂質
0	0	20	18	3	0	7	25
4	40	23	11	77	1	41	40
45	45	12	7	17	10	25	13
45	11	31	40	2	7	18	10
5	2	13	22	1	71	7	10
1	2	1	2	0	11	2	2
介殼	介殼	介殼	介殼	介殼	介殼	介殼	介殼
+	r	c.c	C	r	r	c	c.c

備考 礫ハ徑三耗以上、大砂三耗以下一耗迄、中砂一耗以下〇、五耗迄、小砂〇、五耗以下〇、二耗迄、細砂〇、二耗以下〇、〇五耗迄泥ハ〇、〇五耗以下ノモノヲ示ス

摘要 介殼片ノ多数(半数以上)混在スルヲc.cトシ稍多キヲC、混在ノ明カニ認め得ル程度ヲ+、少数ノ混在ヲrトセリ

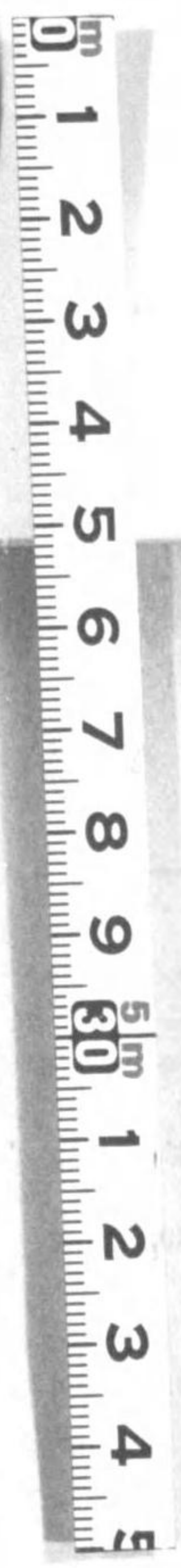
○ 前年位置

# 喜多郡海底調査位置圖

(状況記号と本記号一致ス)



○ 前年位置  
△ 本年位置



## 漁況通信並海洋觀測

### 一、趣旨及方法

主トシテ漁況ヲ左右スベキ海況ヲ調査スルト共ニ各地ニ於ケル漁況ヲ知り以テ海況ト漁況トノ關係ヲ考究シ之ガ結果ヲ各地漁村ニ通報シ當業者出漁ノ指針タラシメトスルニアリテ定期豊後水道横斷觀測ヲ施行スル外試驗船航海中ハ常ニ海洋觀測ヲ行ヒ更ニ縣下重要漁村各地ニ委託シ海況及漁況ヲ報告セシム

### 二、結果

本場試驗船伊豫丸航海中常ニ觀測ヲ行ヒ且定期豊後水道横斷觀測ヲ行フコト二回ニシテ縣下各地ニ委託セルモノハ左記ノ通り報告ヲ受ケ資料ヲ得タリ

#### 一、定置觀測 佐多岬燈臺

一、全 日振島村役場

一、鯉釣漁業 南宇和郡東外海村 日吉丸

一、鯉漁況 南宇和郡東外海村漁業組合

一、全 西外海村漁業組合

一、鯛漁況 今治市漁業組合

一、全 新居郡大島村大島漁業組合

一、全 宇摩郡川之江町漁業組合



昭和三年 佐田岬定置海洋観測表 (毎日午後零時観測)

観測事項	氣		水		比		重
	前年	本年	前年	本年	前年	本年	
七月上旬	二五、八	二五、一	二二、七	二二、七	二五、四六	二四、九六	(-)
平均	三三、一	三二、四	一九、八	二〇、〇	二五、一九	二五、一四	(-)
下旬	三三、九	三二、九	二二、二	二〇、九	二五、二九	二四、九五	(-)
中旬	三三、八	三二、三	二〇、五	二〇、一	二五、〇六	二五、二五	(+)
六月上旬	三〇、七	二二、一	一七、九	一九、〇	二五、三三	二五、二〇	(-)
平均	二七、三	一九、五	一六、九	一八、〇	二五、一九	二五、三九	(+)
下旬	一八、九	二二、四	一七、五	一八、七	二五、一四	二五、四九	(+)
中旬	一五、九	一九、一	一七、〇	一八、一	二五、二二	二五、四〇	(+)
五月上旬	一六、八	一七、九	一六、三	一七、〇	二五、一三	二五、二七	(+)
平均	三三、二	二四、九	一四、二	一五、五	二五、二二	二五、五一	(+)
下旬	一五、五	一六、二	一五、六	一六、二	二五、四七	二五、六一	(+)
中旬	二二、七	一六、二	一三、六	一六、四	二四、九六	二五、五二	(+)
四月上旬	二一、五	二二、二	一三、四	一三、九	二五、二〇	二五、三八	(+)
平均	三三、二	二四、九	一四、二	一五、五	二五、二二	二五、五一	(+)
下旬	一五、五	一六、二	一五、六	一六、二	二五、四七	二五、六一	(+)
中旬	二二、七	一六、二	一三、六	一六、四	二四、九六	二五、五二	(+)
三月上旬	二一、五	二二、二	一三、四	一三、九	二五、二〇	二五、三八	(+)
平均	二一、五	二二、二	一三、四	一三、九	二五、二〇	二五、三八	(+)
下旬	一五、五	一六、二	一五、六	一六、二	二五、四七	二五、六一	(+)
中旬	二二、七	一六、二	一三、六	一六、四	二四、九六	二五、五二	(+)
二月上旬	二一、五	二二、二	一三、四	一三、九	二五、二〇	二五、三八	(+)
平均	二一、五	二二、二	一三、四	一三、九	二五、二〇	二五、三八	(+)
下旬	一五、五	一六、二	一五、六	一六、二	二五、四七	二五、六一	(+)
中旬	二二、七	一六、二	一三、六	一六、四	二四、九六	二五、五二	(+)
一月上旬	二一、五	二二、二	一三、四	一三、九	二五、二〇	二五、三八	(+)
平均	二一、五	二二、二	一三、四	一三、九	二五、二〇	二五、三八	(+)
下旬	一五、五	一六、二	一五、六	一六、二	二五、四七	二五、六一	(+)
中旬	二二、七	一六、二	一三、六	一六、四	二四、九六	二五、五二	(+)
十二月上旬	二一、五	二二、二	一三、四	一三、九	二五、二〇	二五、三八	(+)
平均	二一、五	二二、二	一三、四	一三、九	二五、二〇	二五、三八	(+)
下旬	一五、五	一六、二	一五、六	一六、二	二五、四七	二五、六一	(+)
中旬	二二、七	一六、二	一三、六	一六、四	二四、九六	二五、五二	(+)
十一月上旬	二一、五	二二、二	一三、四	一三、九	二五、二〇	二五、三八	(+)
平均	二一、五	二二、二	一三、四	一三、九	二五、二〇	二五、三八	(+)
下旬	一五、五	一六、二	一五、六	一六、二	二五、四七	二五、六一	(+)
中旬	二二、七	一六、二	一三、六	一六、四	二四、九六	二五、五二	(+)

観測事項	氣		水		比		重
	前年	本年	前年	本年	前年	本年	
七月上旬	二七、一	二六、二	二二、八	二二、八	二五、〇〇	二四、九〇	(-)
平均	二七、八	二七、一	二四、〇	二四、〇	二五、〇一	二四、九三	(-)
下旬	二七、五	二六、六	二四、八	二四、五	二五、〇四	二四、九二	(-)
中旬	二六、六	二五、六	二四、五	二四、三	二四、九八	二四、七五	(-)
八月上旬	二六、七	二六、一	二四、〇	二四、〇	二四、九〇	二四、七五	(-)
平均	二六、九	二六、一	二四、一	二四、五	二四、九一	二四、八四	(-)
下旬	二七、五	二六、六	二四、八	二四、二	二四、八四	二四、五五	(-)
中旬	二六、六	二五、六	二四、五	二四、三	二四、九八	二四、七五	(-)
九月上旬	二四、四	二六、二	二四、一	二五、一	二四、九〇	二四、七三	(-)
平均	二四、四	二六、二	二四、一	二五、一	二四、九〇	二四、七三	(-)
下旬	二二、七	二四、二	二四、三	二五、一	二四、八三	二四、七三	(-)
中旬	二四、四	二七、一	二四、〇	二五、一	二四、七六	二四、八三	(+)
十月上旬	二三、〇	二二、三	二二、七	二二、一	二四、七四	二四、三三	(+)
平均	二三、〇	二二、三	二二、七	二二、一	二四、七四	二四、三三	(+)
下旬	一九、三	一九、九	二二、八	二二、三	二四、八四	二四、七四	(-)
中旬	一九、三	一九、九	二二、八	二二、三	二四、八四	二四、七四	(-)
十一月上旬	二二、〇	二二、三	二二、七	二二、一	二四、七四	二四、三三	(+)
平均	二二、〇	二二、三	二二、七	二二、一	二四、七四	二四、三三	(+)
下旬	一九、五	一九、九	二二、八	二二、三	二四、八四	二四、七四	(-)
中旬	一九、五	一九、九	二二、八	二二、三	二四、八四	二四、七四	(-)
十二月上旬	二一、六	二一、六	二二、七	二二、一	二四、七四	二四、三三	(+)
平均	二一、六	二一、六	二二、七	二二、一	二四、七四	二四、三三	(+)
下旬	一九、五	一九、九	二二、八	二二、三	二四、八四	二四、七四	(-)
中旬	一九、五	一九、九	二二、八	二二、三	二四、八四	二四、七四	(-)

観測事項	月旬別			昭和四年 一月月上旬	平			平	二月月上旬			平	平			平	比
	前年	本年	比較増減		均	下旬	中旬		均	均	下旬		中旬	均	均		
氣	前年	本年	比較増減	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	重	
	15.7	15.7	0.0	6.6	8.2	8.0	7.7	6.8	5.5	5.9	5.5	6.8	10.5	11.5	13.4		
水	前年	本年	比較増減	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	比	
	19.4	19.3	+0.1	17.2	16.3	17.1	14.3	14.6	13.0	13.3	12.0	14.6	16.3	17.1	18.1		
比	前年	本年	比較増減	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	重	
	247.8	246.4	+1.4	249.1	248.7	248.9	251.0	251.0	251.1	251.5	251.6	249.6	249.6	248.7	248.1		
重	前年	本年	比較増減	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	比	
	247.8	246.4	+1.4	249.1	248.7	248.9	251.0	251.0	251.1	251.5	251.6	249.6	249.6	248.7	248.1		

観測事項	月旬別			昭和四年 一月月上旬	平			平	二月月上旬			平	平			平	比
	前年	本年	比較増減		均	下旬	中旬		均	均	下旬		中旬	均	均		
氣	前年	本年	比較増減	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	重	
	9.3	7.8	+1.5	9.9	11.7	11.4	11.8	11.4	11.1	11.4	11.8	11.4	11.6	11.7	11.6		
水	前年	本年	比較増減	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	比	
	13.4	12.8	+0.6	13.4	13.1	13.1	12.8	13.4	13.7	13.1	12.8	13.4	13.7	13.1	12.8		
比	前年	本年	比較増減	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	重	
	254.6	251.2	+3.4	254.7	254.3	255.2	255.2	254.7	254.3	255.2	255.2	254.7	254.3	255.2	255.2		
重	前年	本年	比較増減	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	均	下旬	中旬	均	比	
	254.6	251.2	+3.4	254.7	254.3	255.2	255.2	254.7	254.3	255.2	255.2	254.7	254.3	255.2	255.2		

各月別最高最低表 (佐田岬ニ於ケル毎日一回観測)

種別	月別	氣		水		比	
		前年	本年	前年	本年	前年	本年
六月	最低	16.9	16.2	17.0	18.2	235.8	244.8
	最高	26.9	24.6	23.7	22.8	262.9	256.7
五月	最低	13.1	15.7	15.8	16.0	233.1	248.0
	最高	23.1	24.0	18.6	20.8	256.2	261.9
四月	最低	7.7	10.0	11.0	13.0	240.9	250.6
	最高	19.0	22.0	18.3	18.0	259.3	253.3
比較増減	前年	本年	前年	本年	前年	本年	
	7.0	2.3	1.0	0.3	233.1	256.2	
比較増減	前年	本年	前年	本年	前年	本年	
	7.0	2.3	1.0	0.3	233.1	256.2	

種別	氣温		水温		比重	
	最低	最高	最低	最高	最低	最高
前年	二月	八月	二月	八月	五月	七月
	中旬	下旬	中旬	下旬	上旬	上旬
本年	二月	七月	二月	八月	八月	五月
	上旬	中旬	上旬	下旬	中旬	下旬

一ヶ年中最高低表 (佐田岬ニ於ケル一日一回観測)

種別	前年	本年	比較増減
氣温	最低 二、三 最高 一三、七	最低 一、五 最高 一四、五	(-) (+)
水温	最低 一〇、八 最高 一四、四	最低 一、四 最高 一五、八	(+) (+)
比重	最低 一、〇、八 最高 一、〇、一	最低 一、〇、三 最高 一、〇、五	(+) (+)

種別	昭和四年		三月		七月		十月		九月		八月		七月	
	一月	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高
氣温	一四、〇	二二、二	一五、二	二二、二	二二、四	二〇、二	一五、二	二二、二	一九、九	二八、〇	二二、五	三二、四	二二、七	二〇、〇
	二、七	一、九	一、四	一、九	〇、七	〇、八	一、四	一、九	〇、一	二、五	〇	一、五	〇、七	一、一
水温	一六、五	二二、二	一七、五	二二、二	一七、五	二二、二	二二、〇	二二、七	二二、八	二五、〇	三三、五	二五、五	二二、五	二五、〇
	一、九	一、〇	〇、五	一、〇	〇、五	一、〇	〇、二	〇、二	一、〇	一、三	〇、五	一、三	〇、三	一、一
比重	二五、三	二五、五	二四、九	二六、二	二四、九	二六、二	二四、三	二五、五	二四、三	二五、八	二四、八	二五、四	二四、八	二六、七
	二五、七	二五、〇	二四、五	二五、四	二四、五	二五、四	二四、四	二五、六	二三、八	二五、二	二三、三	二五、六	二五、五	二五、〇
比較増減	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	(-)

## 乾燥機試験

一四

### 一、趣 旨

本場式煮乾鯧乾燥機ノ民間指導ヲ主トシ傍ラ廣ク各種水産物ノ乾燥ニ對スル應用法ヲ考究セムコトヲ期ス

### 二、經 過

既設南宇和郡内海村家申信用組合乾燥機取扱上ノ指導ヲナセル外新タニ同郡東外海村及越智郡波方村小部各漁業組合ノ願出ニヨリ本乾燥装置建設方設計ヲナシ昭和四年度ニ於テ建設指導ヲ實施スルコト、ナレリ

### 三、試験方法

煮乾鯧ニ對スル乾燥成績ノ良好ナルハ屢報ノ如クニシテ本年度ハ煮乾ニ對スル試験ハ之ヲ行ハズ、別項雜魚利用試験ニ關聯シサヨリ味淋乾及魚粉ニ對スル乾燥ヲ試ミタリ

#### (イ) さより味淋乾

原 料 二百八十貫匁

期間及回数 十二月十二日ヨリ三月十七日ニ至ル間十一回ニシテ全然日乾ノモノ、天氣ノ都合ニ

ヨリ日乾中途ヨリ乾燥機ニ收容セルモノ、全然乾燥機ニヨリ仕上ゲタルモノトアリ

調味液 左ノ二種ニシテ主ニ(A)ヲ採用セリ

(A) 一夜漬込	醬油	一 升
	水	六 合
	砂糖	百六十匁
	味淋	一 合

(B) 三十分漬込 上表中ノ水六合ヲ加ヘザルモノ

調理後漬込ヲ終リタルモノハ液ヲ滴下シ霞竇上ニ擴ゲテ乾燥ス

乾燥機ニヨル乾燥室内溫度ハ前年ノ成績ニ基キ攝氏四十度以内トシ主ニ風力ニヨリ乾燥ヲ速進セシメタルニ日乾品ニ勝ル製品ヲ出シ縣内各地ニ於テ試賣シ一貫匁五圓内外ヲ以テ好評ノ下ニ賣レ行キタリ

乾燥時間 四時乃至五時間(魚筋ノ大小又ハ收容量ノ多少ニヨリ差異アリ、一室一回三十貫ノ原料ヲ收容シタル場合)

乾燥費 製品一貫當約二十錢(前記ノ場合石炭三千斤(六十錢)動力用石油三升(九十六錢)計

一圓五十六錢ヲ製品七貫五百匁ニ割當)

#### (ロ) 魚粉乾燥

原 料 (カ)マス 一貫匁  
(エ)ソ 九貫五百匁

單ニ本場乾燥機ニヨリ魚粉類乾燥ノ可否ヲ實驗シタルニ止マリ前記原料ノ精肉ノミヲ蒸シテ碎キタルモノヲ乾燥室内ニ收容(霞竇上ニ硫酸紙ヲ敷キ其ノ上ニ擴ゲタリ)シ室内溫度ヲ五十度以内トシ乾燥ヲ試

一五

ミタルニ魚粉ノ色澤良好ニシテ餛飩ノ上置等ニ適當ナリ、但シ永キ貯藏ニ堪ヘシムルニハ罐入其ノ他適當ノ方法ヲ講ズル要アリ  
之ヲ要スルニ本場式乾燥機ハ

○煮乾餛飩ニ對シテハ本裝置ノ高温熱氣吹込法ニヨリ日乾品ニ勝ル製品ヲ出シ經濟乾燥ノ目的ヲ達スルコトヲ得

○味淋乾等ニハ前記ノ高温ヲ採用スルコトナク攝氏四十度以内ノ低温ニ止メ風力乾燥ヲ主トシテ容易ニ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ベシ

以上ノ如クニシテ其ノ他各種被乾燥物ノ種類ニヨリ乾燥温度、風力ニ夫々斟酌ヲ要シ之ガ學理的研究ノタメ本年度末農林省ヨリ自記温度計ノ設備費ヲ補助セラレタルヲ以テ他ニ自記湿度計、風力計ヲ本場ニテ設備シ昭和四年度ヨリ之ガ研究ニ從事セムトス

### 雜魚利用試驗

#### 一、趣 旨

南豫地方ニ於ケル打瀬網漁獲物及其ノ他各種雜魚利用厚生ヲ計ルヲ目的トス

#### 二、方法經過

##### (イ) 鰻 利 用

宇和海方面ニ於テハ本年夏鰻ノ豐漁アリシモ魚筋大ニシテ脂肪多キタメ利用ノ途少ナク魚價低廉ニ陥

リタリ依テ之ガ利用ヲ試ミルタメ左記各種製品トシテノ試驗ヲ行ヘリ

##### (1) 粟 漬

前後數回ノ試驗ヲ行ヒ夏鰻ノ利用法トシテハ至難ナルモ秋冬季ニ互リ製造セルモノハ宇和島市、松山市、大分縣別府市ニテ試賣セルニ一尾平均一錢ノ價額ニテ好評ニ賣レ行キ利益ヲ見タリ、製法次ノ如シ

【第一回】原料鰻十貫匁ヲ母氏六度塩水中ニテ腹割、除骨、血抜、水切後、酢三升、砂糖百匁中ニ一夜漬込ミ翌朝其ノ一部ヲ取出シ、蒸粟(黄粉ニテ染メタル)三升ヲマブシ折箱中ニ一箱三十尾詰金三拾錢宛ニ販賣セリ

酢漬シタル鰻ノ殘品ハ尙一夜漬込ミ(酢三合ヲ足シ)タル後、前ノ如ク粟漬シテ販賣セリ

【第二回】原料六貫匁ヲ調理後母氏十度塩水ニ四時間漬込ミ酢漬(酢二升砂糖五十匁)シ翌々日漬替ヲナシ、其ノ翌日折箱中ニ粟漬シテ松山市ニ於ケル著名ノ料理店及食品店ニ品評ヲ求メタルニ梅の家料理部ノ評。宴會向トシテ最モ妙ニシテ立食用一皿二三尾入レテ十五錢ノ價値ヲ保チ得ベシ、香料ハ生薑ヲ適當ト認ム(見本品ニハ唐辛ヲ使ヒタリ)

山澤食品店ノ評。外觀及味共申分ナシ(御大典記念トシテ賣出度希望ノ下ニ注文アリタリ)

【第三回】原料鰻七貫匁ヲ母氏六度塩水中ニテ處理シ水切後酢漬(酢二升砂糖百匁)スルコト二日間後一箱百二十尾入ノ箱入トシテ粟漬シ蒸粟ニモ酢打チセリ

製品ハ過半ヲ松山市ニ出荷シ一部ヲ本場内ニ留置キ貯藏試驗ヲ試ミタルニ十二月十二日製造後十一

日間ハ完全ニ保チ十五日目ニ尙食用ニ堪ヘタルモ酢氣ヲ失ヒ居タリ

【第四回】原料二拾貫五百匁ヲ以テ前回品ト略々同様ニ處理シタル製品ヲ大分縣別府魚市會社ニ出荷百尾入一箱一圓ニ賣行キタリ

以上ノ如クニシテ兩豫地方ニ於テ本品ノ製造ハ有望ナリ、製法ハ當座賣ト出荷賣トニヨリ多少ノ手加減ヲ要スルモ概ネ第三回法ニヨルヲ可ト信ズ

(2) 鰯肉油燻罐詰

鰯五貫三百匁ノ頭ト臟腑ヲ去リネチロールニテ潰シ食塩五十匁、ウドン粉百五十匁、胡椒、味淋少々宛ト共ニ播潰シタルモノヲ丸メテ油燻(白絞油ヲ使用)シ半ポンド罐ニ七、八個宛詰メ八封度四十分ノ加熱脱氣ニテ製了ス

外ニ七貫三百匁ノ頭ト臟腑ヲ除キ母氏八度塩水ニ四十分間漬ケ水切陰乾シタルモノニ「メリケン粉」五百匁、砂糖百匁、食塩五十匁、胡椒少々ノ衣ヲ掛ケ油燻セルヲ四分ノ一キロ罐ニ五、六尾宛詰メ六封度三十分ニテ脱氣セルモノト脱氣後八封度四十分ノ殺菌加熱ヲ施シタルモノト二種トセリ

右二製品共民衆向廉價ニシテ一罐十錢宛ニ販賣セリ

(3) 鰯 糠 漬

漁村(日振島)ヨリ到着シタル鰯十貫匁(塩四升ヲ施シタル)ヲ以テ一部ハ米糠三升、麴一枚ヲ以テ樽漬シ一部ハ糠漬漬トシ尙貯藏中ナルモ美味製品タルノ見込ナシ

(四) 打瀬物利用

前年度ニ習ヒ打瀬網漁獲ノ「ジャコ」ニ甘藷ヲ配合シ前後六回ニ互リ原料百三拾貫ヲ以テ薩摩揚製造ヲ行ヒ神戸、別府(大分縣)、延岡(宮崎縣)方面ニ送り賣行ヲ調査セリ、概シテ甚ダシク有利ノ結果ヲ見ルニ至ラザリキ

(ハ) さより利用

味淋乾製造ヲ試ミ其ノ經過乾燥機試験ノ項ニ掲ゲタル如ク本品ノ製造ハ有望ナリ

製造雜試驗

(イ) 蒲鉾罐詰給熱試驗

蒲鉾罐詰ハ本縣ノ名産品ニシテ外國ニ輸出セラル、モノ亦少ナカラザルモ長期保存ニハ甚ダシキ高温加熱ヲ要スルタメ内容品ニ變化ヲ來シ罐詰ノ保存ト蒲鉾ノ保味ハ其ノ目的全ク兩立シ難キ大缺點アリ、之ガ理想的改善ハ誠ニ容易ノ事ニアラザルベキモ當業者ヨリノ希望切ナルモノアリ、製造上給熱ニ關スル次ノ試験ヲ行ヘリ

【第一回試験】一月八日原料ハ六貫ヲ以テ蒲鉾ヲ製造シ(六貫ヲ三貫宛ニ分チ一方ノ肉中ニハ拘掾酸少量ヲ加ヘタリ)罐ニ詰ム、但シ出來得ル丈ヶ殺菌的觀念ノ下ニ操作スル様心掛ケ充分ニ蒸上ゲヲ終リタル蒲鉾ハ直チニ爐上(兼テ炭火ヲ充分ニ起シアル)ニテ燒ヲ施シ直チニ無菌ト信ズル空罐(レトルト中ニテ殺菌セリ)ニ詰ム、罐ノ蓋底ニハ最初ヨリ脱氣孔ヲ穿チ置キ蒸釜中ニ入レ二―三封度氣壓ノ下ニ一時間加熱ノモノト一時間半ノモノト二様トシ釜上後脱氣孔ヲ封シ製了セリ

本品ヲ當業者ノ手ヲ經テ大阪山城物産ニ送リタルニ次ノ回答ニ接セリ

『蒲鉾詰見本ハ一週間温室検査ヲナシタルニ何レモ完全品ニテ弊店ニテ(甲)酸入一時間ノモノ)ト(乙)酸ナシ一時間ノモノ)トノ二罐ヲ開罐セルニ(乙)ハ品質優良ニシテ色モ白ク蒲鉾トシテ其ノ力最モ強ク會ツテ見ザル品質ヲ示シ大ナル發見ト言ハザルベカラズ、尙充分試験セラレタシ』

【第二回試験】二月一日原料ハ拾五貫匁ヲ購入シタルモ種類ノ撰定ヲ誤リ蒲鉾粘力乏シク罐詰ニ供用シ難キヲ以テ中止シ其ノ儘賣拂ヘリ

【第三回試験】二月四日ハ、かます拾參貫四百匁、ぐら一貫匁ヲ原料トシ蒲鉾ニ製造シ(第一回(乙)ノ如ク)第一回ト同様處理シ肉詰ヲ終リタル罐ハ蒸釜中ニ入レ〇封度一時間加熱後脱氣孔ヲ封シ製了ス、第一回法ト同ジク脱氣後ノ殺菌加熱ハ之ヲ行ハズ

製品ハ一回品ニ比シ微カニ粘力少ナキ感アルモ(原料ノ關係ナルベシ)品質良好ニシテ全ク罐詰セザル蒲鉾ノ觀アリ、然ルニ、

以上第一回品ノ殘部及第三回品ハ之ガ貯藏試験ノ爲實驗室内ニ貯ヘ時々開罐検査ヲ行ヒタルニ三月下旬迄ハ製造當時ノ品質ヲ保チ居タルモ四月九日開罐検査ニ當リ第三回試験品二十九罐ノ膨張罐ヲ出シ(在罐數ノ約二割)膨張罐ニアラザルモノモ色澤良好粘力充分ナルニ係ハラズ試食ノ結果蒲鉾ハ微カニ惡臭ヲ感ズルモノ多ク稀ニ良品ヲ止ムル程度トナリ、五月ニ至リ臭氣ヲ増シ來リタリ、第一回品ハ第三回品ニ比シ變廢ノ微稍々鈍カリシモ六月中旬ニ至リ殆ンド食用ニ供スルコト能ハザルニ至レリ之ヲ要スルニ今回試験ノ給熱程度ヲ以テハ内容品タル蒲鉾ノ永久貯藏ハ到底不可能ニシテ將來尙幾多

ノ試験研究ヲ要スルモノト言ハザルベカラズ

(ロ) 養殖鰻罐詰製造試験

流水養鰻試験ニ於テ餌付不良ニシテ成長ノ見込ナキ鰻ヲ取揚ゲ九月三日ヨリ十二月二十一日ニ至ル前後五回ニ互リテ蒲燒罐詰ニ試製セリ、其ノ結果ノ要點ヲ摘記スレバ次ノ如シ

製造方法……前日又ハ前々日試験池中ヨリ取り揚ゲ是ヲ河川ニ浸シ置キタルモノヲ背開トナシ頭及骨ヲ除キ炭火ニテ一回素燒トシ之ヲ調味液ニ浸シ一回附ケ燒キヲナシ適宜ニ切りテ九〇瓦宛四分ノ一基罐ニ詰メ調味液三〇立方糶ヲ注入シ封罐シテ熱湯ニテ排氣前三〇分間、排氣後一時間給熱ヲ行ヒテ製了セリ

原料ト製品トノ關係……前後五回ニ互ル合計原料ノ量及價格ト製品トノ關係次ノ如シ

原料	數量	價格	摘要	製品
鰻	一、三二八尾	三四、〇八	燒上肉一三、五	生肉ヨリノ歩留三割三分
醬油	四二六	一、〇六		
味噌	三、二	一、〇〇		
味淋	一、一	一、〇〇		
砂糖	一五	七二		
四分ノ一基罐	一五〇罐	三、〇〇		
半田	一五〇	三、〇〇		
木炭	一五〇	一、〇〇		

石炭	三〇〇	、五〇
硫酸及亞鉛	若干	、二〇
合計	四四、五六	製品一五〇罐 一罐當原料費二九錢七厘

備考 製造設備完備セザルヲ以テ適當ナル製造工賃ヲ計上シ得ザルモノ一罐ニ付金五錢ト假定スレバ一罐ノ製産費ハ三十五錢弱トナル

而シテ該製品ハ未ダ商人ノ評價ヲ得ザルモノ一罐ニ付金三十五錢ニ販賣スルコト不可能ナルベキヲ以テ本試驗ニ使用セシ生銀ハ一疋八十錢(貫三圓)ニ見積ルハ高キニ過グルモノト考ヘラル

### 改良魚種配付

#### 一、趣旨

縣下各地ニ散在スル池沼其ノ他廢水面ハ一面一畝歩以上ノモノ二千四百餘個所、此總面積壹千餘町歩ニ達スルヲ以テ之ヲ水産養殖方面ヨリ利用スルニ至ラバ單ニ鯉ノ粗放の養殖ヲ行フモ壹ケ年優ニ拾萬貫ノ生産ヲ揚グルニ難カラザルベシ

然レ共其ノ所要鯉苗ノ供給ハ容易ナラザルヲ以テ本場ハ前年度ニ繼續シテ適當ナル養殖施設經營者ニ優良ナル親鯉ヲ貸與シ指導監督ノ下ニ多數ノ優良ナル鯉兒ヲ養成セシメ之ヲ實費ヲ以テ希望者ニ配付シ斯業ノ開發ニ資セムトスルニアリ

#### 二、經過狀況

#### (イ) 分場所轄ノ部

東豫地方ニアリテハ新居郡西條町寺川定太郎ヨリ親鯉貸與ノ申請アリタルヲ以テ適當ナル設備ヲナサシメ五、六月ノ時期ニ於テ雌親鯉二十八尾、雄親鯉三十尾ヲ貸與シ指導監督ノ下ニ體長二乃至三厘ノ優良鯉苗約二十萬尾ヲ養成シ之ヲ六月下旬ヨリ七月下旬ニ至ル期間ニ於テ縣下伊豫郡以東ノ各都市内ノ希望者ニ夫々實費ヲ以テ配付シタリ

配付先	配付尾數	配付先	配付尾數
伊豫郡南伊豫村	五、一五〇	溫泉郡立岩村	一、二〇〇
全岡田村	五、〇〇〇	全久枝村	一、〇〇〇
全原町村	二、七〇〇	全雞村波	二、〇〇〇
全北伊豫村	九、〇〇〇	全久米村	二、五〇〇
全松前町	四、〇〇〇	全浮穴村	四、二〇〇
全下灘村	一、五〇〇	全小野村	三、〇〇〇
全郡中町	一〇、六〇〇	全堀江村	一、五〇〇
全上灘町	二〇、〇〇〇	全湯山村	一、〇〇〇
全山	二七、三五〇	全潮見村	五、六五〇
溫泉郡粟井村	三、〇〇〇	全和氣村	五、〇〇〇
全正岡村	一、二〇〇	全三津濱町	一、〇〇〇



今治市	越智郡宮浦村	越智郡農會	全盛口村	全櫻井町	全波方村	全龍岡村	全岡山村	全大井村	全波止濱町	全瀬戸崎村	全宮窪村	全下朝倉村	全清水村	全九和村	全道後湯之町	全北條町	温泉郡石井村
七〇〇	四〇〇	一六〇	一、二〇〇	六、〇〇〇	二、〇〇〇	二、一〇〇	五〇〇	三、七〇〇	一、四〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、九〇〇	一、六〇〇	四、〇〇〇	一、二〇〇	五〇〇
總計	全	全	全	全	宇摩郡	全	全	全	全	全	全	全	全	全	新居郡	全	周桑郡
	津根村	小富士村	天満村	野田村	神戸村	飯岡村	垣生村	金子村	新居濱町	泉川村	大生院村	西條町	中萩村	周布村	楠河村	小松町	
一九二、九七〇	三、〇〇〇	三、三〇〇	二、三〇〇	一、〇〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	二、八〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	一、一〇〇	二、六〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	七、五〇〇	

(口) 本場所轄ノ部

本年度親鯉貸與狀況左ノ如シ

貸與先	親鯉數	備	考
宇和島市小笠原養魚池	雄一 雌八 尾尾	前年度全様	
喜多郡三善村養鯉組合	雄九 雌三 尾尾	前年度ニ比シ雌二尾ヲ減シ、雄三尾増加	
東宇和郡宇和町 小出善照	雄五 雌二 尾尾	前年全様	
西宇和郡水産會	雄三 雌五 尾尾	前年ノ殘雌一尾ナルヲ以テ雌二尾、雄五尾補充	
合計	雄三十四 雌十六 尾尾		

産卵孵化其ノ他經過狀況

宇和島市小笠原新田養魚池 ニ於テハ五月上中旬前後三回ニ互リテ採卵シ孵化稚兒約五十萬尾ヲ得、  
 専ラみじんこヲ以テ飼育シ六月下旬ニ於テ體三鞭ノ鯉兒約十五萬尾ヲ得タリ

宇和町小出善照 ニ於テハ五月二十日採卵孵化稚兒拾數万ノ見込ナリシガ養魚智識ノ不備ト主業ニ忙  
 殺セラレ魚兒ヲ省ルノ暇ナカリシトニヨリ殆ンド配付スベキ鯉兒ヲ得ラレザリシ狀態ナリ

三善村養鯉組合 ニ於テハ五月十七日約二十萬尾ノ孵化稚兒ヲ得其ノ後經過狀況頗ル順調ナリシガ八  
 月下旬ノ大暴雨ニ池水氾濫シテ過半數ヲ流失セシヲ以テ結局八千尾内外ノ鯉兒ヲ得タルニ過ギヌ

七月上旬ヨリ八月下旬ニ至ル間希望者ニ右鯉兒ヲ實費ヲ以テ次ノ如ク配付シタリ

養成所	配付尾數	配付區	域
小笠原養魚池	約 四〇、〇〇〇尾	宇和島市及東、西、南、北宇和郡内	
三善村養鯉組合	七、〇〇〇	喜多郡内	
計	四七、〇〇〇		

### 流水養鰻試驗

#### 一、趣旨

從來養鰻業ハ池水面一坪當鰻ノ生産量ハ五六百匁ヲ上ラズ隨ツテ斯業經營ニ當リテ相當廣大ナル池水面ヲ要シ地價ノ騰貴ニ從ツテ斯業ヲ不利益ニ導クハ當然ノ結果ナルベク且鰻ト全ジク温水性魚族タル鯉ニ於テハ既ニ頗ル集約化シタル流水式養殖方法ニテ顯著ナル成績ヲ收メツ、アリ、依ツテ鰻ノ流水式ニヨル養殖方法ノ適否關係ヲ知ラムガ爲本試驗ヲ大正十五年度來繼續シテ施行シタル所以ナリ

#### 二、試驗ノ方法

前年來試驗ノ結果本試驗方法ニアリテハ鰻ハ餌付良好ニシテ成長可良ナルモノト、然ラザルモノトアルヲ以テ本年度ニアリテハ餌付不良ノモノヲ適宜試驗池ヨリ取揚ゲ處分シ餌付良好ノモノノミヲ殘シテ飼育スルコト、セリ、而シテ餌付不良ノモノハ之ヲ販賣セムトスルモ其ノ價廉ナルヲ以テ蒲燒罐詰ニ製造スル

コト、セリ

#### 三、試驗經過狀況

##### (イ) 試驗池

大正十五年度來使用セシ流水池(第二號池)大正十五年度事業報告書參照)ニシテ總水面積四三・五平方米、内二七・三平方米ハ水深約六五糎(池底修理ノ爲前年度ヨリモ約一〇糎淺クナリタリ)ノ實際有效水面積ニシテ池側壁及池底ハ全部「コンクリート」ヲ以テ固定シ注水口及排水口ハ巾約三〇糎、注、排水口部ノ戸ハ方五糎目ノ銅線金網戸ヲ二重ニ挿入セリ

池上ニハ鰻ノ嫌光性ニ適應セシメ且盜難ヲ防ガムガ爲亞鉛板ヲ以テ覆ヒ其ノ三分ノ二ハ固定シ、三分ノ一ハ取外シヲ自由ナラシメ午後二時頃ヨリ午後六時頃迄以外ハ此三分ノ一ノ部分ヲモ一般ニ取除カザルコト、セリ

池水ハ附近御舟川ヨリ引用シタル農耕地ノ灌溉用水ニシテ池中ヘノ流量ハ六月中ニハ毎分三〇〇立位、七八月中ハ毎分四〇〇立位、九月ヨリ十二月迄ハ三〇〇乃至二〇〇立位ナリ(本年度ハ降水順調ナリシ爲流量豊富ナリキ、從ツテ池水温ハ夏期前年度ニ比シ幾分低キ傾向アリタリ)

毎日一定時ニ觀測シタル池水温並池水酸素含有量ノ毎旬平均ヲ示セバ次表ノ如シ

月	期	旬		最高水温	最低水温	平均池水温	最高	最低	平均
		午前八時	午後二時						
六	上	二二、二	二二、三	二二、三	二二、三	二二、三	六、三	五、七	六、〇
		二四、二	二四、三	二四、二	二四、二	二四、二	六、〇	四、七	五、五
六	中	二二、二	二二、三	二二、三	二二、三	二二、三	六、三	五、七	六、〇
		二四、二	二四、三	二四、二	二四、二	二四、二	六、〇	四、七	五、五
六	下	二二、二	二二、三	二二、三	二二、三	二二、三	六、三	五、七	六、〇
		二四、二	二四、三	二四、二	二四、二	二四、二	六、〇	四、七	五、五

月二十	月一十	月十	月九	月八	月七
下中上	下中上	下中上	下中上	下中上	下中上
九、八、九、八、一、三、八	三、四、六、八、四、九	二、二、二、〇、〇、〇、六、五	二、二、二、四、七、七、八、二、四	二、二、二、九、八、八、〇、〇	二、二、二、八、八、七、二、七、二
三、三、四、五、五、五	二、五、六、一、九、六	七、八、八、四、〇	二、二、二、〇、一、二、六、七、一	二、二、二、四、四、二、四、二、五	二、二、三、七、五、〇、五、五、一
〇、一、一、七、二、〇	五、三、三、〇、八、二	二、三、四、八、六、六	五、六、五、一、七、四	六、六、七、七、二、〇	六、八、六、五、〇、八
一、一、二、二、八、〇	二、三、四、七、五、一	四、四、五、四、四、四	六、八、七、三、二、四	七、九、七、四、一、五	七、九、八、九、一、三
二、二、三、九、七、四	四、四、五、四、六、六	六、七、七、三、〇、〇	一、八、九、〇、九、九、二	二、二、二、一、〇、五、六、三	二、二、二、二、三、四、六、八、二
六、六、六、八、七、一、三	六、五、六、一、九、六、〇	六、七、六、二、二、〇、三、三	六、五、五、〇、六、三、五、四、〇、五	六、五、四、一、一、五、九、〇、三、九	五、六、六、二、七、七、四、四、〇
五、五、五、七、九、〇、七、二	五、四、四、三、七、四、四、六	五、五、四、四、三、三、二	四、二、三、〇、五、七、三、六、八	三、三、三、二、五、七、一、二、四	三、四、四、七、三、八、五、八、〇
六、六、五、八、五、八、二、三、六	五、五、五、八、四、七、二、四、五、二	五、五、五、八、九、三、九、〇、四、九	五、四、四、〇、四、四、〇、五、三	四、四、四、七、八、五、六	四、五、五、六、八、八、三

備考 一、注水溝ノ水温ハ池水温ニ比スレバ暑氣ニ低ク、寒氣ニ高キモ池水温トノ差ハ何レモ一度以内ナルヲ以テ記載ヲ省略セリ  
 二、酸素溶解量ノ測定ハ「ウインクラ」氏法ニ依リ其ノ示度ハ池水一立中ノ立方體ノ數ヲ以テ表セリ

(口) 種苗ノ放養

種鰻ハ主トシテ新居、周桑兩郡内沿岸ニテ鰻筒ヲ以テ漁獲シタルモノヲ縣内業者ヨリ 六月二日ヨリ七

月十三日ニ至ル間ニ於テ前後十二回ニ互リ購入シテ試験池ニ放養シタリ、其ノ大サ並數量次ノ如シ

大	サ	尾數	重	量
體重八三、六五ヨリ七〇五以上ノモノノ平均七二五	九、九、一	九、九、一	七、一、三	
體重七〇、〇瓦未滿五〇瓦以上ノモノノ平均五七五	一、一、一	一、一、一	八、八、三	
體重五〇、〇瓦未滿三〇瓦以上ノモノノ平均三八五	八、四、九	八、四、九	三、三、三	
體重三〇、〇瓦未滿一八瓦以上ノモノノ平均二二五	三、七、一	三、七、一	八、一、一	
合 計 (平均五三、一九五)	三、七、六、〇	三、七、六、〇	二、〇、〇、〇	

(ハ) 給餌

最初種鰻ヲ放養シタル翌々日、即チ六月四日ヨリ毎日午後二時、四時、六時ノ三回、生田螺ノ肉ヲ少量ツツ投餌場ニテ音ヲ立テツ、落下シテ與ヘタルモ以後六月十日迄ハ餌料ヲ攝食シタル形跡無カリシモ翌十一日ヨリ池底ニテ攝餌スルモノアルニ至リ十七日ヨリハ生蝸及塩漬鱸ヲモ混用シタリ、此頃鰻ハ水面上ニ浮上シテ攝餌スルモノ無カリシガ六月二十五日頃ヨリ水面ニ浮上シテ攝餌スルモノアルニ至リ七月十日頃ヨリ攝餌状態良好トナリ八月下旬ニ於テハ給餌量最大ニ達シタリ、以後順次其ノ量減少シ十二月十二日ニ至リテ給餌ヲ止メタリ、此給餌期間中常ニ生田螺及塩漬鱸ヲ混與シテ(九月十六日以後ハ鹽漬ハ得ラレザリシニヨリ混與セズ)其ノ攝食量ヲ増大セシムル様努メタリ

而シテ給餌時刻ハ最初ヨリ七月十七日迄ハ前記ノ如ク午後二時、四時及六時ノ三回ニシテ一回給餌ノ所要時間ハ十分乃至二十分ヲ要シ、七月十八日以後ハ午後四時頃ヨリ午後六時ニ至ル間ニ於テ適宜給餌

ヲ行ヒタリ、即チ當日ノ鰻ノ求餌集合状態ヲ見計ヒ右時間内ニ連續シテ一回ニ給與シ或ハ中途ニテ給餌ヲ中止シテ再ビ與フナド臨機適應スベク之ヲ行ヒタリ、而シテ一日ニ於ケル給餌ニ要セシ時間ハ九月上旬頃迄ハ約一時間半、以後ハ一時間乃至三十分位ナリ

毎旬給餌量合計表ノ如シ

月	旬	種	給餌量	合計	日給餌
月 七	下	生鹽田	四八、七〇	四一、六〇	一〇
	中	生鹽田	一〇、二五		
	上	生鹽田	一〇、二五		
月 六	下	生鹽田	四〇、六三	四一、六〇	一〇
	中	生鹽田	七〇、六七		
	上	田	三、一〇		
月 九	下	生鹽田	五九、七七	四一、六〇	一〇
	中	生鹽田	四七、二〇		
	上	生鹽田	五、六		
月 八	下	生鹽田	一〇、八二	四一、六〇	一〇
	中	生鹽田	八〇、九三		
	上	生鹽田	六四、三三		

月	旬	種	給餌量	合計	日給餌
月 十	下	生田	二四、七〇	四一、六〇	一〇
	中	生田	三一、三六		
	上	生田	二〇、九一		
月 十	下	生田	四八、二四	四一、六〇	一〇
	中	生田	四六、四一		
	上	生田	五、〇〇		
考 備		合 計	生鹽田	八七、一八	一八九
一、給餌期間ハ六月四日ヨリ十二月十二日ニ至ル間ナリ		中	田	一一、二	二〇
二、九月中旬、十一月上旬ニ給餌セザル日各一日アルハ		上	生田	一一、九	一〇
三、田螺ノ重量ハ肉ノミノ重量ナリ		合計	あ	一一、二	二〇
四、塩あみ六九、七立ハ約八七立ニ相當ス		合計	あ	一一、二	二〇

(二) 試験池ノ手入

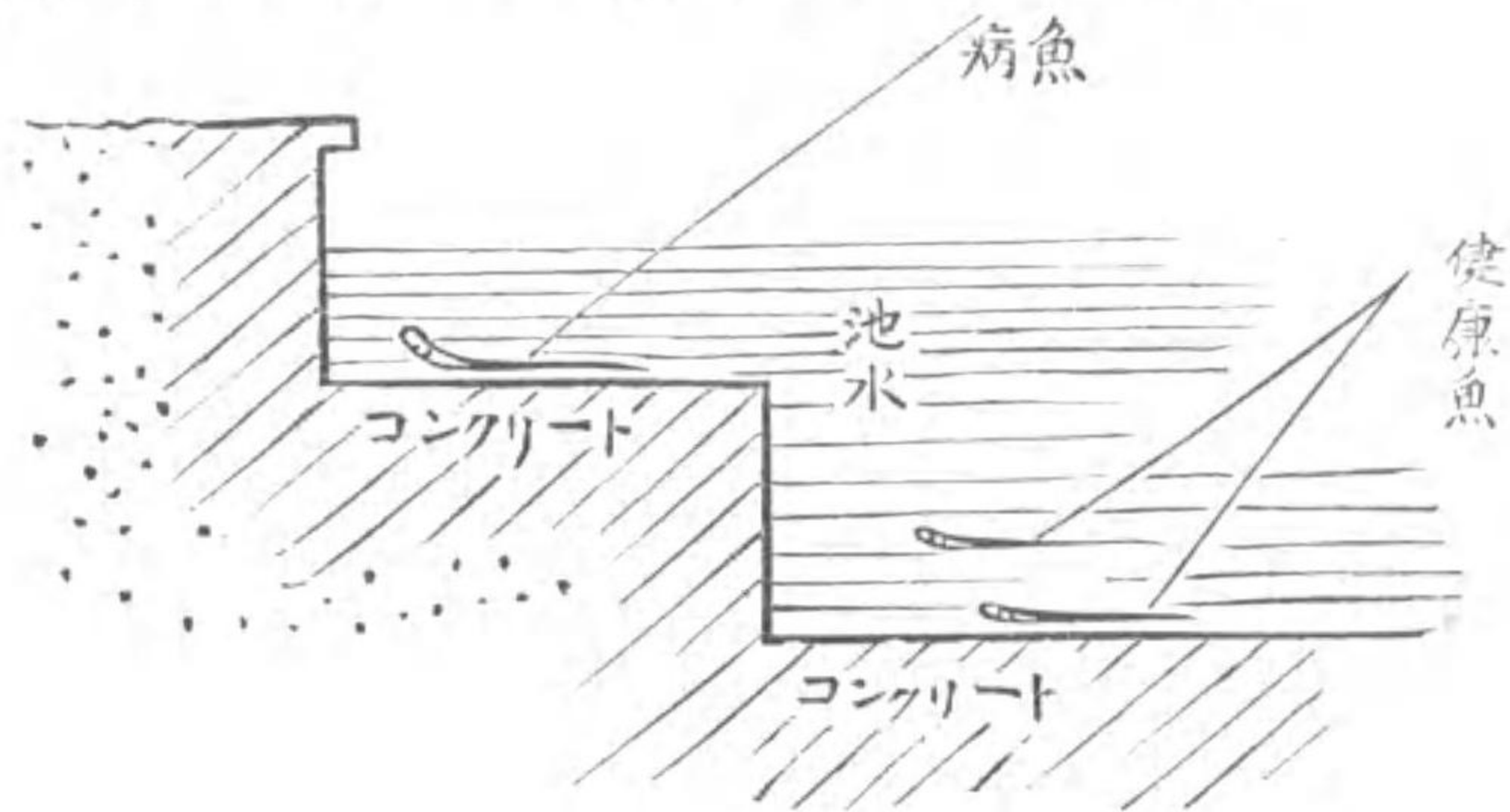
試験池底ニハ鰻ノ排泄物、餌料ノ殘物及注水口ヨリ流入シタル固形物等沈澱シ是等ノ沈澱物増加スル時ハ攝餌不良トナル様認メラレタルヲ以テ二日乃至三日隔キ位ニ餌付場附近池底全面ノ三分ノ一位ノ部分ノ沈澱物ヲ攪網ヲ以テ抄ヒ取リタリ、尙九月十二日養鰻全部取揚調査ノ際ハ池水ヲ全部排除シ池底ヲ完全ニ掃除シタリ

尙注水口部金網戸ハ網目五耗位ニシテ注水溝ヨリ塵、枯葉等金網戸ニ懸リテ注水減少スルヲ以テ晝間二三回位此戸ヲ掃除シタリ、然レモ夜間深更ニ於テハ之ヲ行ヒ難キニヨリ自然流量ヲ減少セシムルノ

已ムナキニ至レリ(此地區ハ流水落差少キヲ以テ澆水裝置ヲ行ヒ難シ)尙排水口部ニ於テモ池中ノ殘餌ノ爲注水口部ト全様ノ結果ニ傾キ易ナリキ

(ホ)魚病

放養種苗中ニハ擦傷ヲ負ヒタルモノアリシヲ以テ是等ハ罹病ノ原因トナリテ放養後間モナク水生菌ノ寄生スル處トナリ斃死セリ、此數放養開始後十日頃ヨリ七月末ニ至ル迄毎日平均一尾位ニ達シタリ  
尙此外七月十五日頃ヨリ池底周圍ノ淺キ部分ニ圖示ノ如ク前體部ヲ上方ニ向ケテ休息シタルガ如キ狀態ヲ呈スル(普通健康魚ハ此淺部ニ上ラズ)モノ百尾餘ニ達シタルヲ見受ケタルヲ以テ池水ノ交換ヲ成ルベク良好ナラシメタリシモ此狀態止マズ、十九日ニ至リ是等ノ中斃死スルモノアルニ至リタルヲ以テ池底ヲ檢シタルニ當時死魚三十一尾ニ達シタリ、翌二十日尙四十九尾ノ死



(圖面斷池驗試)

魚アリ翌々二十一日曳網ヲ入レテ全池ノ鰻ヲ取揚ゲ檢シタルニ病魚及罹病ノ疑アルモノ合計八十七尾、死魚四十一尾アリタルヲ以テ八十七尾ノ病魚ハ胴丸籠ニ收容シテ附近ノ水清キ御舟川ニ蓄養シタルニ此内時々斃死スルモノアリテ八月三日ニ至ル迄四十一尾ハ斃死シ殘四十六尾ハ病氣治癒シタリト認メラレタルヲ以テ試驗池ニ戻シタリ、尙二十一日病魚並

罹病ノ疑アルモノ全部ヲ除去シタリト雖其ノ翌々二十三日ニ池底ヨリ死魚十六尾ヲ檢出セリ、以後此種病魚ハ數ヘ揚グル程ノ數ニ達セズシテ終始セリ(大正十五年度此試驗池ニ於テ本年度ノ如ク新種鰻ヲ放養セル後ニ於テ此種ノ病魚ヲ出セリ)結局此種病魚ニテ斃死セシメタルハ合計百八十尾ニ達シタリ

而シテ此魚病ノ症狀ヲ略記セムニ魚ハ最初池底ノ淺所ニ來リ(池底ノ深所ニ止リタルモノモアルベシ)體ノ前部ヲ上方ニ向ケ極メテ靜カニ休息シタルガ如ク靜止シ(魚ハ狂暴シタルガ如キヲ見受ケズ)人影、足音等ノ威嚇ニ對シテモ逃グルモノ少シ病魚ハ捕リテ檢スレバ復部並臀鰭ノ毛細管ノ赤色網目ヲ外部ヨリ見得ル所謂充血ノ狀態ヲ呈シ稍々遠目ニ之ヲ見レバ腹部並臀鰭全體ニ赤色ヲ呈シ(赤斑トハ認メラレズ)重症ニテ瀕死ノ境ニアルモノハ鰓葉ハ正常ノ鮮紅色ヲ失ヒテ稍々黒味ヲ帯ビタル薄紅色ヲ呈シ是ニ水生菌着生セリ

以上ハ鰻ノ赤斑病トシテ既ニ發表セラレタル *Bacillus anguillarum* ノ寄生ニヨルモノト其ノ症狀酷似スト雖幾分相違スル點アリト認メラル、而シテ該魚病ハ前記七月二十一日病魚及疑病魚(何レモ多少腹部赤色ヲ帯ビタリキ)ハ水清キ河川ニ蓄養シ置キ十三ケ日後ノ八月三日迄約半數病氣治癒シタル(治癒シタリト認メタルハ腹部ノ赤色ヲ外部ヨリ見得ザルニ至リタルニヨル)事實ヨリ見テ其ノ輕症ナルモノハ赤斑病ト全様流水中ニテ治癒スルモノト認メラル(但シ治癒シタル魚ハ試驗池中ニ於テモ自然恢復スベキモノタリシヤモ計リ難シ)

四、結 果

本年度ニアリテハ前記第二ノ試驗方法ニ記載セル如ク餌付不良ト認メラル、モノハ之ヲ撰別取揚ゲ蒲燒

罐詰原料ニ利用シ、且成長良好ニシテ賣却ニ好適トナリシモノ(體重二三〇乃至一一〇瓦、平均一三〇・四瓦)モ適宜取揚販賣シタリ、而シテ自餘ノ中、小形ノモノハ其ノ儘翌年度ニ繰越スコト、セリ  
右各取揚月日及數量ヲ示セバ次表ノ如シ

區別	大形ノ分處分		中形ノ分		小形ノ分		餌付不良ノ分處分	
	尾數	重量一尾平均	尾數	重量一尾平均	尾數	重量一尾平均	尾數	重量一尾平均
九月一日	五尾	五、三					六尾	二五、二
全 五 日							一六	五、七
全 十三 日	二八	四、一					一六、四	二四、四
全 十八 日	二九五	四、〇						
十一月二日	三四	四、六						
十二月二十日	一〇	一三、四					四〇	一五、一
十二月廿日調 翌年へ越	六七	一〇、八	三三尾	一、九	五七尾	三、五	一、〇	三、〇
總 計	二、九二八尾	二、〇〇一	一尾平均重量	六、八	四、五			

以上大形ノモノ餌付不良ノモノ等ノ撰別ハ外觀上ノ判斷ニ訴ヘタリ、即チ大形ノモノトハ體長相當大ニシテ比較的ヨク肥滿シタルモノヲ云ヒ、餌付不良ノモノトハ體長ニ比シ著シク重量小ナクト思ハル、モノニシテ中形及小形トハ體長中又ハ小ニシテ肉付キ相當ト見ラルベキモノヲ該當セシメタリ、而シテ大形

ノモノ及ビ餌付不良ノモノ、肥瘠狀態ヲ數字上ニ表示セムガ爲九川氏ニ依ル公式ヲ應用シテ種鰻ト比較スレバ次ノ如シ

$$K = \frac{L^3}{W} \quad W = \text{體重}, L = \text{體長}, K = \text{常数}$$

即チ常数Kノ値小ナルノハ大ナルモノニ比シ肥滿セルモノナリ(但シ體長五〇糎以下ノモノハ適確ニ該當セザル由ナレドモ)即チ次ノ如シ

種	測 定	材 料	常 數
平均體長三六、七糎ノモノ	(一〇尾平均)		K    八五、〇
〃 三三、八	〃	〃	K    七一、八
〃 二八、七	〃	〃	K    七八、九
以 上 平 均			K    七八五、九

取揚大形ノモノ	測 定	材 料	常 數
九月一日取揚平均體長四三、八糎ノモノ(五尾平均)			K    五二、一
九月十三日	四五、〇	〃	K    五七、四
十一月二日	四五、四	〃	K    四五、九
十二月二十日	四一、七	〃	K    五二、三
以 上 平 均			K    五一、九

測定材料	常數
取不 揚良 鰻ノ 餌モ 付ノ	九月一日取揚平均體長三六・五種ノモノ(五尾平均) 九月十三日 九月十三日 十一月二十日 以上平均
	K  一〇七六、一 K  一三五六、一 K  一三五四、九 K  一二六二、四

以上ノ如ク大形ノモノハK||五一九、七ニシテヨク肥滿シ、餌付キ不良ト認メタルモノハ平均K||一二二六二、四ニシテ放養當時ノ種鰻ノK||七八五、九ト比較スレバ其ノ差著シキナリ、即チ試育中餌付キ不良ノ爲瘠セタルモノト認メラル

本年度試験ニ於テハ大形ノモノ(販賣ニ適スル様成長シタルモノ)、餌付キ不良ノモノ、其ノ他ノ事項ニ分チテ區別計數シ且之ヲ種鰻尾數ニ對スル比ヲ求ムルニ次表ノ如シ

種別	摘	要	尾數	百分率
大形ノモノ	販賣ニ適シタルモノ	(平均一三〇瓦)	八一七	二一・七
中、小形ノモノ	今後尙成長ノ見込アルモノ	(十二月廿日平均六四瓦)	八〇七	二一・五
餌付キ不良ノモノ	今後成長ノ見込ナキモノ		一、三〇四	三・四・七
羅魚斃死ノモノ			二五五	六・八
行衛不明ノモノ	主トシテ八月下旬ノ大洪水ニ池水増漲セントシ逃ゲタルモノニシテ此外斃死シタルモノモアルベシ		五七七	一五・三
合計			三七六〇	一〇〇・〇

而シテ右ノ結果ヨリ全種鰻ヲ餌付キ良好ノモノト餌付キ不良ノモノトノ二ニ振當テ、其ノ割合ヲ見ルニ餌付キ良好ノモノ五五・五%、餌付キ不良ノモノ四五・五%トナリ略々五對四トナル  
次ニ成長率ヲ見ルニ

大形ノモノ(取揚時平均體重二三〇・四瓦)ハ放養種苗ノ内平均七二瓦ノモノ及平均五七瓦ノモノ(合算平均體重六二・八瓦)ガ成長シタルモノト假定スレバ二倍強ノ成長ヲナシ  
中及小形ノモノ(十二月二十日現在ノ大サ六七・二瓦)ハ放養種苗ノ内平均體重三八瓦及二二瓦ノモノ(合算平均體重三三・一瓦)ガ成長シタルモノト假定スレバ大形ノモノト全ジノ二倍強ノ増量トナル  
而シテ餌付キ不良ノモノハ(取揚時平均三〇・三瓦)放養種苗總體(平均體重五三・二瓦)ニ比較スレバ養殖中體重四割三分ヲ減少シタルコト、ナレリ

五、摘要

本試験ノ經過並結果ノ要點ヲ摘記スレバ次ノ如シ

- (イ) 種苗放養量 三、七六〇尾 二〇〇疋(池水面一平方米當八六尾 四・六疋弱)
- (ロ) 養殖期間中池水温 自六月一日午後二時平均一八・五度 最高三〇・一度  
至十二月廿一日午後二時平均一八・五度 最高三〇・一度
- (ハ) 給餌量 田鰻一二六・二疋(生鰻八七・一疋) 合計一・〇八五疋  
據あみ 六九・七立(八七疋)
- (ニ) 種苗量ニ對スル給餌量ノ割合 五・四二倍
- (ホ) 養鰻取揚量 大形ノモノ一〇六・五疋 餌付キ不良ノモノ三九・四疋 合計二〇〇・一疋  
中、小形ノモノ五四・二疋
- (ヘ) 放養量ニ對スル取揚量ノ割合 一・〇〇〇五倍

(ト) 個體成長度 大形ノモノ二倍、中、小形ノモノ二倍、餌付不良ノモノ〇・五六倍  
 (チ) 餌付キ良好ノモノト不良ノモノトノ割合 五五・五對四四・五

六、結 論

本試験ハ要スルニ種苗放養量ト取揚量トハ同量ニシテ頗ル不成績ト云フベク、此原因ハ尙繼續試験シテ終了後結論トシテ掲グベキモノナリト雖今假ニ之ガ原因ト目サル、ベキ事項ヲ列記セムニ (一) 池水温ハ低キコト (構内止水池ニ比較スレバ午後二時平均七、六度低シ) (二) 放養時期ハ六月初メヨリ七月中旬ニ互リ養殖期間ノ短キコト (三) 魚病ヲ發生セシメテ多數ノ養魚ヲ斃死セシメ且洪水ノ爲逃逸セシメタルモノ多數ニ上リタルコト (四) 本試験ニ於テハ本年度使用ノ程度ノ餌料品質ニテハ餌付キ悪シキモノ總體尾數ノ四四・五%ヲ占メ是等ハ放養當時ヨリ四割餘ノ體重ヲ減少セシコト、等ナリト思料セララル

而シテ以上ノ内 (一)ノ事項ハ流水池ニ於ケル必然ノ結果ニシテ (二)ハ當地產種鰻ヲ使用セムトスレバ已ムヲ得ザルナルモ翌年六月迄内小形ノモノヲ繰越トシテ飼育スレバ其ノ缺點ヲ除クコトヲ得ベク (三)ハ注意ヲ怠ラザルコトニヨリテ防止スルヲ得レモ (四)ノ事項ハ最モ注目研究ニ値スル大問題ナリト思惟セララル、即チ優良ナル品質ノ餌料ヲ多量ニ用フルトセバ其ノ收支經濟ニ於テ遺憾多シ

而シテ餌付キ不良ノモノハ本年度ノ如ク適宜除去シテ罐詰原料ニ利用スルモ一町八〇錢(貫三圓)以上ノ高價ニ見積ルハ不可能ナリ、(製造試験部参照)依ツテ該試験池ニ於テ二〇〇町放養ニ對シ本年度成績ニ準ジ作業上ニ遺憾ナカリシモノトシテ收支關係ヲ記載スレバ次ノ如シ

(1) 餌付キ良好ノモノ(放養尾數ノ五五・五%)ニ該當スベキ分

種鰻代 約百十七圓(貫四圓)  
 餌料代 約四十五圓

養鰻賣上代(種鰻ノ二倍ニ成長) 二百九十五圓(貫五圓)

◎差引利益金 百三十三圓

(2) 餌付キ不良ノモノ(放養尾數ノ四四・五%)ニ該當スベキ分

種鰻代 約九十五圓

養鰻賣上代 約四十圓(貫三圓)

◎差引損失金 五十五圓

以上合算差引利益金 七十八圓

以上ノ如ク利益金七十八圓トナレモ實際斯業經營ニ當リテハ分減量及器具費、修繕費其ノ他雜費ヲ差引ケバ收支全額ニ近カラム

故ニ之ヲ理想的ニ成功セシメンニハ最初ヨリ種鰻ノ餌付キ良好ノモノト然ラザルモノトヲ撰別シテ餌付キ良好ナルモノノミヲ放養スル要アリトノ結論ニ到達スルガ如キモ種鰻ノ餌付キ良好否ノ原因及區別點ノ如キハ全然未知ノ問題ニシテ其ノ端緒スラ得ラザルノミナラズ流水養鰻トシテノ既ニ行ヒタル方法ハ絶對的最良方法ナリトノ斷言ヲ許サザルヲ以テ更ニ繼續研究ノ要アルモノト認ム

止水池養鰻試驗



一、趣 旨  
流水養鰻試験ノ參考資料ヲ得ンガ爲普通在來ノ式ニヨル養鰻試験ヲ小規模ニ行ヒタリ

二、經過狀況

(イ) 試験 池

試験池ハ水面積六七・五平方米ノ長方形ノ土池(池側壁ハ「コンクリート」ニテ固定)ニシテ水深約四〇  
 糶池中ヘハ海面滿潮時ニ附近ノ掘抜井戸ヨリ少量ノ井水注入ス

池水ハ初メ稍々透明ナリシガ餌付ヲ行ヒタル日ノ後一週間目頃ヨリ綠色ニ混濁シ池底ヲ透現スルヲ得  
 ザルニ至レリ

毎日午前十時及午後二時ニ觀測シタル池水温ノ毎旬平均次表ノ如シ

月	旬	平均		最高		最低	
		午前十時	午後二時	午前十時	午後二時	午前十時	午後二時
月 九	下中上	二二 五、一	二二 七、五	二二 九、三	二二 六、五	二二 三、〇	二二 〇、五
	下中上	二二 八、二	二二 〇、七	二二 九、七	二二 五、五	二二 三、〇	二二 〇、七
月 八	下中上	二二 七、九	二二 一、〇	二二 九、四	二二 六、八	二二 三、三	二二 〇、〇
	下中上	二二 九、二	二二 〇、七	二二 九、七	二二 五、五	二二 三、〇	二二 〇、七
月 七	下中上	二二 九、一	二二 七、〇	二二 九、四	二二 六、八	二二 三、三	二二 〇、〇
	下中上	二二 七、九	二二 一、〇	二二 九、四	二二 六、八	二二 三、三	二二 〇、〇
月 十	下中上	一一 三、六	一一 九、七	一一 六、七	一一 二、七	一一 〇、五	一一 七、五
	下中上	一一 三、六	一一 九、七	一一 六、七	一一 二、七	一一 〇、五	一一 七、五

(ロ) 種苗ノ放養

(A) 鰻……六月十九日ニ九四尾五・二疔、七月二日ニ六三尾二・四疔、合計一五七尾七・六疔(一尾平均  
 體重四八・四瓦)ヲ放養シタリ

(B) 鯉……七月五日ニ二年生鯉兒二〇尾、五六〇瓦(一尾平均體重二八・五瓦)ヲ放養シタリ

(ハ) 給 餌

六月廿二日ヨリ池中ノ一定個所ニ素焼皿(徑約四五糶)ニ生田螺ノ肉ヲ入レテ沈下シテ餌付ヲ行ヒタル  
 ニ六月廿六日ヨリ餌ニ付キ(翌朝餌皿ヲ檢スルニ殘餌ナシ)タリ、依ツテ全月廿八日ヨリ之ニ生蠅ヲモ混  
 ジタルニ一週間後ニ至リテ此蠅ヲモ全ク食スルニ至レリ、尙七月二日ヨリ塩漬鱈モ混用シ七月廿二日ヨ  
 リハ餌ハ皿ニ入レテ沈下シ置クヲ中止シ張り出シ投餌場ニ鰻ヲ集合セシメテ餌料ヲ落下シテ給與シタリ  
 試験期間中ニ於ケル毎旬一日當平均給餌量ヲ示セバ次表ノ通りナリ

月	旬	種	日當		月	旬	種	日當	
			給餌量	給餌日數				給餌量	給餌日數
月 六	上	田	蠅		月 七	上	田	蠅	
	中					中			
月 九	下中上	田	蠅		月 七	下中上	田	蠅	
	下中上					下中上			

月	旬	種	日當	給餌量	給餌日數
月 六	上	田	蠅	二〇〇瓦	一日
月 六	中	田	蠅	二〇〇瓦	一日
月 九	下中上	田	蠅	二〇〇瓦	一日
月 七	上	田	蠅	三二一瓦	一日
月 七	中	田	蠅	一八七瓦	一日
月 七	下	田	蠅	三〇八瓦	一日
月 十	上	田	蠅	二五九瓦	一日
月 十	中	田	蠅	一三五瓦	一日
月 十	下	田	蠅	七八五瓦	一日
月 九	下中上	田	蠅	一四七瓦	一日
月 九	下中上	田	蠅	九七七瓦	一日

月	九			八		
	下	中	上	下	中	上
生	生			生		
	生	生	生	生	生	生
蟪	蟪			蟪		
	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪
給餌合計量	月一十			月一十		
	下	中	上	下	中	上
計	生			生		
	生	生	生	生	生	生
蟪	蟪			蟪		
	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪
計	八 二、六、七、八、 五、四、六、四、四、 七、一、四、〇、七、 〇、〇、〇、〇、〇、〇			八 二、六、七、八、 五、四、六、四、四、 七、一、四、〇、七、 〇、〇、〇、〇、〇、〇		
	九七〇	一七〇	三六六	三〇八	四八五	七三五
日	七日			八日		
	七日	一日	八日	一日	一日	一日

(二) 魚病

鰻苗ハ放養當時負傷セシモノアリタリ、此内輕傷ノモノハ試驗池中ニテ自然ニ治癒セシガ重傷ノモノハ斃死シタリ、其ノ數七月二十一日迄ニ八尾ニ達セリ  
尙此外池水惡變ノ爲カ八月中旬及九月上旬ノ二回ニ何レモヨク肥滿シタル鰻一四尾斃死セリ

三、結果

十二月十八日養魚全部ヲ取揚ゲ調査シタルニ次ノ如キ結果ヲ得タリ

(イ) 鰻

大サ別	尾數	尾重	揚量	一尾平均重量
大形ノモノ	三九尾	六、二二三	一五七、四	
中形ノモノ	三二	二、三三七	七四、一	
小形ノモノ	六四	一、七二	二六、九	
合計	一三五	一〇、三三二	七六、四	

以上ノ養鰻ハ大小頗ル不同ニシテ且肥瘠ノ差モ著シキハ養殖中餌付キノ良否ニヨルナルベシ、故ニ之ヲ外觀上ノ鑑別ニ訴ヘテ餌付キ良好ナリシモノト然ラザリシモノト區別セシニ次ノ如キ結果ヲ得タリ  
(餌付ノ良及否ノ中間ト覺シキモノアリテ區別困難ナルモノモ適宜何レカ一方ニ編入セリ)

餌付キ良否ノ區別	尾數	重量	一尾平均重量	尾數割合
良	八九尾	九、一四	一〇三、四	六五、九%
否	四六	一、一八	二五、七	三四、一%

(ロ) 鯉

十八尾 十斤九百瓦(一尾平均六〇〇瓦、最大七八七瓦、最小五二五瓦)  
以上ノ鯉ハ何レモ良ク肥滿シ無傷健全ノモノナリ

四、摘要

本試驗ノ經過並結果ノ要點ヲ摘記スレバ次ノ如シ

- (イ) 種 苗 放 養 量 (鯉 一五七尾、六、六肝(池水面一平方米當二、三尾、一二、五瓦) 二尾〇、五六肝(池水面一平方米當〇、三尾、八、三五瓦))
- (ロ) 養 殖 期 間 中 池 水 温 午後二時平均二六、一度(最高午後二時三六、八度(七月下旬) 最低午前十時一〇、五度(十一月下旬))
- (ハ) 給 餌 量 (生 蝸 八六、五肝 田螺ノ肉 八、四肝) 合計一〇二、五肝
- (ニ) 鰻 苗ニ對スル給餌量 一三、五倍
- (ホ) 種 苗ニ對スル生産量 (鯉) 重量一、三六倍 尾數八六% 重量一九、六倍 尾數九〇%
- (ヘ) 増 肉 量ニ對スル給餌量 七、八五倍(鰻、鯉合算)
- (ト) 種鰻尾數ニ對スル養鰻種別尾數割合 餌付良好ノモノ五六・六% 餌付不良ノモノ二九・四% 病死魚一四% 體長四六・八厘ノモノ十尾ニ付キ平均K〓五八九・三七
- (チ) 餌付良好ニシテ大形ノモノ肥滿率
- (リ) 種 苗 及 餌 料 代 金 鯉 七、六肝代 八、一三錢 鰻 二、〇尾代 三、〇三錢 田螺 八六、五肝代 三、〇三錢 合計十六圓二十八錢
- (ヌ) 生 産 物 見 積 價 格 鯉 大形ノモノ 一、〇、九肝 八、七二錢 小形ノモノ 一、〇、九肝 八、七二錢 合計金二十一圓十八錢

### 食用蛙養殖試驗

#### 一、趣 旨

最近勃興ニ係ル米國種食用蛙ノ養殖經營方法ニ關シ諸般ノ關係ヲ闡明ナラシメ斯業ノ開發ニ資センガ爲前年度ニ繼續シテ本試驗ヲ施行シタリ

#### 二、試驗ノ經過狀況

##### (イ) 試驗ノ方法

本年度ニアリテハ主トシテ採卵、孵化、蝌蚪並一年生仔蛙ノ飼育ヲ目的トシ三、四年生ノ幼、親蛙ヲ以テ採卵ヲ行ヒ、之ヨリ孵化發生シタル蝌蚪ヲ飼育シ當年度内ニ脱尾變態シタル仔蛙ニ專ラ蝸ヲ與ヘテ餌付試驗ヲ行フコト、シタリ

##### (ロ) 試 驗 池

本試驗ニ左記四種ノ試驗池ヲ使用シタリ (A) 親蛙飼育池兼採卵池 (一面)

總面積二四平方米、内水面積一三平方米、池ノ外圍ハ亞鉛及金網ヲ接續シテ高サ約一米トシ上部ニハ木綿網ヲ張レリ、池水深約三〇厘米ニシテ注水ハ附近掘抜井ヨリ少量ヅ、注加ス 産卵期中ニ於ケル毎日午前十時ニ觀測シタル池水温次ノ如シ

月	期	氣 温	最 池	最 水	最 均	月	期	氣 温	最 池	最 水	最 均
五	旬		高	低	平	六	旬		高	低	平
下	中	二一、三	二六、二	一九、〇	二二、一	下	中	二二、〇	二五、八	二一、八	二二、一
上		二一、三	二六、二	一九、〇	二二、一	上		二四、〇	二六、八	二二、一	二二、一

月	旬	間	氣	溫	最	池	高	最	水	低	平	均	月	旬	間	氣	溫	最	池	高	最	水	低	平	均
月	八	下	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	月	九	下	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
旬	中	上	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	旬	中	上	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
間	上	上	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	間	上	上	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
氣	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	氣	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
溫	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	溫	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
最	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	最	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
池	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	池	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
高	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	高	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
最	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	最	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
水	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	水	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
低	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	低	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
平	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	平	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
均	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	均	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七

(B) 蛙卵孵化池 (三面)  
面積三平方米、水深約二〇糎ノ叩池ニシテ池上ニハ細目ノ金網覆ヲ置ク、池水ハ必要ニ應ジ井水ヲ汲ミ込ムモノナリ

(C) 蛸飼育池 (一面)  
面積一七平方米、水深約二〇糎ノ叩池ニシテ池水ハ必要ニ應ジ井水ヲ汲ミ込ムモノナリ  
毎日午前十時觀測池水温次表ノ如シ

月	旬	間	氣	溫	最	池	高	最	水	低	平	均	月	旬	間	氣	溫	最	池	高	最	水	低	平	均
月	七	下	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	月	九	下	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
旬	中	上	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	旬	中	上	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
間	上	上	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	間	上	上	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
氣	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	氣	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
溫	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	溫	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
最	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	最	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
池	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	池	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
高	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	高	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
最	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	最	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
水	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	水	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
低	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	低	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
平	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	平	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
均	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	均	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七

月	旬	間	氣	溫	最	池	高	最	水	低	平	均	月	旬	間	氣	溫	最	池	高	最	水	低	平	均
月	十	下	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	月	十	下	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
旬	中	上	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	旬	中	上	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
間	上	上	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	間	上	上	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
氣	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	氣	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
溫	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	溫	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
最	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	最	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
池	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	池	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
高	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	高	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
最	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	最	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
水	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	水	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
低	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	低	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
平	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	平	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
均	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	均	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七

(D) 仔蛙飼育池  
面積一二平方米、水深約二〇糎ノ叩池ノ周圍ヲ亞鉛板ヲ以テ高サ約一米ニ圍ヒ上部ニ木綿網ヲ張り且池中ノ一部ニハ土ヲ置キテ仔蛙ノ休息場並給餌場ニ充テタリ、注水ハ必要ニ應ジ井水ヲ汲ミ込ムコト、セリ

仔蛙飼育期間中毎日午前十時觀測池水温次表ノ如シ

月	旬	間	氣	溫	最	池	高	最	水	低	平	均	月	旬	間	氣	溫	最	池	高	最	水	低	平	均
月	十	下	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	月	九	下	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
旬	中	上	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	旬	中	上	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
間	上	上	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	間	上	上	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
氣	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	氣	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
溫	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	溫	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
最	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	最	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
池	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	池	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
高	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	高	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
最	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	最	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
水	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	水	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
低	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	低	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
平	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	平	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
均	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	均	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七

(ハ) 親蛙並採卵孵化